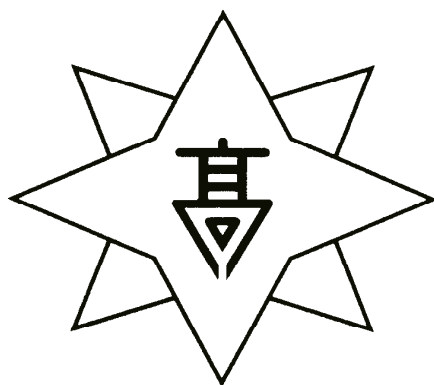


シラバス

令和5年度

第2学年



滋賀県立米原高等学校

目 次

教 科	科 目	学 年	ペ ー ジ
● 2 年			
国 語	文学国語	2 年	1
	論理国語	2 年	5
	古典探究	2 年	8
地歴公民	地理総合	2 年	1 2
	世界史探究	2 年	1 6
	日本史探究	2 年	2 6
数 学	数学Ⅱ	2 年	4 2
	数学Ⅲ	2 年	5 3
	数学B	2 年	5 5
	数学C	2 年	5 8
理 科	物理基礎	2 年	6 0
	物 理	2 年	6 3
	生 物	2 年	6 6
	地学基礎	2 年	6 8
	化 学	2 年	7 2
保健体育	体 育	2 年	7 6
	保 健	2 年	8 0
外国語	英語コミュニケーションⅡ	2 年	8 2
	論理・表現Ⅱ	2 年	8 6
	実践コミュニケーションⅡ	2 年	9 2
情 報	情報Ⅰ	2 年	9 4
理 数	理数数学Ⅱ	2 年	9 6
	理数数学特論	2 年	1 0 3
	理数物理	2 年	1 0 6
	理数生物	2 年	1 0 8
	理数化学	2 年	1 1 0
	理数探究	2 年	1 1 5

科目名	文学国語		学年	類型・コース	単位数
			2 年	普通科文型・英語コース	3
学習の目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。				
使用教材	教科書:『文学国語』(数研出版) 副教材:『新国語便覧』(第一学習社)『字義で覚える常用漢字』(第一学習社) 『イラストとネットワーキングで覚える 現代文単語 げんたん 改訂版』(いっずな書店)『				
評価	評価法	定期考査、小テスト、課題考査、ノート、提出物で評価します。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにしている。	
		b	思考・判断・表現	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。	
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, Cの3段階)及び評定(1～5の5段階)にまとめます。				

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
				a	b	c
1 学期	4	「山月記」 探究の扉「人虎伝」	・本文全体から、虎になる前の李徴の人柄を整理し、文章でまとめる。 ・李徴自身は、自分が虎になったのはなぜだと考えているかをまとめる。 ・作者がこの作品を人間が虎になるという設定にしたのはなぜかを考える。 ・『山月記』と『人虎伝』の内容上の違いを書く。	中間考査 発問評価 小テスト	中間考査 発問評価 (読む) (書く)	プリント 記述点検
	5	「鍋セット」	・「母」に対する「私」の心情は、どのように変化しているかを時系列に沿ってまとめる。 ・「私」にとって、「鍋セット」とは何であったかを考える。	中間考査 発問評価 小テスト	中間考査 発問評価 (読む) (書く)	プリント 記述確認
	中間考査					

	6	「ナイン」	・新道少年野球団のナインについてまとめる。 ・正太郎くんに対して、中村さんと英夫くんは、それぞれどのような思いをいただいているかを説明する。 ・正太郎くんはどのような人物だと考えられるか、本文の出来事を踏まえて説明する。 ・正太郎くんを許した英夫くんと常雄くんの心情は、少年野球大会の決勝で正太郎くんが日陰を作ってくれたエピソードとどのように関連しているかを説明する。	期末考查 発問評価 小テスト	期末考查 発問評価 (読む) (書く)	プリント 記述確認
	7	「小諸なる古城のほとり」 「永訣の朝」 「表札」 「発車」	・「雲白く遊子悲しむ」の悲しみの内容はどのようなものかを説明する。 ・詩を音読し、そのリズムや文語体にどのような印象を受けたかを話し合う。 ・「わたくし」の「いもうと」に対する心情変化を整理する。 ・「松の針」「無声慟哭」も合わせて読み、宮澤賢治の妹への心情や兄妹のつながりについて、感じたことを話し合う。 ・第二連に出てくる二人の「わたし」は、それぞれどのような「わたし」を表しているかを説明する。 ・「ただ あのベルがなりやんだらー」からは、「わたし」のどのような心情がうかがえるかを説明する。 ・この詩を読んで、人間関係について感じたことや考えたことを書く。	期末考查 発問評価 小テスト	期末考查 発問評価 (読む) (書く)	プリント 記述確認
	期末考查					
2 学期	9	「こころ」	・「私(＝先生)」のKに対する心情を整理する。 ・Kが用いた「覚悟」という言葉を「私」はどのように解釈しているかを時間の経過に従ってまとめる。 ・「覚悟」という言葉をKはどのような意味で用いたのかを考える。	中間考查 発問評価 小テスト	中間考查 発問評価 プリント (読む) (書く)	プリント 行動確認 記述確認
	10	「源氏物語」	・Kの手紙の内容をまとめ、Kの自殺の理由を考える。 ・作品の主題を話し合う。 ・三つの現代語訳には、表現上どのような違いがあるか、原文を参照しつつ、比較の観点ごとに分けてまとめる。		期末考查 発問評価 プリント (読む)	
	中間考查					

	11	「物語の終わり」	・「工場を継いでくれ」と頼まれるのと、「拓真のために、お父さんが決めたことなのよ」と言われるのでは、「僕」の心情にはどのような違いが生じるかを考える。 ・「僕」の考える『空の彼方』の結末を読み取る。 ・『空の彼方』を読み思索をめぐらしたことで「僕」が気づいた自身の欠点は、どのようなことかを説明する。 ・『空の彼方』を読む前と、読んだ後で「紙束を置き、カメラを手にとった」ときとで、「僕」の心情はどのように変化したかを説明する。 ・『空の彼方』の結末を自由に考え、八百字程度で書く。 ・山椒魚の心情変化をまとめる。 ・山椒魚と蛙の関係はどのように変化していったかを、それぞれの心情に着目しながらまとめる。 ・この小説を寓意小説と見た場合、人間におけるどのような状況を表しているかを考える。	期末考査 発問評価 小テスト	期末考査 発問評価 (書く)	記述確認 記述確認
	12	「山椒魚」	・山椒魚の考え方や行動について、どのような感想を持ったかを話し合う。	期末考査 発問評価 小テスト	期末考査 発問評価 (読む)	プリント 行動分析
			期末考査			
3 学期	1	「文学のふるさと」	・本文にあげられた三つの物語について、筆者はどのような点に着目しているかをそれぞれまとめる。 ・「そこでは、モラルがない、ということ自体がモラルなのだ」「むごたらしいこと、救いがないということ、それだけが、唯一の救いなのであります」「ふるさととは我々のゆりかごではあるけれども、大人の仕事は、決してふるさとへ帰ることではない」とはどういうことかを、それぞれ説明する。 ・筆者は「文学のふるさと」をどのようなものとしてとらえ、文学をどう扱っていかねばならないと考えているかをまとめる。 ・筆者は「伊勢物語の一つの話」を、どのように評価しているかを二百字以内で書く。	学年末考査 発問評価 小テスト	学年末考査 発問評価 (読む)	プリント 記述確認
	2	「演技する『私』」	・筆者の主張を踏まえて、『雪国』および日本語の特徴をまとめる。 ・近代日本で言文一致体の長所とされたのは、どのようなことであったかをまとめる。	学年末考査 発問評価 小テスト	学年末考査 発問評価 (書く)	プリント 記述確認

			・言文一致体の長所と見なされた背景には、どのような考え方があったかをまとめる。 ・筆者の考えによれば、近代日本で言文一致体の成否を左右した要因は、どのようなことであったかをまとめる。			
		学年末考査				
	3	「短歌」 「俳句」	・それぞれの歌について、句切れやリズムに注意しながら、声に出して読む。 ・それぞれの歌で工夫された表現を確認し、感動の中心はどこかを考える。 ・印象に残った歌を選んで、鑑賞文を二百字程度で書く。 ・それぞれの句について、間のとり方や緩急などを工夫しながら、声に出して読む。 ・それぞれの句で工夫された表現を確認し、感動の中心はどこかを考える。 ・自分でも俳句を作り、クラスで句会を開催する。	発問評価 小テスト	発問評価 小テスト (読む)	プリント 記述確認 行動分析

担当者からのメッセージ(学習方法など)	
教科書冒頭に示されている文学的文章鑑賞の着眼点にあるように、「場面(背景)」・「人物」・「表現」を意識して主題を読み取ります。自分の感覚で読んでいくのではなく、他の部分の表現や描写と関連付けながら、緻密に、論理的に読んでいくという意識をもちましょう。また、漢字・語彙の獲得は普段からの継続した取り組みが必要です。気になる語はすぐに辞書で確認し、身につけていきましょう。	

科目名	論理国語		学年	類型・コース	単位数
			2 年	普通科理型、理数科	2
学習の 目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。				
使用教材	教科書：『精選 論理国語』（数研出版） 副教材：『新国語便覧』（第一学習社）『字義で覚える常用漢字』（第一学習社） 『イラストとネットワーキングで覚える 現代文単語 げんたん 改訂版』（いっずな書店）				
評価	評価法	定期考査、小テスト、課題考査、ノート、提出物で評価します。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにしている。	
		b	思考・判断・表現	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。	
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, Cの3段階)及び評定(1～5の5段階)にまとめます。				

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
				a	b	c
1 学期	4	・チェックポイント[1]〈主張の明確化〉 ・「学問の発見」 ・チェックポイント[2]〈定義と抽象化〉 ・「手の変幻」	・「人はなぜ学ばなければならないか」という問いに対する筆者の考えを根拠とともに読み取る。 ・文章中の例示の内容を踏まえ、自分の経験を具体例とともに述べる。 ・文章中の抽象的な表現の内容を踏まえ、筆者の「芸術」についての考え方に対する自分の考えを述べる。 ・逆説的な表現の内容を理解する。	中間考査 発問評価	中間考査 発問評価 (読む)	記述点検
	5	・「『具体』から『抽象』へ」	・言葉の性質についての筆者の考えを読み取る。 ・筆者の主張を踏まえ、事物を抽象的にとらえることの利点がわかる具体的事例を日常生活の中から考える。	中間考査 発問評価 小テスト	中間考査 発問評価 プリント (読む・書く)	記述点検 プリント
			中間考査			
	6	・「未来世代への責任」	・環境問題について筆者の意見の論理をとらえる。 ・「未来世代への責任」という題で自分の考えを書く。	期末考査 発問評価	期末考査 発問評価	記述確認 プリント

		・「科学・技術の歴史の中での社会」	・科学・技術の歴史を読み取り、『『道具』』としての意味合いを持った科学』の内容を的確にとらえる。 ・科学と社会との関わり方について自分の考えを深める。	小テスト 期末考査 発問評価 小テスト	プリント 期末考査 発問評価 (読む)	記述確認 プリント
	7	・探究の扉「科学の不現場・科学と生命」 ・チェックポイント[4] (文体と構成)	・意味段落のまとまりを意識して読み、各段落の内容、および文章全体の構成をとらえる。 ・筆者の言う「弱い絆」をつくるにはどうしたらよいか、自分の考えをまとめる。	期末考査 発問評価 小テスト	期末考査 発問評価 (書く)	記述確認 プリント
	期末考査					
2 学期	9	・「弱いつながら」 ・チェックポイント[3] (語彙) ・「〈近代〉の入口と出口の間」	・意味段落のまとまりを意識して読み、各段落の内容、および文章全体の構成をとらえる。 ・筆者の言う「弱い絆」をつくるにはどうしたらよいか、自分の考えをまとめる。 ・筆者が考える「問題の本質」の内容を論拠とともに読み取る。 ・「知識循環型社会」の実現のために必要なプロセスと実現に向けての課題について説明する。	中間考査 発問評価 小テスト 中間考査 発問評価 小テスト	中間考査 発問評価 (書く) 中間考査 発問評価 (読む)	記述確認 プリント 記述確認 行動確認
	10	・チェックポイント[5] (情報の視覚化) ・「野生の『クジラ』と人間の『鯨』」	・自然の「普遍的価値」「多面的価値」と、筆者の考える〈環境倫理〉〈環境道徳〉の内容を読み取る。 ・筆者が危惧する現代社会の「食」について具体的な例を挙げて説明する。	中間考査 発問評価 小テスト	中間考査 発問評価 プリント (読む)	記述分析 行動確認
	中間考査					
	11	・「胆力について」 ・「消費されるスポーツ」	・筆者の逆説的言説を理解したうえで、異なる事例を考え、論理的に説明する。 ・「メディア」と「スポーツ」の関係から活動の総体としての「社会」を導くという文章展開をとらえる。 ・文章中の比喩表現や強調表現の内容を理解する。	期末考査 発問評価 期末考査 発問評価 小テスト	期末考査 発問評価 プリント (書く) 期末考査 発問評価 (読む)	記述分析 行動確認 記述確認 プリント 行動確認
	12		・文章内容をWEB記事の内容と関連づけて考察する。	発問評価 小テスト	発問評価 (読む)	プリント 行動確認
	期末考査					
3 学期	1	・「いき」の美学 ・研究の扉『『空気』』と『世間』・『世間』とは何か」	・筆者が述べる「二重構造」「いき」の内容を理解したうえで、現代の日本人の美意識について自分の考えを論じる。 ・《『空気』と『世間』》と《『世間』とは何か》を読み比べたうえで、「世間」と「社会」という「ダブルスタンダードを生きる日本人」について考察し、意見をまとめることができる。	学年末考査 発問評価 学年末考査 発問評価	学年末考査 (読む) 発問評価 学年末考査 発問評価 (書く)	記述分析 プリント 行動分析 記述分析
	2	・『『内的成長』社会へ』	・現代日本社会における「中間社会」の現状と課題を読み取る。 ・哲学的な意味を持つ語句について、その内容を理解する。	学年末考査 発問評価	学年末考査 発問評価 (読む)	記述確認 プリント

学年末考査				小論文原稿	(書く) 小論文原稿 (火 ky)	小論文原稿
3	・「小論文を書く」	・文章の筆者の意図をとらえ、批評する。 ・文章の組立てや進め方を工夫して書く。 ・自分や他の生徒が書いた文章を評価し、直すべき点を明らかにする。 ・相互評価がもつ機能を認識し、自分の表現を改善する。				

担当者からのメッセージ(学習方法など)

2年生では、1年生で学んだ論理的な読み方を更に深めていきます。様々なジャンルの文章を読みながら、本文の要旨を捉えることを心掛けましょう。また、複数の情報や資料と本文の関連性を意識することも大切です。日頃から、広い視野で物事を捉え、事象の関連性を考え、異なる視点で物事を捉えなおす練習をしておきましょう。また、漢字・語彙の獲得は普段からの継続した取り組みが必要です。気になる語はすぐに辞書で確認しましょう。

科目名	古典探究		学年	類型・コース	単位数
			2 年	普通科・理数科	3
学習の 目標	＊生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 ＊論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ＊言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。				
使用教材	教科書:『古典探究 古文編』『古典探究 漢文編』(数研出版) 副教材:『古典常識も学べる 新明説総合古典文法』(尚文出版) 『句法と語彙を一緒に学ぶ 新明説漢文』(尚文出版) 『イラストとシーンでおぼえる LOOK@古文単語 337』(京都書房) 『句法をマスターする 漢文クリアノート』(尚文出版) 『新版六訂 カラー版 新国語便覧』(第一学習社)				
評価	評価法	定期考査、小テスト、課題考査、ノート、提出物で評価します。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにしている。	
		b	思考・判断・表現	「読むこと」の領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典を通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで古典に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。	
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, Cの3段階)及び評定(1～5の5段階)にまとめます。				

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
				a	b	c
1学期	4	『十訓抄』 「大江山」	*歌で小式部内侍が伝えようとしたことを説明する。 *「返歌にも及ばず、袖を引き放ちて、逃げられけり」は、誰がなぜそのようにしたのか説明する。	中間考査	中間考査 発問評価	課題 グループワーク
		『沙石集』 「兼盛と忠見」	*『沙石集』の編者が、忠見のあり方をどのように評価しているか説明する。	中間考査	中間考査 発問評価	課題 ノート

	5	買履忘度 江南橘為江北枳	＊古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深める。 ＊句法や語彙を正確に理解し、適切な現代語訳する。 ＊作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。	中間考查	中間考查 発問評価	課題 ノート
	中間考查			期末考查	期末考查 発問評価	課題 ノート
	6	『伊勢物語』 「渚の院」	＊歌物語の基本的な構成や助動詞の用法について復習する。 ＊三組の歌がどのようにやりとりされているのか、それぞれの関係を考える。 ＊敬語の基礎を習得するとともに古典文法、付属語の理解のもとに適切な現代語訳をする。			
		『大和物語』 「をばすて山」	＊「男」が「をば」を捨ててに至った経過を整理する。 ＊「をば」を捨てた後再び迎えに行くまでの「男」の心情はどのようなものだったか、話し合う。			
	7	『孟子』 「不忍人之心」 「性善」 『荀子』「性悪」	＊句法や語彙を正確に理解し、適切な現代語訳ができる。 ＊孔子の思想を受けて儒家の思想がどのように展開したのかを理解する。 ＊二つの儒家の思想について、これまでに習得した語法や句法の知識を駆使し、論理を正確に読み取る。	期末考查	期末考查 発問評価	課題 ノート
期末考查						
2 学期	9	『更級日記』 「東路の道の果て」	＊作者が『源氏物語』を読むことに没頭していることがわかる表現を抜き出し、そのときの気持ちを考える。 ＊「人知れずうち泣かれぬ」という作者の気持ちを説明する。	中間考查	中間考查 発問評価	課題 ノート グループ ワーク
		「物語」	＊作者が『源氏物語』を読むことに没頭していることがわかる表現を抜き出し、そのときの気持ちを考える。 ＊「いとはかなく、あさまし」というのは、いつの時点のどのような気持ちを表現したのか、考える。 ＊『源氏物語』に登場する「夕顔」や「浮舟」がどのような女性なのか調べ、作者がこの二人を取り上げた理由を考える。	中間考查	中間考查 発問評価	課題 ノート

	10	「漁父辞」	＊句法が理解できるとともに、対になる表現に留意しながら現代語訳する。 ＊登場人物それぞれの意見の違いが理解でき、それについて意見が交換する。	中間考查	中間考查 発問評価	ノート グループ ワーク
	中間考查			期末考查	期末考查 発問評価	課題 ノート
	11	『源氏物語』 「光源氏誕生」 「小柴垣のもと」	＊著名な古典文学作品である『源氏物語』やその作者について、関心を持ち、深く知る。 ＊帝が「桐壺の更衣」を寵愛することに対し、まわりの人々はどう思ったか、説明する。 ＊「一の皇子」と「玉の男皇子」とに対する帝の接し方の違いを説明する。 ＊帝・桐壺の更衣・弘徽殿の女御の人物像について考える。 ＊「生ひ立たむ……」と「初草の……」の歌について、「若草」「露」「初草」が何をたとえているか、それぞれの歌は何を訴えようとしているか、説明する。 ＊光源氏は「女子」のどこに興味をひかれているのか、説明する。			
	12	『史記』 「鴻門之会」	＊著名な逸話について興味を持ち、内容を深く知る。 ＊登場人物の関係について理解し、その行動の意図について読み取る。	期末考查	期末考查 発問評価	課題 ノート
	期末考查					
3 学期	1	「四面楚歌」 「項王自刎」	＊語句の意味や句法を理解し、正しく現代語訳する。 ＊場面を正確に理解し、登場人物の状況について読み取り、その感情について考える。	学年末 考查	学年末 考查	ノート グループ ワーク
	2	『大鏡』 「花山天皇の出家」	＊二方面に対する敬語、二重敬語、最高敬語について理解し、適切な現代語訳をする。 ＊登場人物の感情の機微を読み取り、理解する。 ＊登場人物の行動とそこから浮かび上がる人物像について考察する。 ＊「さり」と「さりとて」「さりととも」「さること」の「さり」「さる」が指す内容を説明する。 ＊花山天皇の出家はどのように行われたのか、道兼の行動に注意しながらまとめる。 ＊花山天皇と道兼の人物像をまとめる。 ＊歴史物語に描かれている登場人物について、史実も参考にしながら話し合う。	学年末考 査	学年末考 査	ノート グループ ワーク

		『大鏡』 「三船の才」	＊本文を「出来事」「事後の公任の感想」「語り手の感想」の部分に分ける。 ＊「かばかりの詩……まさりなまし」という言葉が発せられた理由について説明する。 ＊「小倉山……」の和歌はどのような点が評価されたのか、考える。	学年末考 査	学年末考 査	課題 ノート
		学年末考査				
	3	『方丈記』 「ゆく河の流れ」 『平家物語』 「忠度の都落ち」	＊筆者の無常観や人生観を読み取る。 ＊「世の中にある人と栖と、またかくのごとし」について、「人と栖」が何とどのように同じなのか、説明する。 ＊軍記物語というジャンルについて、文学史的な位置づけも含めて知る。 ＊忠度が俊成のもとを訪れた際の、俊成とその家人との反応の違いについて説明する。 ＊「情けもすぐれて深う、あはれもことに思ひ知られて」について、俊成は忠度のどういうところについて、このように述べているのか説明する。 ＊敬語、音便などの理解のもと、関心を持って読解する。また、音読により文章の調子にも関心を向ける。	発問評価 小テスト	発問評価 小テスト	課題 ノート プリント

担当者からのメッセージ(学習方法など)

2年生の古典探究では、これまで以上に予習復習を怠ることなく着実な努力を重ねることが求められます。予習の際には辞書や文法書を使って本文の語順に沿った現代語訳をするようにしてください。古文を自力で読めるようになるには、古典文法・古文常識についての知識、古文単語の習得は必須です。古文単語帳の単語は、多義語についても2年生のうちにマスターしておきましょう。漢文についても同様に句法や用字、漢文の常識語を日々の予習・授業・復習のサイクルで身につけましょう。地道な努力で身につけた知識があつてこそ古文で書かれた文章や物語を味わうことができます。ただの知識・技能の習得だけでなく、現代を生きる我々に共通する思いや考え方を見いだすなど意欲的に学習してくれることを期待しています。

科目名	地理総合		学年	類型・コース	単位数
			2 年	普通科、理数科	2
学習の目標	①世界各地の自然環境や産業、地域的な課題などについて幅広く理解する。【知識・技能】 ②地図や地理情報システムなどを用いることで、汎用的で実践的な地理的技能を習得する。【知識・技能】 ③持続可能な社会づくりを目指し、環境条件と人間の営みとの関わりに着目して現代の地理的な諸課題を考察する。【思考・判断・表現】 ④グローバルな視座から国際理解や国際協力の在り方を、地域的な視座から防災などの諸課題への対応を考察する。【思考・判断・表現】 ⑤グローバル化や情報化、少子高齢化など、急激な社会の変化を地理的な視点でとらえながら、主体的に地域社会や国際社会の形成に参画する態度が身に付ける。【主体的に学習に取り組む態度】				
使用教材	教科書：『高等学校 新地理総合』（帝国書院） 『詳解現代地図 最新版』（二宮書店） 副教材：『新詳地理資料 COMPLETE2023』（帝国書院） 『ウィニングコンパス 地理の整理と演習 2023』（東京法令出版株式会社）				
評価	評価法	定期考査、ノート（授業プリント・ワークシートを含む）、振り返りシート			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	知識・技能の評価は、上記の学習目標①・②が達成できているかどうかという観点から行う。その趣旨は、地理的な知識・技能の習得を通じて、地理的認識を深めることができたかを測るものである。	
		b	思考・判断・表現	思考・判断・表現の評価は、上記の学習目標③・④が達成できているかどうかという観点から行う。その趣旨は、地理的な考察を通じて、地理的認識を深めることができたかを測るものである。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	主体的に学習に取り組む態度の評価は、上記の学習目標⑤が達成できているかどうかという観点から行う。その趣旨は、主体的な学習を通じて、社会の形成に参画する態度を養おうとしているかを測るものである。	
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価（A, B, C の 3 段階）及び評定（1～5 の 5 段階）にまとめます。				

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
				a	b	c
1 学期	4	第1部 地図でとらえる現代世界 第1章 地図と地理情報システム	①日常生活の中でみられるさまざまな地図の読図などを基に、地図や地理情報システムの役割や有用性などについて理解する。 現代世界のさまざまな地理情報について、地図や地理情報システムなどを用いて、その情報を収集し、読み取り、まとめる基礎的・基本的な技能を身に付ける。 ②地図や地理情報システムについて、位置や範囲、縮尺などに着目して、目的や用途、内容、適切な活用の仕方などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ③地図や地理情報システムについて、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。	定期考査	定期考査	ノート 振り返り シート
	5	第2章 結び付きを深める現代世界 第2部 国際理解と国際協力 第1章 生活文化の多様性と国際理解 序説 生活文化の多様性	①現代世界の地域構成を示したさまざまな地図の読図などを基に、方位や時差、日本の位置と領域、国内や国家間の結び付きなどについて理解する。 ②現代世界の地域構成について、位置や範囲などに着目して、主題を設定し、世界的視野から見た日本の位置、国内や国家間の結び付きなどを多面的・多角的に考察し、表現する。 ③現代世界の地域構成について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。			
			中間考査			
	6	1節 世界の地形と人々の生活 2節 世界の気候と人々の生活	①世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解する。			
	7	3節 世界の言語・宗教と人々の生活	世界の人々の特色ある生活文化を基に、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解している。 ②世界の人々の生活文化について、その生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ③生活文化の多様性と国際理解について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体			

			的に追究, 解決しようとする態度を養う。			
		期末考査				
2 学 期	9	4 節 歴史的背 景と人々の生活 5 節 世界の産 業と人々の生活	①世界の人々の特色ある生活文化を基に, 人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり, 影響を与えたりして多様性をもつことや, 地理的環境の変化によって変容することなどについて理解する。世界の人々の特色ある生活文化を基に, 自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解している。 ②世界の人々の生活文化について, その生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して, 主題を設定し, 多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し, 表現する。 ③生活文化の多様性と国際理解について, よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究, 解決しようとする態度を養う。	定期考査	定期考査	ノート 振り返り シート
	10	第 2 章 地球的 課題と国際協力 1 節 複雑に絡 み合う地球的課 題 2 節 地球環境 問題	①世界各地で見られる地球環境問題, 資源・エネルギー問題, 人口・食料問題及び居住・都市問題などを基に, 地球的課題の各地で共通する傾向性や課題相互の関連性などについて大観し理解する。 世界各地で見られる地球環境問題, 資源・エネルギー問題, 人口・食料問題及び居住・都市問題などを基に, 地球的課題の解決には持続可能な社会の実現を目指した各国の取り組みや国際協力が必要であることなどについて理解する。 ②世界各地で見られる地球環境問題, 資源・エネルギー問題, 人口・食料問題及び居住・都市問題などの地球的課題について, 地域の結び付きや持続可能な社会づくりなどに着目して, 主題を設定し, 現状や要因, 解決の方向性などを多面的・多角的に考察し, 表現する。 ③地球的課題と国際協力について, よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究, 解決しようとする態度を養う。			
		中間考査				
	11	3 節 資源・エネ ルギー問題 4 節 人口問題 5 節 食料問題	10 月の学習の目標と同じ			
	12	6 節 都市・居住	10 月の学習の目標と同じ			

		問題				
		期末考査				
3 学期	1	第 3 部 持続可能な地域づくりと私たち 第 1 章 自然環境と防災 1 節 日本の自然環境 2 節 地震・津波と防災 3 節 火山災害と防災	①我が国をはじめ世界で見られる自然災害や生徒の生活圏で見られる自然災害を基に、地域の自然環境の特色と自然災害への備えや対応との関わりとともに、自然災害の規模や頻度、地域性を踏まえた備えや対応の重要性などについて理解する。 さまざまな自然災害に対応したハザードマップや新旧地形図をはじめとする各種の地理情報について、その情報を収集し、読み取り、まとめる地理的技能を身に付ける。 ②地域性を踏まえた防災について、自然及び社会的条件との関わり、地域の共通点や差異、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、自然災害への備えや対応などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ③自然環境と防災について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。	定期考査	定期考査	ノート 振り返り シート
	2	4 節 気象災害と防災 5 節 自然災害への備え				
	学年末考査					
	3	第 2 章 生活圏の調査と地域の展望 1 節 生活圏の調査と地域の展望	①生活圏の調査を基に、地理的な課題の解決に向けた取り組みや探究する手法などについて理解する。 ②生活圏の地理的な課題について、生活圏内や生活圏外との結び付き、地域の成り立ちや変容、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、課題解決に求められる取り組みなどを多面的・多角的に考察、構想し、表現する。 ③生活圏の調査と地域の展望について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。			

担当者からのメッセージ(学習方法など)

地理の分野では、地図やグラフ、統計などの読み取りを通じて、世界各地の特色や課題を把握していきます。また、「なぜそのような特色や課題が現れてくるのか」ということについて考察を深めることで、地理的認識や論理的思考力を育成します。最後には、地域社会や国際社会の課題について、自分なりに考えて社会に参画する力を身に付けていきましょう。

科目名	世界史探究		学年	類型・コース	単位数
			2 年	普通科文型	4
学習の目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追求したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、諸地域の歴史的特質の形成や諸地域の交流・再編、諸地域の結合・変容という大きな枠組みをもとに、世界の歴史を大きく捉える。				
使用教材	教科書:『新詳 世界史探究』(帝国書院) 副教材:『新詳 世界史探究演習ノート』(帝国書院)『世界史重要語句CheckList』(啓隆社) 『グローバルワイド 最新世界史図表』(第一学習社)				
評価	評価法	定期考査、小テスト、ノート(授業プリント・ワークシート等)、ワークブック、振り返りシート			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	①世界の歴史の大きな枠組みと展開に関する諸事情について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解している。 ②諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能が身についている。	
		b	思考・判断・表現	①世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察できている。 ②歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力が身についている。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度が身についている。	
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, Cの3段階)及び評定(1～5の5段階)にまとめます。				

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
				a	b	c

1 学期	4	1部1章 地球環境からみる人類の歴史 2章 日常生活からみる世界の歴史 2部1章 東アジアと中央ユーラシアの歴史的特質	①人類が、地球の環境に適応しながら文化や文明を生みだしていったことを理解している。 ②地球環境の変化と生物や人類の歴史の関連について考察し、自分の言葉で表現している。 ①私たちの日常世界が、歴史と深く関係していることを理解している。 ③身近な環境と歴史の関係を主体的に追究しようとしている。 ①東アジアと中央ユーラシアの歴史的特質を理解している。 ②東アジアと中央ユーラシアの歴史的特質について考察し、自分の言葉で表現している。 ③東アジアと中央ユーラシアの歴史的特質を主体的に追究しようとしている。	定期 考 査 小 テ ス ト	定期 考 査 振 り 返 り シ ー ト	ノート 振 り 返 り シ ー ト ワ ー ク ブ ック
	5	2章 南アジアと東南アジアの歴史的特質	①南アジアと東南アジアの歴史的特質を理解している。 ②南アジアと東南アジアの歴史的特質について考察し、両者の共通点や相違点を挙げながら自分の言葉で表現している。 ③東南アジアの歴史的特質を主体的に追究しようとしている。			
	中間考査					
	6	3章 西アジアと地中海周辺の歴史的特質 節 ユーラシアの変動と東アジア	①西アジアと地中海周辺の歴史的特質を理解している。 ②西アジアと地中海地域周辺の歴史的な特質について考察し、自分の言葉で表現している。 ③西アジアと地中海地域周辺の歴史的特質を主体的に追究しようとしている。			
	7	3部 1章 ユーラシア大交流圏の成立	①イスラームとモンゴルによって形成された陸と海のネットワークを理解している。 ②イスラームとモンゴルによるネットワークの広がりやユーラシアや諸地域をどのように変えたのかについて考察し、自分の言葉で表現している。 ③ユーラシア大陸をつなぐネットワークについての理解を主体的に追究しようとしている。			
期末考査						
2 学期	9	2章 アジア諸地域の成熟とヨーロッパの進出	①14～17世紀にかけてアジア諸地域間の交易が拡大したことを理解している。 ②交易の拡大による諸地域の変化のうち、最も大きな変化について根拠を示しながら自分なり	定期 考 査 小 テ ス ト	定期 考 査 振 り 返 り シ ー ト	ノート 振 り 返 り シ ー ト ワ ー ク

		3章 主権国家体制の成立と交易の拡大	に評価し、表現している。 ③アジア諸地域間の交流について主体的に追究しようとしている。 ①17～18 世紀のヨーロッパの社会構造の変化を理解している。 ②17～18 世紀のヨーロッパの社会構造の変化に大きな影響を与えたものは何かについて考察し、自分の言葉で表現している。 ③17～18 世紀のヨーロッパの社会構造の変化を主体的に追究しようとしている。			ブック
10	4 部 1章 環大西洋革命～工業文明と国民国家の誕生	①大西洋を取り巻く地域で起こった革命が、各地の社会構造に与えた影響を理解している。 ②大西洋を取り巻く地域で起こった革命が、各地の社会構造に与えた影響について考察し、自分の言葉で表現している。 ③大西洋を取り巻く地域で起こった革命が、各地の社会構造に与えた影響を主体的に追究しようとしている。				
中間考査						
11	2章 イギリスの覇権と欧米の国民国家建設 3章 世界の一体化の進展とアジアの変容	①イギリスの覇権が欧米諸国に与えた影響を理解している。 ②国民国家形成の前後で、欧米諸国に生じた変化について考察し、自分の言葉で表現している。 ③イギリスの覇権が欧米諸国に与えた影響を主体的に追究しようとしている。 ①「西洋の衝撃」がアジア諸地域に与えた影響を理解している。 ②「西洋の衝撃」によるアジアの変化で、最も重大だということについて、根拠を示しながら自分なりに評価し、表現している。 ③「西洋の衝撃」がアジア諸地域に与えた影響を主体的に追究しようとしている。				
12	4章 世界の一体化の完成とその影響	①帝国主義が世界各地に与えた変化について、理解している。 ②帝国主義が世界各地に与えた変化について、欧米およびアジア・アフリカ・オセアニアの各地域ごとに考察し、表現している。 ③帝国主義が各地に与えた変化について、主体的に追究しようとしている。				
期末考査						

3 学期	1	5章 世界大戦の時代 6章 戦後の国際秩序と冷戦	①二度の世界大戦が起こった理由を理解している。 ②第一次世界大戦の反省を踏まえた平和への取り組みは成功せず、第二次世界大戦が起こった理由について考察し、表現している。 ③二度の世界大戦が起こった理由を主体的に追究しようとしている。 ①第二次世界大戦と冷戦構造の関係について理解している。 ②冷戦構造が形成されるなかで、アメリカ・ソ連・ヨーロッパ・第三勢力諸国の動きが冷戦構造に与えた影響について考察し、自分の言葉で表現している。 ③冷戦構造が世界にもたらした影響を主体的に追究しようとしている。	定期考査 小テスト	定期考査 振り返りシート	ノート 振り返りシート ワークブック
	2	5部 1章 冷戦の展開と平和の模索 2章 グローバル化する国際経済とその課題	①冷戦期から現在まで世界各地で発生した紛争を理解している。 ③冷戦期から現在までの紛争の原因と解決方法について、共通点や相違点に着目しながら考察し、課題解決の方法を主体的に追究しようとしている。 ①冷戦終結後に、グローバル化が進んだ状況を理解している。 ②冷戦終結以降のグローバル化がもたらした功績と課題、その課題が生じた理由について考察し、表現している。			
	学年末考査					
	3	3章 情報と科学技術によって結びつく世界 4章 地球世界の課題の探究	①科学技術の高度化と知識基盤社会の進展について理解している。 ③科学技術の高度化と知識基盤社会の進展は、私たちの生活にどのような影響や課題を与えているのか、歴史的経緯を踏まえて考察し、今後の科学と世界のあり方について主体的に追究しようとしている。 ②これまでの学習を踏まえて、主題を設定し、動機についても示しながら、よりよい社会実現のための仮説を表現している。 ③地球世界の課題について、歴史的な経緯を踏まえながら考察し、解決に向けて主体的に追究しようとしている。			

担当者からのメッセージ(学習方法など)
「世界史探究」では、古代から現代まで世界の歴史の流れを、日本の歴史と関連付けながら学んでいきます。『歴史総合』から引き続き、「なぜ？」という疑問を大切に授業に臨んでください。小テストなどで重要事項を覚えた上で、歴史の流れを説明する力を身につけ、現代社会の課題についても自分自身の力で考えていきましょう。

科目名		世界史探究		学年	類型・コース	単位数		
				2 年	普通科英語コース	3		
学習の目標		社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追求したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、諸地域の歴史的特質の形成や諸地域の交流・再編、諸地域の結合・変容という大きな枠組みをもとに、世界の歴史を大きく捉える。						
使用教材		教科書:『新詳 世界史探究』(帝国書院) 副教材:『新詳 世界史探究演習ノート』(帝国書院)『世界史重要語句CheckList』(啓隆社) 『グローバルワイド 最新世界史図表』(第一学習社)						
評価		評価法	定期考査、小テスト、ノート(授業プリント・ワークシート等)、振り返りシート、ワークブック					
		評価観点の趣旨	a	知識・技能	①世界の歴史の大きな枠組みと展開に関する諸事情について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解している。 ②諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能が身についている。			
			b	思考・判断・表現	①世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察できている。 ②歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力が身についている。			
			c	主体的に学習に取り組む態度	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度が身についている。			
		上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, Cの3段階)及び評定(1～5の5段階)にまとめます。						
期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)			評価方法		
						a	b	c

1 学期	4	1 部 世界史へのまなざし 1 章 地球環境からみる人類の歴史 2 章 日常生活からみる世界の歴史 2 部 1 章 東アジアと中央ユーラシアの歴史的特質	①人類が、地球の環境に適応しながら文化や文明を生みだしていったことを理解している。 ①私たちの日常世界が、歴史と深く関係していることを理解している。 ③身近な環境と歴史の関係を主体的に追究しようとしている。 ①東アジアと中央ユーラシアの歴史的特質を理解している。 ②東アジアと中央ユーラシアの歴史的特質について考察し、自分の言葉で表現している。 ③東アジアと中央ユーラシアの歴史的特質を主体的に追究しようとしている。	定 期 考 査 小テスト	定 期 考 査 振り返り シート	ノート 振り返り シート ワークブ ック
	5	2 章 南アジアと東南アジアの歴史的特質	①南アジアと東南アジアの歴史的特質を理解している。 ②南アジアと東南アジアの歴史的特質について考察し、両者の共通点や相違点を挙げながら自分の言葉で表現している。 ③東南アジアの歴史的特質を主体的に追究しようとしている。			
	中間考查					
	6	3 章 西アジアと地中海周辺の歴史的特質 節 ユーラシアの変動と東アジア	①西アジアと地中海周辺の歴史的特質を理解している。 ②西アジアと地中海地域周辺の歴史的な特質について考察し、自分の言葉で表現している。 ③西アジアと地中海地域周辺の歴史的特質を主体的に追究しようとしている。			
	7	3 部 1 章 ユーラシア大交流圏の成立	①イスラームとモンゴルによって形成された陸と海のネットワークを理解している。 ②イスラームとモンゴルによるネットワークの広がりやユーラシアや諸地域をどのように変えたのかについて考察し、自分の言葉で表現している。 ③ユーラシア大陸をつなぐネットワークについての理解を主体的に追究しようとしている。			
期末考查						
2 学期	9	2 章 アジア諸地域の成熟とヨーロッパの進出	①14～17 世紀にかけてアジア諸地域間の交易が拡大したことを理解している。 ②交易の拡大による諸地域の変化のうち、最も大きな変化について根拠を示しながら自分なり	定 期 考 査 小テスト	定 期 考 査 振り返り シート	ノート 振り返り シート ワークブ

		に評価し、表現している。 ③アジア諸地域間の交流について主体的に追究しようとしている。			ック
10	3章 主権国家体制の成立と交易の拡大	①17～18 世紀のヨーロッパの社会構造の変化を理解している。 ②17～18 世紀のヨーロッパの社会構造の変化に大きな影響を与えたものは何かについて考察し、自分の言葉で表現している。 ③17～18 世紀のヨーロッパの社会構造の変化を主体的に追究しようとしている。			
中間考查					
11	4部 1章 環大西洋革命～工業文明と国民国家の誕生 2章 イギリスの覇権と欧米の国民国家建設	①大西洋を取り巻く地域で起こった革命が、各地の社会構造に与えた影響を理解している。 ②大西洋を取り巻く地域で起こった革命が、各地の社会構造に与えた影響について考察し、自分の言葉で表現している。 ③大西洋を取り巻く地域で起こった革命が、各地の社会構造に与えた影響を主体的に追究しようとしている。 ①イギリスの覇権が欧米諸国に与えた影響を理解している。 ②国民国家形成の前後で、欧米諸国に生じた変化について考察し、自分の言葉で表現している。 ③イギリスの覇権が欧米諸国に与えた影響を主体的に追究しようとしている。			
12	3章 世界の一体化の進展とアジアの変容	①「西洋の衝撃」がアジア諸地域に与えた影響を理解している。 ②「西洋の衝撃」によるアジアの変化で、最も重大だと思うことについて、根拠を示しながら自分なりに評価し、表現している。 ③「西洋の衝撃」がアジア諸地域に与えた影響を主体的に追究しようとしている。			
期末考查					

3 学期	1	4章 世界の一体化の完成とその影響 5章 世界大戦の時代	①帝国主義が世界各地に与えた変化について、理解している。 ②帝国主義が世界各地に与えた変化について、欧米およびアジア・アフリカ・オセアニアの各地域ごとに考察し、表現している。 ③帝国主義が各地に与えた変化について、主体的に追究しようとしている。 ①二度の世界大戦が起こった理由を理解している。 ②第一次世界大戦の反省を踏まえた平和への取り組みは成功せず、第二次世界大戦が起こった理由について考察し、表現している。 ③二度の世界大戦が起こった理由を主体的に追究しようとしている。	定期考 査 小テスト	定期考 査 振り返り シート	ノート 振り返り シート ワークブ ック
	2	6章 戦後の国際秩序と冷戦 5部 1章 冷戦の展開と平和の模索	①第二次世界大戦と冷戦構造の関係について理解している。 ②冷戦構造が形成されるなかで、アメリカ・ソ連・ヨーロッパ・第三勢力諸国の動きが冷戦構造に与えた影響について考察し、自分の言葉で表現している。 ③冷戦構造が世界にもたらした影響を主体的に追究しようとしている。 ①冷戦期から現在まで世界各地で発生した紛争を理解している。 ③冷戦期から現在までの紛争の原因と解決方法について、共通点や相違点に着目しながら考察し、課題解決の方法を主体的に追究しようとしている。			
	学年末考查					
	3	2章 グローバル経済の光と影 3章 情報と科学技術によって結びつく世界 4章 地球世界の課題の探究	①冷戦終結後に、グローバル化が進んだ状況を理解している。 ②冷戦終結以降のグローバル化がもたらした功績と課題、その課題が生じた理由について考察し、表現している。 ①科学技術の高度化と知識基盤社会の進展について理解している。 ③科学技術の高度化と知識基盤社会の進展は、私たちの生活にどのような影響や課題を与えているのか、主体的に追究しようとしている。 ②これまでの学習を踏まえて、主題を設定し、動機についても示しながら、よりよい社会実現のた			

			めの仮説を表現している。 ③地球世界の課題について、歴史的な経緯を踏まえながら考察し、解決に向けて主体的に追究しようとしている。			
--	--	--	--	--	--	--

担当者からのメッセージ(学習方法など)						
「世界史探究」では、古代から現代まで世界の歴史の流れを、日本の歴史と関連付けながら学んでいきます。『歴史総合』から引き続き、「なぜ？」という疑問を大切に授業に臨んでください。小テストなどで重要事項を覚えた上で、歴史の流れを説明する力を身につけ、現代社会の課題についても自分自身の力で考えていきましょう。						

科目名	日本史探究		学年	類型・コース	単位数
			2 年	普通科文型	4
学習の目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。				
使用教材	教科書:『詳説日本史』(山川出版社) 副教材:『図説日本史通覧』(帝国書院) 『ウィニングコンパス日本史の整理と演習』(東京法令出版)				
評価	評価法	中間考査 期末考査 ノート・ファイル等の提出物 小テスト			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	
		b	思考・判断・表現	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。	
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, Cの3段階)及び評定(1～5の5段階)にまとめます。				

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
				a	b	c
1学期	4	第1章日本文化のあけぼの 第2章古墳とヤマト政権	①人類文化の発生を考え、日本列島における旧石器文化・縄文文化の時代の社会を理解する。 ②打製石器・磨製石器・縄文土器の発掘、竪穴住居の状況など考古学の成果によって教科書の叙述が成り立っていることに気づく。 ＊歴史資料と原子・古代の展望 ①地域の首長の出現から統一国家に至る過程を、古墳の変容からとらえる。 ②ヤマト政権による国家の形成過程について、東アジア世界との関係を踏まえて考察する。 ③古墳時代後期から終末期の変容と、ヤマト政権の政治制度を理解する。 ④ヤマト政権の権力争いや大陸文化の摂取に着目して、飛鳥時代を考察する。 ⑤飛鳥文化に世界の諸地域の文化の影響がみられることを理解する。	定期 考 査	定期 考 査	ノート・ファイル等の提出物
	5	第3章律令国家の形成	①律令国家が成立するまでの政治過程について考察する。 ②律令にもとづく国内統治体制について理解する。 ③律令体制の完成期としての奈良時代を、律令体制の状況を多角的・多面的にとらえて考察する。 ④平城京における政治動向について、土地政策も含めて考察する。 ⑤律令国家の成立期に当たる白鳳文化の形成過程について考察する。 ⑥天平文化における政治性と国際性、国家仏教の展開などに着目して、古代国家の展開を理解する。 ⑦平安前期を中心とした古代国家の推移について、東北経営や政治改革、地方統治の変容を踏まえて、律令体制の変質を考察する。 ⑧東アジアとの関係を踏まえて、唐風文化である弘仁・貞観文化を理解する。			
			中間考査			
	6	第4章貴族政治の展開	①藤原氏による摂関政治の成立過程と政治運営への影響について考察する。 ②日本と東アジアとの関係において、民間の貿易や交流が中心となったことをとらえる。 ③大陸文化の消化と末法思想を前提とした新しい貴族			

			文化として、国風文化が展開されたことを理解する。 ④摂関政治の在り方と文化の展開に、どのような関係があるかを考察する。 ⑤律令制にもとづく地方統治体制の崩れへの対応が、公領支配の変質、荘園の拡大をもたらした経過を考察する。 ⑥地方の反乱やその鎮圧など、武士の成長過程について、源氏などを例にとって考察する。			
	7	第5章 院政と武士の躍進 第6章 武家政権の成立	①院政期前後の土地支配形態を踏まえて、院政期の政治・経済・社会・文化を理解する。 ②外戚関係や人材登用など、後三条天皇が摂関家に遠慮せず改革を進めた背景を考察する。 ③政治の動向、国際関係・経済・文化への対応を踏まえて、平氏政権の特性について考察する。 ④古代から中世への変化について考察し、時代を通観する問いを表現する。 *歴史資料と中世の展望 ①鎌倉幕府が東国の地方政権から全国的な武家政権に成長していく過程を理解する。 ②鎌倉幕府の成立時期をめぐる諸説に関して、それぞれの根拠を明確にして考察する。 ③承久の乱にともなう公武関係の変化に着目して、将軍独裁体制から執権政治の確立に至る過程を理解する。 ④武士の生活と地方支配を通じて、土地に対する実質的な支配権を地頭が掌握するに至った過程を考察する。 ⑤モンゴル襲来による政治・経済・文化への影響が、幕府の衰退につながっていくことを理解する。 ⑥非御家人に対する権限拡大など、幕府勢力が西国に浸透したことの意義を考察する。 ⑦庶民や武士の活動が活発化し、鎌倉仏教が成立するなど、文化の新しい気運が生まれたことを理解する。 ⑧伝統的な公家文化の世界で、有職故実・古典研究などの学問が進展した背景を考察する。			
		期末考查				
2 学期	9	第7章 武家社会の成長	①南北朝の動乱から室町幕府の成立と安定について、日本諸地域の動向などを踏まえて考察する。 ②琉球・蝦夷ヶ島を含む東アジアとの交流が中世日本にもたらした影響について理解する。 ③庶民の活動が社会秩序の変革の原動力として成長していったことを踏まえて、幕府の動揺や下剋上の風潮を	定期 考 査	定期 考 査	ノート・ ファイル 等の提出物

		考察する。 ④諸産業の発達による庶民の台頭を踏まえて、中世社会の多様な展開を幅広く理解する。 ⑤武家政権の支配の進展や東アジア世界との交流に着目して、武家文化と公家文化および、大陸文化と伝統文化の関わりについて理解する。 ⑥庶民文化の萌芽や、応仁の乱を契機とした文化の地方伝播、戦国大名の保護による文化の地方普及を理解する。 ⑦応仁の乱以降、地方権力として登場した戦国大名や各地に展開した都市について、諸地域の地理的条件と関連づけて考察する。			
10	第 8 章 近世の幕開け	①大航海時代と呼ばれる世界史的背景を踏まえて、ヨーロッパ人の東アジアへの進出とその影響を考察する。 ②織田信長の統一事業、豊臣秀吉の天下統一、秀吉の朝鮮侵略と続く織豊政権の特色と意義、その後の時代への影響について理解する。 ③新興の大名や都市の豪商の精神を反映した桃山文化について、町衆の生活にも着目し、時代的背景を踏まえて考察する。 ④中世から近世への変化について考察し、時代を通観する問いを表現する。			
中間考査					
11	第 9 章 幕藩体制の成立と展開	* 歴史資料と近世の展望 ①江戸幕府の成立による幕藩体制の確立過程を理解する。 ②江戸幕府の鎖国政策について、単なる対外貿易の遮断ではないことを理解し、鎖国後の貿易関係の在り方も含めてその影響と歴史的意義について考察する。 ③幕藩体制の確立期の経済・社会を、兵農分離や村落・都市支配などの観点から、多面的・多角的に考察する。 ④被支配身分の特質や、周縁部分に生きる人々の社会的役割について理解する。 ⑤17 世紀後半から 18 世紀前半までの江戸幕府の安定期について、その平和と秩序の確立の視点で考察する。 ⑥諸藩における政治の安定化や刷新について、その特色を理解する。 ⑦幕藩体制の安定期の農業・商工業などの発展について、諸産業相互の関係やその社会的役割を踏まえて考察する。 ⑧全国市場の確立や都市の発達で商品流通が拡大し、各			

		地で風土に応じた特産物が生まれたことを理解する。 ⑨経済の発展と関連して町人文化が形成されたことについて、町人の社会的台頭や幕藩体制の安定と関連させて理解する。 ⑩儒学の特色を理解し、その発達が他の学問に与えた影響を考察する。			
12	第10章 幕藩体制の動揺 第11章 近世から近代へ	①農村や都市の変容により幕藩体制が動揺する中、幕府や諸藩がおこなった諸改革の意義とその影響を考察する。 ②幕府や藩の支配に対しておこなわれた百姓一揆や、都市の打ちこわしの実態について理解する。 ③江戸中期に確立した洋学や国学、新たなかたちで展開する文学・芸能・美術について、社会の変容にともなう幕藩体制の動揺と関連づけて考察する。 ④幕府や藩による武士の教育に加え、民間でも私塾や寺子屋が開かれた背景について理解する。 ⑤欧米諸国のアジア進出による国際情勢の変化やそれに対する幕政の対処を踏まえて幕府が衰退していく過程を理解する。 ⑥近代化の基盤の形成について、産業経済面や軍事面などに着目して、雄藩の浮上という地方からの視点から考察する。 ⑦化政文化について、学問・思想・教育・文学・美術・生活文化の新たな展開に着目し、江戸と地方の文化的交流にも留意して考察する。 ⑧都市の民衆を中心とする芸能などが盛んになったことを理解する。 ①国際社会に組み込まれるという国際環境の変化に着目して、日本の開国を社会・経済面での変化と関わらせて考察する。 ②江戸幕府の威信低下と雄藩の台頭について、政治情勢の変化と列強の動向を関連させて理解する。 ③幕末の動乱における天皇を中心とする統一国家構想の芽生えから幕府の滅亡、旧幕勢力の一掃に至るまでの経過を理解する。 ④近世から近代への変化について考察し、時代を通観する問いを表現する。			
期末考査					

3 学期	1	第12章 近代国家の成立 第13章 近代国家の展開	*歴史資料と近代の展望 ①明治新政府の制度改革や富国強兵・殖産興業政策に着目して、政治的変革と国家的統一過程を理解する。 ②欧米文化・思想の導入と近代化政策に対する士族反乱・農民一揆の発生と、言論闘争への転換を理解する。 ③明治初期の対外政策について、欧米への対応とアジアに対する外交政策の違いについて考察する。 ④政府の強力な中央集権体制への志向のもとで、自由民権運動の始まりから立憲国家の成立に至る間、近代国家の基盤が形成されていく過程を考察する。 ⑤大日本帝国憲法の性格について具体的・多角的に理解する。 ①東アジアをめぐる国際環境が変容する中、国家的課題であった不平等条約の改正交渉が進展した過程や、朝鮮問題から日清戦争に至る経緯について理解する。 ②開戦に至る国際関係や、日露戦争の経過、戦後の日本の国際的地位の変化と植民地支配の推進について、諸外国の動向と関連づけて考察する。 ③第一次世界大戦前後の政治の動向および対外政策の推移について、政党政治の発展や日本の中国進出の状況を踏まえて理解する。 ④第一次世界大戦が日本の社会経済や政治に及ぼした影響について、欧米・アジア経済との関係や政党内閣の成立などと関連させて考察する。 ⑤ワシントン体制に至る国際的協調体制の進展など国際環境の推移を、日本の立場に着目して理解する。 ⑥民主主義的風潮による社会運動の動向を理解するとともに、普選運動など政党政治の発展から二大政党による政党内閣制成立に至るまでの意義について考察する。	定期考 査	定期考 査	ノート・ ファイル 等の提出物
	2	第14章 近代の産業と生活	①日清・日露戦争前後にかけて資本主義国家の基礎が確立された過程を、産業革命や近代産業の発展に着目して理解する。 ②近代産業の発展にともなう社会問題(労働問題・公害問題)の発生と政府の対応について考察する。 ③伝統的な文化のうえに欧米文化を摂取するなど二元性をもって成立した近代文化の特色について、政治・経済・外交などの視点をもって考察する。 ④義務教育の普及・定着とともに、国家主義的教育が浸透していくことを理解する。 ⑤労働者や都市中間層の拡大による大衆社会の基盤の成立に着目し、都市化や市民生活の変化を踏まえて、大			

		衆文化の特色について考察する。 ⑥大衆文化の前提となる教育の普及・発展、マスメディアの発達について理解する。 ①戦後恐慌から昭和恐慌に至る国内経済の動揺について、国内・国外の経済状況と対策に着目して理解する。 ②社会主義運動の高揚と国家主義の台頭による軍部の政治的進出を踏まえて、協調外交が挫折していく過程を考察する。 ③日本の対外政策の推移について、世界情勢や軍部の政治的進出に着目して、政党内閣の崩壊や国際的孤立の過程について理解する。 ④恐慌から脱出し、国家主義が高揚する中で、五・一五事件から二・二六事件にかけて、軍部の影響力が増大していく過程を考察する。 ⑤日中戦争の勃発から太平洋戦争の突入に至る過程について、国民生活の変化や諸統制に着目して全体主義的な国家体制の進展を考察する。 ⑥第二次世界大戦について、国家間の相違や総力戦の特色を踏まえ、この戦争が空前の惨禍をもたらした点に着目して、平和で民主的な国際社会の実現に努める重要性を認識する。			
		学年末考查			
3	第 16 章 占領下の日本 第 17 章 高度成長の時代	①戦後の世界秩序を踏まえ、占領政策および戦後の民主化政策とそれにともなう諸改革について、その経過と内容を理解する。 ②戦後政治の動きを踏まえて、集大成となる日本国憲法制定の意義を考察する。 ③東アジア情勢の変化を踏まえ、連合国による占領が終結して日本が独立した意義を考える。 ④連合国による日本占領の終結と、その後の日米関係の継続について、様々な国の立場から考察する。 ①独立後の日本国内政治について、衆議院を保守・革新の二大勢力が占める 55 年体制の成立から安定した保守政権となるまでの経過を理解する。 ②冷戦構造の中で日本が国際社会に復帰したことについて、日本の国際連合への加盟、アメリカ・中華人民共和国・大韓民国との関係に着目して、独立回復後の日本の動きを考察する。 ③朝鮮特需による経済復興とその後の高度経済成長について、経済の国際化と国内の技術革新などの側面に着目して考察する。			

		第18章 激動する世界と 日本	④消費革命による社会の変貌と、経済成長がもたらした ひずみである社会問題について理解する。 ①ドル＝ショックや石油危機を踏まえて、主要先進国首 脳会議が開かれた意義を理解する。 ②高度成長が終焉し、保守政権が動揺する中、2度にわ たる石油危機を乗り越え、経済大国としての道を歩み始 めた日本の状況を多面的・多角的に考察する。 ③冷戦体制の終結とそれに関わる国内の状況について、 日本の政治・外交・経済・生活文化面を踏まえて多面的・ 多角的にとらえる。 ④科学技術・産業の発達によって派生する環境問題やエ ネルギー問題などの日本の課題とそれに対する日本の 役割を認識する。 ＊現代の日本の課題の探究			
--	--	--------------------------------	--	--	--	--

担当者からのメッセージ(学習方法など)

歴史探究の授業は、ただ知識をインプットするだけではなく、歴史について、調べ、まとめ、考察し、さらによりよい社会の実現を視野に課題を探究することなどの主体的な活動を通じて、自分で根拠を確認した情報に基づいて自ら考える力を養うことが求められています。一方的に聞くだけではなく、主体的に考えながら授業を受けることができるようにしてください。

科目名	日本史探究		学年	類型・コース	単位数
			2 年	普通科英語コース	3
学習の目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。				
使用教材	教科書:『詳説日本史』(山川出版社) 副教材:『図説日本史通覧』(帝国書院) 『ウィニングコンパス日本史の整理と演習』(東京法令出版)				
評価	評価法	中間考査 期末考査 ノート・ファイル等の提出物 小テスト			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	
		b	思考・判断・表現	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。	
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, Cの3段階)及び評定(1～5の5段階)にまとめます。				

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
				a	b	c
1 学期	4	第1章日本文化のあけぼの 第2章古墳とヤマト政権	①人類文化の発生を考え、日本列島における旧石器文化・縄文文化の時代の社会を理解する。 ②打製石器・磨製石器・縄文土器の発掘、竪穴住居の状況など考古学の成果によって教科書の叙述が成り立っていることに気づく。 ③地域の首長の出現から統一国家に至る過程を、古墳の変容からとらえる。 ④ヤマト政権による国家の形成過程について、東アジア世界との関係を踏まえて考察する。 ⑤古墳時代後期から終末期の変容と、ヤマト政権の政治制度を理解する。 ⑥ヤマト政権の権力争いや大陸文化の摂取に着目して、飛鳥時代を考察する。 ⑦飛鳥文化に世界の諸地域の文化の影響がみられることを理解する。	定期 考 査	定期 考 査	ノート・ファイル等の提出物
	5	第3章律令国家の形成	①律令国家が成立するまでの政治過程について考察する。 ②律令にもとづく国内統治体制について理解する。 ③律令体制の完成期としての奈良時代を、律令体制の状況を多角的・多面的にとらえて考察する。 ④平城京における政治動向について、土地政策も含めて考察する。 ⑤律令国家の成立期に当たる白鳳文化の形成過程について考察する。 ⑥天平文化における政治性と国際性、国家仏教の展開などに着目して、古代国家の展開を理解する。 ⑦平安前期を中心とした古代国家の推移について、東北経営や政治改革、地方統治の変容を踏まえて、律令体制の変質を考察する。 ⑧東アジアとの関係を踏まえて、唐風文化である弘仁・貞観文化を理解する。			
			中間考査			
	6	第4章貴族政治の展開	①藤原氏による摂関政治の成立過程と政治運営への影響について考察する。 ②日本と東アジアとの関係において、民間の貿易や交流が中心となったことをとらえる。 ③大陸文化の消化と末法思想を前提とした新しい貴族文化として、国風文化が展開されたことを理解する。 ④摂関政治の在り方と文化の展開に、どのような関係が			

			あるかを考察する。 ⑤律令制にもとづく地方統治体制の崩れへの対応が、公領支配の変質、荘園の拡大をもたらした経過を考察する。 ⑥地方の反乱やその鎮圧など、武士の成長過程について、源氏などを例にとって考察する。			
	7	第5章 院政と武士の躍進 第6章 武家政権の成立	①院政期前後の土地支配形態を踏まえて、院政期の政治・経済・社会・文化を理解する。 ②外戚関係や人材登用など、後三条天皇が摂関家に遠慮せず改革を進めた背景を考察する。 ③政治の動向、国際関係・経済・文化への対応を踏まえて、平氏政権の特性について考察する。 ④古代から中世への変化について考察し、時代を通観する問いを表現する。 ①鎌倉幕府が東国の地方政権から全国的な武家政権に成長していく過程を理解する。 ②鎌倉幕府の成立時期をめぐる諸説に関して、それぞれの根拠を明確にして考察する。 ③承久の乱にともなう公武関係の変化に着目して、將軍独裁体制から執権政治の確立に至る過程を理解する。 ④武士の生活と地方支配を通じて、土地に対する実質的な支配権を地頭が掌握するに至った過程を考察する。 ⑤モンゴル襲来による政治・経済・文化への影響が、幕府の衰退につながっていくことを理解する。 ⑥非御家人に対する権限拡大など、幕府勢力が西国に浸透したことの意義を考察する。 ⑦庶民や武士の活動が活発化し、鎌倉仏教が成立するなど、文化の新しい気運が生まれたことを理解する。 ⑧伝統的な公家文化の世界で、有職故実・古典研究などの学問が進展した背景を考察する。			
	期末考査					
2学期	9	第7章 武家社会の成長	①南北朝の動乱から室町幕府の成立と安定について、日本諸地域の動向などを踏まえて考察する。 ②琉球・蝦夷ヶ島を含む東アジアとの交流が中世日本にもたらした影響について理解する。 ③庶民の活動が社会秩序の変革の原動力として成長していったことを踏まえて、幕府の動揺や下剋上の風潮を考察する。 ④諸産業の発達による庶民の台頭を踏まえて、中世社会の多様な展開を幅広く理解する。 ⑤武家政権の支配の進展や東アジア世界との交流に着	定期考査	定期考査	ノート・ファイル等の提出物

		目して、武家文化と公家文化および、大陸文化と伝統文化の関わりについて理解する。 ⑥庶民文化の萌芽や、応仁の乱を契機とした文化の地方伝播、戦国大名の保護による文化の地方普及を理解する。 ⑦応仁の乱以降、地方権力として登場した戦国大名や各地に展開した都市について、諸地域の地理的条件と関連づけて考察する。			
10	第8章 近世の幕開け	①大航海時代と呼ばれる世界史的背景を踏まえて、ヨーロッパ人の東アジアへの進出とその影響を考察する。 ②織田信長の統一事業、豊臣秀吉の天下統一、秀吉の朝鮮侵略と続く織豊政権の特色と意義、その後の時代への影響について理解する。 ③新興の大名や都市の豪商の精神を反映した桃山文化について、町衆の生活にも着目し、時代的背景を踏まえて考察する。 ④中世から近世への変化について考察し、時代を通観する問いを表現する。			
中間考查					
11	第9章 幕藩体制の成立と展開	①江戸幕府の成立による幕藩体制の確立過程を理解する。 ②江戸幕府の鎖国政策について、単なる対外貿易の遮断ではないことを理解し、鎖国後の貿易関係の在り方も含めてその影響と歴史的意義について考察する。 ③幕藩体制の確立期の経済・社会を、兵農分離や村落・都市支配などの観点から、多面的・多角的に考察する。 ④被支配身分の特質や、周縁部分に生きる人々の社会的役割について理解する。 ⑤17世紀後半から18世紀前半までの江戸幕府の安定期について、その平和と秩序の確立の視点で考察する。 ⑥諸藩における政治の安定化や刷新について、その特色を理解する。 ⑦幕藩体制の安定期の農業・商工業などの発展について、諸産業相互の関係やその社会的役割を踏まえて考察する。 ⑧全国市場の確立や都市の発達で商品流通が拡大し、各地で風土に応じた特産物が生まれたことを理解する。 ⑨経済の発展と関連して町人文化が形成されたことについて、町人の社会的台頭や幕藩体制の安定と関連させて理解する。 ⑩儒学の特色を理解し、その発達が他の学問に与えた影			

			響を考察する。			
12	第 10 章 幕藩体制の動揺		①農村や都市の変容により幕藩体制が動揺する中、幕府や諸藩がおこなった諸改革の意義とその影響を考察する。 ②幕府や藩の支配に対しておこなわれた百姓一揆や、都市の打ちこわしの実態について理解する。 ③江戸中期に確立した洋学や国学、新たなかたちで展開する文学・芸能・美術について、社会の変容にともなう幕藩体制の動揺と関連づけて考察する。 ④幕府や藩による武士の教育に加え、民間でも私塾や寺子屋が開かれた背景について理解する。 ⑤欧米諸国のアジア進出による国際情勢の変化やそれに対する幕政の対処を踏まえて幕府が衰退していく過程を理解する。 ⑥近代化の基盤の形成について、産業経済面や軍事面などに着目して、雄藩の浮上という地方からの視点から考察する。 ⑦化政文化について、学問・思想・教育・文学・美術・生活文化の新たな展開に着目し、江戸と地方の文化的交流にも留意して考察する。 ⑧都市の民衆を中心とする芸能などが盛んになったことを理解する。			
	第 11 章 近世から近代へ		①国際社会に組み込まれるという国際環境の変化に着目して、日本の開国を社会・経済面での変化と関わらせて考察する。 ②江戸幕府の威信低下と雄藩の台頭について、政治情勢の変化と列強の動向を関連させて理解する。 ③幕末の動乱における天皇を中心とする統一国家構想の芽生えから幕府の滅亡、旧幕勢力の一掃に至るまでの経過を理解する。 ④近世から近代への変化について考察し、時代を通観する問いを表現する。			
			期末考查			

3 学期	1	第12章 近代国家の成立 第13章 近代国家の展開	①明治新政府の制度改革や富国強兵・殖産興業政策に着目して、政治的変革と国家的統一過程を理解する。 ②欧米文化・思想の導入と近代化政策に対する士族反乱・農民一揆の発生と、言論闘争への転換を理解する。 ③明治初期の対外政策について、欧米への対応とアジアに対する外交政策の違いについて考察する。 ④政府の強力な中央集権体制への志向のもとで、自由民権運動の始まりから立憲国家の成立に至る間、近代国家の基盤が形成されていく過程を考察する。 ⑤大日本帝国憲法の性格について具体的・多角的に理解する。 ①東アジアをめぐる国際環境が変容する中、国家的課題であった不平等条約の改正交渉が進展した過程や、朝鮮問題から日清戦争に至る経緯について理解する。 ②開戦に至る国際関係や、日露戦争の経過、戦後の日本の国際的地位の変化と植民地支配の推進について、諸外国の動向と関連づけて考察する。 ③第一次世界大戦前後の政治の動向および対外政策の推移について、政党政治の発展や日本の中国進出の状況を踏まえて理解する。 ④第一次世界大戦が日本の社会経済や政治に及ぼした影響について、欧米・アジア経済との関係や政党内閣の成立などと関連させて考察する。 ⑤ワシントン体制に至る国際的協調体制の進展など国際環境の推移を、日本の立場に着目して理解する。 ⑥民主主義的風潮による社会運動の動向を理解するとともに、普選運動など政党政治の発展から二大政党による政党内閣制成立に至るまでの意義について考察する。	定期考 査	定期考 査	ノート・ ファイル 等の提出物
	2	第14章 近代の産業と生活	①日清・日露戦争前後にかけて資本主義国家の基礎が確立された過程を、産業革命や近代産業の発展に着目して理解する。 ②近代産業の発展にともなう社会問題(労働問題・公害問題)の発生と政府の対応について考察する。 ③伝統的な文化のうえに欧米文化を摂取するなど二元性をもって成立した近代文化の特色について、政治・経済・外交などの視点をもって考察する。 ④義務教育の普及・定着とともに、国家主義的教育が浸透していくことを理解する。 ⑤労働者や都市中間層の拡大による大衆社会の基盤の成立に着目し、都市化や市民生活の変化を踏まえて、大衆文化の特色について考察する。 ⑥大衆文化の前提となる教育の普及・発展、マスメディア			

		第 15 章 恐慌と第二次世界大戦	の発達について理解する。 ①戦後恐慌から昭和恐慌に至る国内経済の動揺について、国内・国外の経済状況と対策に着目して理解する。 ②社会主義運動の高揚と国家主義の台頭による軍部の政治的進出を踏まえて、協調外交が挫折していく過程を考察する。 ③日本の対外政策の推移について、世界情勢や軍部の政治的進出に着目して、政党内閣の崩壊や国際的孤立の過程について理解する。 ④恐慌から脱出し、国家主義が高揚する中で、五・一五事件から二・二六事件にかけて、軍部の影響力が増大していく過程を考察する。 ⑤日中戦争の勃発から太平洋戦争の突入に至る過程について、国民生活の変化や諸統制に着目して全体主義的な国家体制の進展を考察する。 ⑥第二次世界大戦について、国家間の相違や総力戦の特色を踏まえ、この戦争が空前の惨禍をもたらした点に着目して、平和で民主的な国際社会の実現に努める重要性を認識する。			
		学年末考查				
	3	第 16 章 占領下の日本 第 17 章 高度成長の時代	①戦後の世界秩序を踏まえ、占領政策および戦後の民主化政策とそれにともなう諸改革について、その経過と内容を理解する。 ②戦後政治の動きを踏まえて、集大成となる日本国憲法制定の意義を考察する。 ③東アジア情勢の変化を踏まえ、連合国による占領が終結して日本が独立した意義を考える。 ④連合国による日本占領の終結と、その後の日米関係の継続について、様々な国の立場から考察する。 ①独立後の日本国内政治について、衆議院を保守・革新の二大勢力が占める 55 年体制の成立から安定した保守政権となるまでの経過を理解する。 ②冷戦構造の中で日本が国際社会に復帰したことについて、日本の国際連合への加盟、アメリカ・中華人民共和国・大韓民国との関係に着目して、独立回復後の日本の動きを考察する。 ③朝鮮特需による経済復興とその後の高度経済成長について、経済の国際化と国内の技術革新などの側面に着目して考察する。 ④消費革命による社会の変貌と、経済成長がもたらしたひずみである社会問題について理解する。			

		第18章 激動する世界と 日本	①ドル＝ショックや石油危機を踏まえて、主要先進国首脳会議が開かれた意義を理解する。 ②高度成長が終焉し、保守政権が動揺する中、2度にわたる石油危機を乗り越え、経済大国としての道を歩み始めた日本の状況を多面的・多角的に考察する。 ③冷戦体制の終結とそれに関わる国内の状況について、日本の政治・外交・経済・生活文化面を踏まえて多面的・多角的にとらえる。 ④科学技術・産業の発達によって派生する環境問題やエネルギー問題などの日本の課題とそれに対する日本の役割を認識する。			
--	--	--------------------------------	--	--	--	--

担当者からのメッセージ(学習方法など)

歴史探究の授業は、ただ知識をインプットするだけではなく、歴史について、調べ、まとめ、考察し、さらによりよい社会の実現を視野に課題を探究することなどの主体的な活動を通じて、自分で根拠を確認した情報に基づいて自ら考える力を養うことが求められています。一方的に聞くだけではなく、主体的に考えながら授業を受けることができるようにしてください。

科目名	数学Ⅱ		学年	類型・コース	単位数
			2 年	普通科文型	3
学習の 目標	図形と方程式, 指数関数・対数関数, 三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ, 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り, 事象を数学的に考察する能力を培い, 数学のよさを認識できるようにするとともに, それらを活用する態度を育てる。				
使用教材	教科書:『新編 数学Ⅱ』(数研出版) 副教材:『新課程 チャート式 基礎からの 数学Ⅱ + B』(数研出版) 『新課程 4プロセス数学Ⅱ + B』(数研出版)				
評価	評価法	定期考査、小テスト、課題考査、ノート、プリント、課題(宿題)、振り返りシートで評価します。			
	評価 観点の 趣旨	a	知識・技能	基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに, 事象を数学化したり, 数学的に解釈したり, 数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	
		b	思考・判断・表現	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度, 粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度, 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, Cの3段階)及び評定(1～5の5段階)にまとめます。				

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
				a	b	c
1 学期	4	第 3 章 図形と方程式 第1節 点と直線	座標や式を用いて、直線や円の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。	中間考査	中間考査	ノート
	5	第 2 節 円 第 3 節 軌跡と領域		小テスト	課題 ノート	プリント 振り返りシート
				中間考査		
	6	第 4 章 三角関数 第 1 節 三角関数	角の概念を一般角まで拡張して、三角関数に関する様々な性質や式とグラフの関係について多面的に考察できるようにする。	期末考査	期末考査	ノート
	7	第 2 節 加法定理		テスト	課題 ノート	プリント 振り返りシート

		課題学習	課題学習1 パスカルの三角形 課題学習2 火災現場から一番近い消防署 課題学習3 周期関数の性質			
	期末考査					
2 学期	9	第5章	指数関数について理解し, それらを事象の考察に活用できるようにする。	中間考査	中間考査	ノート
	10	指数関数と 対数関数 第1節 指数関数		小テスト	課題 ノート	プリント 振り返りシート
	中間考査					
	11	第2節 対数関数	対数関数について理解し, それらを事象の考察に活用できるようにする。	期末考査	期末考査	ノート
	12	第6章 微分法と積分法 第1節 微分係数と導関数 課題学習	微分係数や導関数の意味について理解し, それらの有用性を認識するとともに, 事象の考察に活用できるようにする。 課題学習4 平均律音階	小テスト	課題 ノート	プリント 振り返りシート
	期末考査					
3 学期	1	第2節 関数の値の変化	導関数の理解を深めるとともに, 導関数の有用性を認識できるようにする。	学年末考査	学年末考査	ノート プリント
	2	第3節 積分法	積分の考えについて理解し, それらの有用性を認識するとともに, 事象の考察に活用できるようにする。	小テスト	課題 ノート	振り返りシート
	学年末考査					
	3	課題学習 演習	課題学習5 箱の体積の最大値 数学Ⅱの復習			

担当者からのメッセージ(学習方法など)

授業用ノート、4プロセス用ノートは分けてください。

毎日の復習が大切です。宿題と授業で習った範囲の4プロセスの問題を解きましょう。

科目名	数学Ⅱ		学年	類型・コース	単位数
			2 年	普通科英語コース	4
学習の目標	いろいろな式, 図形と方程式, 指数関数・対数関数, 三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ, 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り, 事象を数学的に考察する能力を培い, 数学のよさを認識できるようにするとともに, それらを活用する態度を育てる。				
使用教材	教科書:『新編 数学Ⅱ』(数研出版) 副教材:『新課程 チャート式 基礎からの 数学Ⅱ + B』(数研出版) 『新課程 4プロセス数学Ⅱ + B』(数研出版)				
評価	評価法	定期考査、小テスト、課題考査、ノート、プリント、課題(宿題)、振り返りシートで評価します。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに, 事象を数式化したり, 数学的に解釈したり, 数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	
		b	思考・判断・表現	数の範囲や式の性質に着目し, 等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力, 座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し, 方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり, 図形の性質を論理的に考察したりする力, 関数関係に着目し, 事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力, 関数の局所的な変化に着目し, 事象を数学的に考察したり, 問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度, 粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度, 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, Cの3段階)及び評定(1～5の5段階)にまとめます。				

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
				a	b	c
1 学期	4	第1章 式と証明 第1節 式と計算	3 次式の展開と因数分解 ＊多項式の乗法・除法及び分数式の四則計算について理解できるようにする。 二項定理 ＊二項定理を利用して、展開式やその項の係数を求めることができる。 ＊二項定理を 3 項の場合に適用することで、展開式の係数を求めることができる。 多項式の割り算 ＊多項式の割り算の計算方法を理解している。 ＊多項式の割り算の結果を等式で表して考えることができる。 分数式とその計算 ＊分数式の約分、四則計算ができる。 ＊分数式の計算の結果を、既約分数式または多項式の形にして表現することができる。 恒等式 ＊恒等式となるように、係数を決定することができる。 ＊恒等式における文字の役割の違いを認識できる。	中間考査 小テスト	中間考査 課題 ノート	ノート プリント 振り返りシート
	5	第2節 等式・不等式の証明 第2章 複素数と方程式 第1節 複素数と2次方程式の解	等式の証明 ＊数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことを証明できるようにする。 不等式の証明 ＊実数の大小関係の基本性質に基づいて、自明な不等式を証明することができる。 複素数とその計算 ＊方程式についての理解を深め、数の範囲を複素数まで拡張して2次方程式を解くことができるようにする。 ＊負の数の平方根を含む式の計算を、 i を用いて処理することができる。 2 次方程式の解 ＊2 次方程式の解の公式を利用して、2 次方程式を解くことができる。 ＊判別式を利用して、2 次方程式の解の種類を判別することができる。 解と係数の関係 ＊解と係数の関係を使って、対称式の値や 2 次方程式の係数を求めることができる。			
	中間考査					

	6	第2節 高次方程式	剰余の定理と因数定理 *剰余の定理や因数分解を利用して高次方程式を解くことができるようにする。 *剰余の定理を利用して、多項式を1次式や2次式で割ったときの余りを求めることができる。 高次方程式 *因数分解や因数定理を利用して、高次方程式を解くことができる。 *高次方程式の虚数解から、方程式の係数を決定することができる。 *高次方程式が虚数解 $a+bi$ を解にもてば、$a-bi$ を解にもつことを利用できる。	期末考查 小テスト	期末考查 課題 ノート	ノート プリント 振り返り シート
	7	第3章 図形と方程式 第1節 点と直線 課題学習	直線上の点 *数直線上において、2点間の距離、線分の内分点、外分点の座標が求められる。 平面上の点 *座標平面上において、2点間の距離が求められる。 直線の方程式 *x軸に垂直な直線は $y=mx+n$ の形に表せないことを理解している。 *直線が x, y の1次方程式で表されることを理解している。 2直線の関係 *2直線の平行・垂直条件を理解していて、それを利用できる。 *図形 $F(x,y)=0$ が点 (s,t) を通ることを $F(s,t)=0$ として処理できる。 *点と直線の距離の公式を理解していて、それを利用することができる。 課題学習1 パスカルの三角形の性質			
	期末考查					
2学期	9	第2節 円	円の方程式 *与えられた条件を満たす円の方程式の求め方を理解している。 *x, y の2次方程式を変形して、その方程式が表す図形を調べることができる。 *3点を通る円の方程式を求めることができる。 円と直線 *円と直線の共有点の座標を求めることができる。 *円と直線の位置関係を、適切な方法で判定できる。 *円の接線の公式を理解していてそれを利用できる。	中間考查 小テスト	中間考查 課題 ノート	ノート プリント 振り返り シート

		2 つの円 * 2 つの円の位置関係を, 中心間の距離と半径の関係から調べることができる。 * 2 つの円の位置関係と, 中心間の距離と半径から, 円の方程式を求めることができる。 * $kF(x,y)+G(x,y)=0$ の形を利用して, 円の方程式を求めることができる。 軌跡と方程式 * 点が満たす条件から得られた方程式を, 図形として考察することができる。 * 軌跡の定義を理解し, 与えられた条件を満たす点の軌跡を求めることができる。 * 媒介変数処理が必要な軌跡の求め方を理解している。 * 軌跡を求めるには, 逆についても調べる必要があることを理解している。 不等式の表す領域 * 不等式の表す領域を図示することができる。 * 連立不等式の表す領域を図示することができる。 * 領域を利用する 1 次式の最大値・最小値の求め方を理解している。			
10	第 4 章 三角関数 第 1 節 三角関数	角の拡張 * 一般角を表す動径を図示したり, 動径の表す角を $\alpha + 360^\circ \times n$ と表したりすることができる。 * 角度の表し方に度数法と弧度法があることを理解している。また, 弧度法の定義を理解し, 度数法と弧度法の換算をすることができる。 * 扇形の弧の長さや面積の公式を理解している。 三角関数 * 弧度法で表された角の三角関数の値を, 三角関数の定義によって求めることができる。 * 単位円周上の点の座標を, 三角関数を用いて表すことができる。 * 三角関数の相互関係を理解し, それらを利用して様々な値を求めたり式変形をしたりすることができる。 三角関数のグラフ * いろいろな三角関数のグラフのかき方と周期の求め方を理解している。 三角関数の性質 * 三角関数の性質とグラフの特徴を相互に理解している。			

		* $\theta + 2n\pi$ や $-\theta$ などの公式を理解し, それらを用いて三角関数の値を求めることができる。 三角関数を含む方程式, 不等式 * 三角関数を含む 2 次方程式の解き方を理解している。			
	中間考査				
11	第 2 節 加法定理	加法定理 * 加法定理を利用して, 種々の三角関数の値を求めることができる。 * 正接の加法定理を利用して, 2 直線のなす角を考えることができる。 加法定理の応用 * 2 倍角, 半角の公式などを利用して, 三角関数の値を求めたり, 等式を証明したりすることができる。 * 2 倍角の公式を利用して, 三角関数を含むやや複雑な方程式・不等式を解くことができる。 * 三角関数の合成について理解している。 * x の関数 $y = a\sin x + b\cos x$ の式を適切に変形することで, 関数の最大値・最小値を求めることができる。 * 合成後の変数のとる値の範囲に注意して, $a\sin x + b\cos x = k$ の形の方程式を解くことができる。	期末考査 小テスト	期末考査 課題 ノート	ノート プリント 振り返りシート
12	第 5 章 指数関数と対数関数 第 1 節 指数関数	指数の拡張 * 指数が整数の場合の累乗の定義を理解し, 累乗の計算や, 指数法則を利用した計算をすることができる。 * 累乗根の定義を理解し, 累乗根の計算ができる。 * 指数が有理数の場合の累乗の定義を理解し, 累乗の計算や, 指数法則を利用した計算をすることができる。 また, 累乗根を含む計算では, 分数指数を利用して計算することができる。 * 指数法則が成り立つように, 指数の範囲を正の整数から実数にまで拡張していることを理解している。 指数関数 * 累乗根をグラフによって考察することができる。 * 指数関数のグラフの概形, 特徴を理解している。 * 底と 1 の大小に注意して, 指数関数を含む不等式を解くことができる。 課題学習 課題学習 2 火災現場から一番近い消防署 課題学習 3 周期関数の性質			
	期末考査				

3 学期	1	第2節 対数関数	対数とその性質 * 指数と対数とを相互に書き換えることができる。 * 対数の定義を理解し、対数の値を求めることができる。 * 対数の性質に基づいた種々の対数の値の計算ができる。 * 底の変換公式を等式として利用できる。 対数関数 * 対数関数のグラフの概形、特徴を理解している。 * 底と1の大小に注意して、対数関数を含む不等式を解くことができる。 * 対数の性質を用いる際に、真数が正であることに着目できる。 常用対数 * 正の数を $a \times [10]^n$ の形に表現して、対数の値を求めることができる。 * 常用対数の定義を理解し、それに基づいて種々の値を求めることができる。 * 常用対数を利用して、桁数の問題や小数首位問題などを解くことができる。 課題学習4 平均律音階	学 年 末 考 査 小 テ ス ト	学 年 末 考 査 課 題 ノート	ノート プリント 振 り 返 りシート
		第6章 微分法と積分法 第1節 微分係数と導関数	微分係数 * 極限値を計算して微分係数を求めるとき、分母の h は0でないことを理解している。 * 平均変化率、微分係数の定義を理解し、それらを求めることができる。 導関数とその計算 * 定義に基づいて導関数を求める方法を理解している。 * 導関数の性質を利用して、種々の導関数の計算ができる。 * 導関数を利用して微分係数が求められることを理解している。 接線の方程式 * 接点の x 座標が与えられたとき、接線の方程式を求めることができる。 * 接線の方程式の公式を利用して、接線の方程式を求めることができる。 * 曲線外の点から曲線に引いた接線の方程式の求め方を理解している。			

2	第 2 節 関数の値の変化	関数の増減と極大・極小 *導関数を利用して、関数の増減を調べることができる。 *導関数を利用して、関数の極値を求めたり、グラフをかいたりすることができる。 *関数の極値が与えられたとき、関数を決定することができる。 関数の増減・グラフの応用 *導関数を利用して、関数の最大値・最小値を求めることができる。 *最大・最小の応用問題では、変数のとり方、定義域に注意して解くことができる。 *導関数を利用して、方程式の実数解の個数問題、不等式の証明問題を解くことができる。			
	第 3 節 積分法	不定積分 *不定積分の計算では、積分定数を書き漏らさずに示すことができる。 *不定積分の定義や性質を理解し、それを利用する不定積分の計算方法を理解している。 *与えられた条件を満たす関数を、不定積分を利用して求めることができる。 定積分 *定積分の定義や性質を理解し、それを利用する定積分の計算方法を理解している。 *上端が変数 x である定積分で表された関数を微分して処理することができる。 定積分と面積 *直線や曲線で囲まれた部分の面積を、定積分で表して求めることができる。			
	課題学習	課題学習4 平均律音階 課題学習5 箱の体積の最大値			
	学年末考査				
3		数学Ⅱの復習			

担当者からのメッセージ(学習方法など)

授業用ノート、4プロセス用ノートは分けてください。

毎日の復習が大切です。宿題と授業で習った範囲の4プロセスの問題を解きましょう。

科目名	数学Ⅱ		学年	類型・コース	単位数
			2 年	普通科理型	3
学習の 目標	図形と方程式, 指数関数・対数関数, 三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ, 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り, 事象を数学的に考察する能力を培い, 数学のよさを認識できるようにするとともに, それらを活用する態度を育てる。				
使用教材	教科書:『新編 数学Ⅱ』(数研出版) 副教材:『新課程 チャート式 基礎からの 数学Ⅱ + B』(数研出版) 『新課程 4プロセス数学Ⅱ + B』(数研出版)				
評価	評価法	定期考査、小テスト、課題考査、ノート、プリント、課題(宿題)、振り返りシートで評価します。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに, 事象を数式化したり, 数学的に解釈したり, 数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	
		b	思考・判断・表現	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度, 粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度, 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, Cの3段階)及び評定(1～5の5段階)にまとめます。				

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
				a	b	c
1 学期	4	第 3 章	座標や式を用いて, 直線や円の性質や関係を数学的に表現し, その有用性を認識するとともに, 事象の考察に活用できるようにする。	中間考査	中間考査	ノート
	5	図形と方程式		小テスト	課題	プリント
		第1節				
		点と直線				
		第 2 節 円				
第 3 節						
軌跡と領域						
中間考査				期末考査	期末考査	ノート
6	第 4 章	角の概念を一般角まで拡張して, 三角関数に関する様々な性質や式とグラフの関係について多面的に考察できるようにする。				
		三角関数	加法定理を理解し, それらを事象の考察に活用できるようにする。	テスト	課題	プリント
		第 1 節				
		三角関数			ノート	振り返りシート
		第 2 節				
		加法定理				

	7	第5章 指数関数と対数関数 第1節 指数関数 課題学習	指数関数について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。 課題学習1 パスカルの三角形の性質 課題学習2 火災現場から一番近い消防署 課題学習3 周期関数の性質			
	期末考査					
2 学期	9	第2節 対数関数	対数関数について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。	中間考査 小テスト	中間考査 課題 ノート	ノート プリント 振り返りシート
	10	第6章 微分法と積分法 第1節 微分係数と導関数	微分係数や導関数の意味について理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。			
	中間考査			期末考査 小テスト	期末考査 課題 ノート	ノート プリント 振り返りシート
	11	第2節 関数の値の変化	導関数の理解を深めるとともに、導関数の有用性を認識できるようにする。			
	12	第3節 積分法 課題学習	積分の考えについて理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。 課題学習4 平均律音階 課題学習5 箱の体積の最大値			
	期末考査					
3 学期	1					
	2					
	学年末考査					
	3					

担当者からのメッセージ(学習方法など)

授業用ノート、4プロセス用ノートは分けてください。

毎日の復習が大切です。宿題と授業で習った範囲の4プロセスの問題を解きましょう。

科目名	数学Ⅲ		学年	類型・コース	単位数
			2 年	普通科理型	1
学習の 目標	数学における基本的な概念や原理・法則の理解を深め、事象を数学的に考察し処理する能力を高め、数学的活動を通して創造性の基礎を培うとともに、数学的な見方や考え方の良さを認識し、それらを積極的に活用する態度を育てる。				
使用教材	教科書:『新編 数学Ⅲ』(数研出版) 副教材:『新課程 4プロセス数学Ⅲ+C』(数研出版)				
評価	評価法	定期考査、小テスト、課題考査、ノート、プリント、課題(宿題)、振り返りシートで評価する。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数式化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	
		b	思考・判断・表現	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, Cの3段階)及び評定(1～5の5段階)にまとめます。				

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
				a	b	c
1 学期	4					
	5					
	中間考査					
	6					
	7					
	期末考査					
2 学期	9					
	10					
	中間考査					
	11					
	12					
	期末考査					

3 学期	1	第1章 関数	・分数関数の定義を理解し、グラフをかくことができる。 ・分数関数のグラフと直線について、共有点の座標の意味を考え、その求め方を考察しようとする。 ・無理関数の定義を理解し、グラフをかくことができる。 ・無理不等式の解を、グラフと直線の上下関係に読み替えることができる。 ・逆関数、合成関数の考え方に興味・関心を示し、具体的な問題に取り組もうとする。 ・2つの関数を続けて作用させた関数を、合成関数という1つの関数として考察することができる。 ・逆関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。	小テスト	課題	ノート
	2	第2章 極限 第1節 数列の極限 第2節 関数の極限	・数列の極限値の定義を理解している。 ・収束する数列の極限値の性質を理解し、それを用いて、数列の極限が求められる。 ・無限等比数列の収束・発散を利用して、様々な数列の極限を求めることができる。 ・無限等比数列の収束条件を理解し、それを利用できる。 ・漸化式で表された数列の一般項を求め、数列の極限を求めることができる。 ・無限等比級数の収束、発散を、公比の値で調べられる。 ・関数の極限の表記および記号について理解している。 ・不定形の関数の式を、不定形を解消するように工夫して変形しようとする。 ・関数の極限が、正・負の無限大に発散する場合を調べられる。 ・「はさみうちの原理」を用いて極限を求める方法に、興味・関心をもつ。 ・定義に基づいて、様々な関数の連続性、不連続性を判定することができる。	プレ学年 末考查	プレ学年 末考查	プリント
	学年末考查			学年末考 査	学年末考 査	振り返り シート
	3	課題学習 演習	課題学習1 平方根の近似値			

担当者からのメッセージ(学習方法など)

授業用ノート、4プロセス用ノートは分けてください。

毎日の復習が大切です。宿題と授業で習った範囲の問題集の問題を解きましょう。

科目名	数学 B		学年	類型・コース	単位数
			2 年	普通科	2
学習の目標	数列, 統計的な推測について理解させ, 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り, 数学と社会生活の関わりについて認識を深め, 事象を数学的に考察する能力を培い, 数学のよさを認識できるようにするとともに, それらを活用する態度を育てる。				
使用教材	教科書:『新編 数学B』(数研出版) 副教材:『新課程 チャート式 基礎からの 数学Ⅱ + B』(数研出版) 『新課程 4プロセス数学Ⅱ + B』(数研出版)				
評価	評価法	定期考査、小テスト、課題考査、ノート、プリント、課題(宿題)、振り返りシートで評価します。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	数列, 統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに, 数学と社会生活の関わりについて認識を深め, 事象を数学化したり, 数学的に解釈したり, 数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	
		b	思考・判断・表現	離散的な変化の規則性に着目し, 事象を数学的に表現し考察する力, 確率分布や標本分布の性質に着目し, 母集団の傾向を推測し判断したり, 標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力, 日常の事象や社会の事象を数学化し, 問題を解決したり, 解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度, 粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度, 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, Cの3段階)及び評定(1～5の5段階)にまとめます。				

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
				a	b	c
1 学期	4	第1章 数列 第1節 等差数列と等比数列	数列と一般項 * 数列の定義, 表記について理解している。 * 数の並び方からその規則性を推定して, 数列の一般項を考察できる。 等差数列 * 等差数列の公差, 一般項などを理解している。 * 等差数列の和の公式を適切に利用して, 数列の和が求められる。	中間考査 小テスト	中間考査 課題 ノート	ノート プリント 振り返りシート
	5		等比数列 * 等比数列の公比, 一般項などを理解している。 * 等比数列の項を書き並べて, 隣接する項の関係が考察できる。 等比数列の和を工夫して求める方法について考察できる。			
	中間考査					
	6	第2節 いろいろな数列	和の記号Σ * 記号Σの意味と性質を理解し, 数列の和が求められる。 * 数列の和を記号Σで表して, 和の計算を簡単に行うことができる。	期末考査	期末考査	ノート プリント

			階差数列 ＊階差数列を利用して、もとの数列の一般項が求められる。 ＊数列の和 S_n と第 n 項 a_n の関係を理解し、数列の一般項が求められる。	小テスト	課題	振り返りシート
	7		いろいろな数列の和 ＊和の求め方の工夫をして、数列の和が求められる。 ＊群数列を理解し、ある特定の群に属する数の和が求められる。 漸化式と漸化式 ＊初項と漸化式から一般項が求められる。 ＊数学的帰納法を利用して、いろいろな事柄を積極的に証明しようとする。		ノート	
期末考查						
2 学期	9	第2章統計的な推測 第1節確率分布	確率変数と確率分布 ＊確率変数や確率分布について、用語の意味を理解している。 ＊確率変数や確率分布について、用語の意味を理解している。 確率変数の期待値と分散 ＊確率変数の期待値、分散、標準偏差を求めることができる。 ＊確率変数の期待値 $E(X)$ や分散 $V(X)$ などの計算式を理解して活用できる。 ＊確率変数の期待値、分散、標準偏差などを用いて確率分布の特徴を考察することができる。 確率変数の和と積 ＊確率変数の和の期待値を、公式を利用して求めることができる。	中間考查	中間考查	ノート
				小テスト	課題	プリント
					ノート	振り返りシート
	10		二項分布 ＊反復試行の結果を、二項分布を用いて表すことができる。 ＊二項分布に従う確率変数の期待値や分散を求めることができる。 正規分布 ＊確率密度関数や分布曲線の定義を理解し、連続型確率変数について、確率を求めることができる ＊正規分布に従う確率変数 X を標準正規分布に従う確率変数 Z に変換できる。 ＊標準正規分布表を用いて、正規分布に関する確率の計算ができる。			
	中間考查					
11	第2節統計的な推測	母集団と標本 ＊復元抽出と非復元抽出について理解している。 標本平均の分布 ＊標本平均が確率変数であることを理解している。 ＊母平均と母標準偏差から標本平均の期待値と標準偏差を求めることができる。 推定 ＊母平均と母標準偏差の考え方や標本平均の期待値と標準偏差の考え方がわかる。 仮説検定 ＊推定に関わる用語・記号を適切に活用することができる。	期末考查	期末考查	ノート	
				小テスト	課題	プリント
	12	第3章 数学と社会生活	数学を活用した問題解決 ＊日常生活における問題や社会問題を数学的に考察す		ノート	振り返りシート

			るときの手順を理解している。 社会の中にある数学 ＊選挙における議席の割り振り方を理解し, 与えられた手順通りに割り振ることができる。 変化をとらえる ＊移動平均を用いると長期的な変化の傾向が調べやすくなることを理解している。 ＊散布図について理解し, 傾向を読み取ることができる。			
		期末考查				
3 学期	1					
	2					
	学年末考查					
	3					

担当者からのメッセージ(学習方法など)

数学Ⅰ・Aの学習が終了した後、数学Ⅱと並行して、数学Bの学習に入ります。授業用ノート、4プロセス用ノートは分けてください。
毎日の復習が大切です。宿題と4プロセスの授業で習った問題を解きましょう。

科目名	数学 C		学年	類型・コース	単位数
			2 年	普通科	1
学習の 目標	ベクトルについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。				
使用教材	教科書：『新編 数学 C』（数研出版） 副教材：『新課程 4プロセス数学 C』（数研出版）				
評価	評価法	定期考査、小テスト、課題考査、ノート、プリント、課題（宿題）、振り返りシートで評価します。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	ベクトルについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数式化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	
		b	思考・判断・表現	大きさや向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力、図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価（A, B, C の 3 段階）及び評定（1～5 の 5 段階）にまとめます。				

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
				a	b	c
1 学期	4					
	5					
	中間考査					
	6					
	7					
	期末考査					
2 学期	9					
	10					
	中間考査					
	11					
	12					
	期末考査					

3 学期	1	第1章 平面上のベクトル	ベクトルの演算 *ベクトルの成分表示の仕組みを理解し, 具体的なベクトルを成分表示できる。また, そのベクトルの大きさを求めることができる。 ベクトルの成分 *ベクトルの垂直条件を活用して, 与えられたベクトルに垂直なベクトルを求めることができる。 ベクトルの内積 *ベクトルの内積の定義を理解し, 内積を求めることができる。 位置ベクトル *点の位置を, 基準となる点と1つのベクトルを用いて表すことができることを理解している。 *位置ベクトルを活用して, 図形の性質が考察できる。 ベクトルの図形への応用 *線分の内分点・外分点を位置ベクトルで表す公式を, 実際の図形に適用できる。 図形のベクトルによる表示 *直線のベクトル方程式について, 媒介変数を用いて表すことができる。	期末考査	期末考査	ノート
	2	第2章 空間のベクトル	空間の点 *空間における点の表し方を理解し, 座標平面や座標軸, 原点に関して対称な点の座標を求めることができる 空間のベクトル *空間図形の中で, 等しいベクトルや逆ベクトルを探すことができる。 ベクトルの成分 *ベクトルの成分表示について, 平面上のベクトルの拡張になっていることを理解し, ベクトルが等しくなるように成分を定めたり, 成分表示されたベクトルの大きさを求めたりすることができる。 ベクトルの内積 *空間のベクトルの内積や, 成分表示された2つのベクトルのなす角を求めることができる。 ベクトルの図形への応用 *位置ベクトルの定義や内分点などの位置ベクトルが平面上のベクトルの場合と同じであることを理解している。 座標空間における図形 *座標平面に平行な平面や, 座標軸に垂直な平面の方程式が求められるようになる	小テスト	課題	プリント
	学年末考査				ノート	振り返りシート
	3		*いろいろな球面の方程式が求められる。			

担当者からのメッセージ(学習方法など)

数学Ⅰ・A・Bの学習が終了した後、数学Ⅱと並行して、数学Ⅲの学習に入ります。授業用ノート、4プロセス用ノートは分けてください。毎日の復習が大切です。宿題と4プロセスの授業で習った問題を解きましょう。

科目名	物理基礎		学年	類型・コース	単位数
			2年	普通科理型	2
学習の目標	物理的な事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しを持って観察、実験を行うことなどを通して、科学的に探究するために必要な資質・能力を身につける。				
使用教材	教科書：『物理基礎』（数研出版） 副教材：『新課程版セミナー物理基礎』（第一学習社）				
評価	評価法	定期考査、実験レポート、問題集への取り組み、発表の内容などで評価します。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	知識の習得や知識の概念的な理解、実験操作の基本的な技術の習得ができています。	
		b	思考・判断・表現	習得した「知識・技能」を活用して、課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身に付けている。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける過程において、粘り強く学習に取り組んでいる。自ら学習を調整しようとしている。	
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, Cの3段階)及び評定(1～5の5段階)にまとめます。				

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
				a	b	c
1学期	4	物理量の測定と扱い方 速度	* 物理量の表し方について理解する * 等速直線運動の式、および $x-t$ 図、$v-t$ 図を理解する * 物体の運動を表すには向きが必要であることと、速さと速度、移動距離と変位の違いを理解する平均の速度と瞬間の速度の違いを理解している * 直線上の合成速度、相対速度の意味と求め方を理解している * 速度の意味・表し方、またこれらはグラフ上でどのように示されるかを正しく理解し、説明することができる	レポート	レポート	授業態度 発表内容 実習態度 (通年) レポート
	5	加速度 落体の運動 力とそれはたらき 力のつりあい	* 加速度の定義や正負の意味を正しく理解している * 等加速度直線運動を表す3つの式がどのようにして得られたかを理解し、その式やグラフを正しく運用・説明することができる * 自由落下や鉛直投射において、与えられた時刻における高さや速度を与える式の運用ができる * 自由落下や鉛直投射はいずれも等加速度直線運動の一種であることを理解している。水平投射は鉛直方向に自由落下、水平方向には等速直線運動していることを理解している * 落下運動する物体のようすについて説明することができる * 重力、垂直抗力、摩擦力、糸が引く力、弾性力について理解できている * 作用・反作用の2力と、つりあいの2力を区別して考え、説明することができる * 3つの力がはたらいてつりあうときの力の関係を理解できている。			
	中間考査			中間考査	中間考査	

	6	運動の法則 摩擦を受ける運動 液体や気体から受ける力 仕事	* 物体が力を受けるとき(あるいは受けないとき)、運動状態はどのようになるか、逆に物体の運動状態からどのような力がはたらいているかを指摘できる * さまざまな運動をしている物体について、運動方程式を立てて考えることができる * 注目する物体に摩擦力はどの向きに現れるか、また最大摩擦力の大きさは2物体間の面の状態を表す静止摩擦係数μと、垂直抗力Nとの積で表されることを理解している。 * 圧力を求める式を理解している。水圧を求める式を理解し、水中にある物体が静止しているとき、物体にはたらく力のつりあいの式を立てることができる * 水中にある物体にはどのような浮力がはたらくかを理解している。 * 仕事、仕事率を計算して求めることができる * 物体に対して力がはたらいていても、仕事は0のときもあり、それがどのようなときであるかを理解している * 仕事の原理を理解している			問題集取組
	7	運動エネルギー 位置エネルギー 力学的エネルギーの保存	* 運動エネルギーを計算して求めることができる * 運動エネルギーの変化量は、物体がされた仕事量に等しいことを理解している * 重力による位置エネルギーを計算することができる。弾性力による位置エネルギーを計算することができる * 物体が基準点まで移動するときに保存力がする仕事が位置エネルギーであることを理解している * さまざまな物体の運動について、力学的エネルギー保存則を用いることができる * 物体に保存力以外の力がはたらくとき、その仕事の量だけ物体の力学的エネルギーが変化することを理解している * 力学的エネルギー保存則が成り立つための条件が整っているかどうかを判断できる * 力学的エネルギー保存則を、実験で定量的に検証し、実験結果と理論とを比較して考察・説明できる	レポート	レポート	レポート
	期末考査			期末考査	期末考査	問題集取組
2学期	9	熱と物質の状態 熱と仕事 波と媒質の運動 波の伝わり方 音の性質 発音体の振動と共振・共鳴	* 温度、熱運動、熱量、比熱、熱容量などを正しく理解し、説明することができる * 熱量の保存について理解し、熱量保存の式を立てることができる。 * 物質が、固体→液体、液体→気体になる際の熱のやりとりについて理解している * 仕事と熱の関係や熱力学第一法則について理解している * 熱機関と、熱機関の熱効率について理解している * 仕事によって温度が上昇することを、実験によって確認できる * 波の発生原理や基本事項を理解し説明することができる * 縦波と横波の違いを理解している * 縦波を横波の形で表現できる * 波の伝わるようすをグラフで表現することができる * 定在波の生じるしくみを理解している * ウェーブマシンの実験・観察を通して、波の重ね合わせの原理や自由端・固定端での波の反射について理解している * 日常生活での体験を通して、音の波としての性質を理解している * 音の特徴づける3つの要素について説明できる * うなりとはどのような現象であるかを説明できる。 * 弦や気柱の振動と音の高さの関係について理解している			

			* 気柱共鳴装置を用い、気柱の共鳴音からおんさの振動数を求めることができ、理解できている	レポート	レポート	レポート
	10	エネルギーの移り 変わり エネルギー資源と 発電	* エネルギーにはどのような種類があるか、また、身近なさまざまな事象でどのようなエネルギー変換がなされているかを理解している * エネルギー資源にはどのようなものがあるか把握し、それらの長所と短所を理解している * 再生可能エネルギーについて、枯渇性エネルギーとの違いを考え、説明できる * 火力、原子力、水力、風力の発電の共通点について説明できる			
	中間考査					
	11					
	12					
期末考査						
3 学期	1					
	2					
	学年末考査					
	3					

担当者からのメッセージ(学習方法など)

自らの手で計算を行うことがなにより重要です。これを基礎として、現象を数式に落とし込み、式から現象を想像する能力が体得されます。そして、図を書く習慣を身につけて下さい。図を書くことで、与えられて状況を整理する能力が身につきます。図も式も、まずは手を動かして自分の手で書いてみてください。

科目名	物理		学年	類型・コース	単位数
			2年	普通科理型	2
学習の目標	物理的な事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しを持って観察、実験を行うことなどを通して、科学的に探究するために必要な資質・能力を身につける。				
使用教材	教科書:『物理』(数研出版) 副教材:『リードα物理』(数研出版)				
評価	評価法	定期考査、実験レポート、問題集への取り組み、発表の内容などで評価します。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	知識の習得や知識の概念的な理解、実験操作の基本的な技術の習得ができています。	
		b	思考・判断・表現	習得した「知識・技能」を活用して、課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身に付けている。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける過程において、粘り強く学習に取り組んでいる。自ら学習を調整しようとしている。	
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, Cの3段階)及び評定(1～5の5段階)にまとめます。				

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
				a	b	c
1 学期	4					
	5					
	中間考査					
	6					
	7					
	期末考査					
2 学期	9					授業態度 発表内容 実習態度 (通年)
	10					
	中間考査					
	11	平面運動の速度・ 加速度 落体の運動 剛体にはたらく力 のつりあい 剛体にはたらく力 の合力と重心	* 平面上の合成速度, 相対速度の意味と求め方を理解している * 加速度は速度の時間変化を表すものであり, ベクトル量であること, またその求め方を理解できている * 動く観測者から見た場合の, 観測者と同じ平面上を動く物体の運動のようすを説明できる * 水平投射は鉛直方向には自由落下, 水平方向には等速直線運動をしていることを理解し, 適切に式を運用できる * 斜方投射は鉛直方向には鉛直投げ上げ, 水平方向には等速直線運動をしていることを理解し, 適切に式を運用できる * 力のモーメントについて理解している * 剛体のつりあいでは, 並進運動をしない条件と回転運			

3 学期			- 動しない条件が必要なことを理解している * 力のモーメントの式を理解し、うでの長さが異なるときにはたらく力の大きさについて考察できる * 剛体にはたらく複数の力の合力を求めることができる * 偶力のモーメントを求めることができる * 剛体の転倒する条件を理解している * 直方体をどのように置いたときに転倒しやすいかを調べることができる * 剛体の転倒する条件を理解し、重心の位置と転倒のしやすさの関係を説明できる	レポート	レポート	レポート
	12	運動量と力積 運動量保存則 反発係数	* 運動量と力積について、求め方を理解している * 運動量の変化は、その間に物体が受けた力積に等しいことを理解している * 運動量の変化と力積の関係の式から、物体が受ける力積と平均の力の大きさについて説明することができる * 運動量保存則が成り立つ条件を説明することができる * 反発係数の式を用いて、衝突する物体の運動を調べることができる * 運動量保存則と反発係数の式から物体の速さを求めることができる			
	期末考查			期末考查	期末考查	問題集取組
	1	等速円運動 慣性力 単振動	* 等速円運動をしている物体の回転の速度、角速度、周期、回転数の諸量の定義が理解できている * 一定の半径で等速円運動する物体の速さと物体にはたらく向心力の大きさの間の関係を説明できる * 慣性力とその他の力の違いについて理解し、説明できる * 単振動の変位、速度、加速度の式、運動方程式を理解している * ばね振り子や単振り子の周期の式を用いて、周期と質量や周期と糸の長さの間の関係について説明できる * 糸の長さや小球の質量、振幅を変えていったときのばね振り子の周期を測定し、周期がどのように変化するか考えることができる	レポート	レポート	レポート
	2	万有引力 気体の法則 気体分子の運動	* ケプラーの法則を理解している * 万有引力の式を理解している * 万有引力の位置エネルギーの式を用いて、力学的エネルギー保存則の式を立てることができる * 気体の圧力、体積、絶対温度の間の関係について理解している * ボイル・シャルルの法則を用いて、状態変化後の気体の圧力、体積、絶対温度を求めることができる * 理想気体の状態方程式を用いることができる * 気体が熱運動して壁などの面に力を及ぼすことから圧力の大きさを表す式を導くことができる * 平均運動エネルギーと絶対温度の関係を説明できる * 単原子分子理想気体の内部エネルギーについて理解できている			
	学年末考查			学年末考查	学年末考查	問題集取組
	3	気体の状態変化	* 気体の状態変化の、「定積変化」、「定圧変化」、「等温変化」、「断熱変化」を、それぞれ p-V図や式で表すことができる * 気体の状態変化と気体がされた仕事について説明できる * 定積モル比熱と定圧モル比熱の違いを正しく理解し、2つの間に成り立つ関係について説明できる * 熱機関のモデルとして、サイクルの状態変化を理解し、熱効率を求めることができる			

担当者からのメッセージ(学習方法など)
自らの手で計算を行うことがなにより重要です。これを基礎として、現象を数式に落とし込み、式から現象を想像する能力が体得されます。そして、図を書く習慣を身につけて下さい。図を書くことで、与えられて状況を整理する能力が身につきます。図も式も、まずは手を動かして自分の手で書いてみてください。

科目名	生物	学年	類型・コース	単位数
		2 年	普通科理型	2
学習の目標	生物に関する種々の現象や生物の構造等を学ぶ中で、生物学に関する知識を身につけると共に、科学的・論理的な思考力を養う。その結果、生物学を探究するために必要な資質・能力を育成する。			
使用教材	教科書:『生物』(数研出版) 副教材:『新課程版スクエア最新図説生物』(第一学習社)			
評価	評価法	定期考査、実験レポート、授業ノートなどで評価します。		
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	知識の習得や知識の概念的な理解、実験操作の基本的な技術の習得ができています。
		b	思考・判断・表現	習得した「知識・技能」を活用して、課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身に付けています。
		c	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける過程において、粘り強く学習に取り組んでいる。自ら学習を調整しようとしている。
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, Cの3段階)及び評定(1～5の5段階)にまとめます。			

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
				a	b	c
1 学期	4	第1章 生物の進化 1. 生命の起源と生物の進化 2. 遺伝子の変化と多様性	- 生命の起源として、無機物から有機物が生じ、有機物の集まりから「細胞」が生じたと考えられていることを理解する。生物が代謝を通じて地球の環境を変化させてきたこと、地球の環境の影響を受けて生物が進化してきたことを理解する。 - 生物の形質の変化は、遺伝子の変化によって生じることを理解する。突然変異によって、遺伝的な多様性が生じることを理解する。	中間考査	レポート 中間考査	授業態度 実習態度 (通年) レポート
	5	3. 遺伝子の組み合わせの変化 4. 進化のしくみ	- 減数分裂の過程では、染色体の乗換えによって遺伝子の組換えが起こることを理解する。有性生殖においては、親から子へと遺伝子が受け継がれる過程で、遺伝子の組み合わせが変化することを理解する。 - 遺伝的浮動と自然選択によって遺伝子頻度が変化することを理解する。隔離によって種分化が生じやすくなることを理解する。			問題集課題 授業ノート
	中間考査					
	6	5. 生物の系統と進化 6. 人類の系統と進化	- DNA の塩基配列やタンパク質のアミノ酸配列から、生物の系統を推定できることを理解する。生物が、系統に基づいて3つのドメインに分類されることを理解する。 - 人類が、霊長類のうちの類人猿から進化したことを理解する。人類の特徴として、直立二足歩行をすることが重要であることを理解する。			
	7	第4章 遺伝情報の発	遺伝子を扱うさまざまな技術について、その原理を理解する。遺伝子を扱うさまざまな技術が、私			

		現と発生 5. 遺伝子を扱う技術	私たちの生活に与える影響を理解する。 ＊ PCR 法、電気泳動法等実習	レポート	レポート	レポート 問題集課題
		期末考査		期末考査	期末考査	授業ノート
2 学期	9	第 2 章 細胞と分子 1. 生体物質と細胞 2. タンパク質の構造と性質	＊ 細胞を構成する代表的な物質とその特徴について理解する。生物の基本単位である細胞の構造とその機能について理解する。 ＊ 細胞の生命活動を担うタンパク質の構造について理解する。タンパク質の構造と機能との密接な関係について理解する。			
	10	3. 化学反応にかかわるタンパク質 4. 膜輸送や情報伝達にかかわるタンパク質	＊ 酵素の基本的な性質と、酵素がはたらく反応条件について理解する。酵素反応を調節するしくみについて理解する。 ＊ 生体膜を介した物質輸送と、それにかかわるタンパク質のはたらきについて理解する。情報伝達にかかわる受容体タンパク質のはたらきについて理解する。			
	中間考査					
	11	第 3 章 代謝 1. 代謝とエネルギー 2. 呼吸と発酵	＊ 生体内で起こる化学反応の一部は酸化還元反応であり、反応に際して大きなエネルギーの出入りを伴うことを理解する。 ＊ 呼吸では、有機物が酸化されるのに伴う一連の酸化還元反応によってエネルギーが取り出され、ATP が合成されることを理解する。発酵では、酸素を用いずに有機物が分解され、ATP が合成されることを理解する。 ＊ 細胞内ではたらく酵素による参加還元反応実習 ＊ アルコール発酵実習	レポート	レポート	レポート
	12	3. 光合成	＊ 光合成では、光エネルギーを用いて ATP と電子の運搬体が合成され、これらを用いて二酸化炭素が還元されて有機物が生じることを理解する。 ＊ 植物の光合成色素の分離実習	レポート	レポート	レポート
	期末考査		レポート	レポート	問題集課題	
			期末考査	期末考査	授業ノート	
3 学期	1	第 4 章 遺伝情報の発現と発生 1. DNA の構造と複製	＊ DNA について、2 本のヌクレオチド鎖の方向性をふまえた詳しい構造を理解する。DNA が正確に複製される詳しいしくみを理解する。			
	2	2. 遺伝情報の発現 3. 遺伝子の発現調節	＊ DNA の遺伝情報を写し取って、RNA が合成されるしくみを理解する。転写された RNA から、タンパク質が合成されるしくみを理解する。 ＊ 遺伝子の発現が、環境の変化などに応じて変化することを理解する。原核生物と真核生物において、それぞれの遺伝子発現が調節されるしくみを理解する。			
	学年末考査					
	3	4. 発生と遺伝子発現	＊ 発生の過程で、遺伝子の発現調節によって細胞が分化するしくみを理解する。細胞の分化を引き起こす遺伝子の発現調節は、細胞内の物質のはたらきや、他の細胞からのはたらきかけによって起こることを理解する。	学年末考査	学年末考査	問題集課題
						授業ノート

担当者からのメッセージ(学習方法など)

日々の授業においては、その日の内容を理解できるよう、授業中および家庭で教科書を読もう。図説や問題集を利用しながら、復習をしましょう。考査前には、再度問題集を解き、授業中に行った問題演習の確認をしましょう。実験や実習においては、目的を理解し、取り組み、「考察」を大切にしたいレポートを作成し、必ず提出しましょう。

科目名	地学基礎		学年	類型・コース	単位数
			2 年	普通科理型	2
学習の 目標	自然界における様々な事象の因果関係を正しく理解しつつ、地球と宇宙の全体像、およびその歴史を把握する。その結果、自然や、その人間との関わりについて幅広く考察する能力をつける。				
使用教材	教科書：数研出版「高等学校 地学基礎」 副教材：浜島書店「ニューステージ地学図表」、第一学習社「セミナー地学基礎」				
評価	評価法	各定期考査の成績、小テストの成績、実験・実習レポートなどを総合して評価する。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	知識の習得や知識の概念的な理解, 実験操作の基本的な技術の習得ができているか。	
		b	思考・判断・表現	習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身につけているか。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身につける過程において、粘り強く学習に取り組んでいるか、自ら学習を調整しようとしているか。	
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, Cの3段階)及び評定(1～5の5段階)にまとめます。				

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
				a	b	c
1 学期	4	第1編 活動する地球 第1章 地球の構造 1. 地球の形と大きさ 2. 地球の構造	＊ 地球の形と大きさの測定のしかた, 地球内部の層構造を理解する。 ＊ 地球の形と大きさは, 測定方法の歴史を踏まえて学ぶ。 ＊ 地球内部は構成物質の違いから, 地殻・マントル・核に分けられること, および変形のしやすさによる違いから, リソスフェア・アセノスフェアに分けられることを理解する。	中間 考 査	中間 考 査	授業態度 実習態度 (通年)
	5	第2章 プレートの運動 1. プレートテクトニクスと地殻変動 2. プレート運動のしかた	＊ 地球の表面は, 十数枚のプレートでおおわれており, それぞれが別の方向に動いているため, その境界で様々な地殻変動が起こることを理解する。 ＊ プレート境界では, 断層や褶曲などの地質構造が形成されたり, 変成作用が生じたりすること学ぶ。 ＊ プレート運動の原動力について理解する。			問題集課題
	中間 考 査					
	6	第3章 地震 1. 地震 2. 地震の分布 3. 地震災害 第4章 火山 1. 火山活動	＊ 地震発生のしくみを, プレート運動と関連付けて学ぶ。 ＊ 地震波の性質や, プレート境界と地震の分布の関係について理解する。 ＊ 震源決定自習 ＊ 日本付近で発生する地震について理解を深めるとともに, 地震によってどのような災害が発生し, どのような対応が必要かを理解する。 ＊ 火山噴火のしくみ, 多様な噴火活動と火山地形, マグマが発生するしくみを学ぶ。 ＊ 火山活動はプレート運動と関連があり, 火山の分布はプレート境界に多いことを理解する。			レポート
	7	2. 火成岩 3. 火山がもたらす恵みと災害	＊ 火成岩の特徴や分類について学ぶ。 ＊ 火成岩観察実習 ＊ 日本における活火山を知り, 火山災害への対応だけでなく,			レポート

			火山の恩恵についても理解する。	期末考查	期末考查	問題集課題
			期末考查			
2 学期	9	第2章 古生物の変遷と地球環境 1. 化石と地質時代の区分 2. 古生物の変遷	* 堆積作用・侵食作用で形成される陸上と海底の地形や、堆積岩の形成過程を学ぶ。 * 土砂災害の種類について学ぶ。 * 地層の重なり方や変形のしかた、堆積構造を観察によって、地層の本来の層序や堆積環境がわかることを理解する。 * 地球環境と古生物は互いに影響を及ぼしあって変遷し、現在の姿があることを理解する。 * 地球環境や古生物について調べる方法や地質時代の区分のしかたを理解し、時間の長さを感じ覚的にとらえる。 * 人類の進化について学ぶ。	中間考查	中間考查	問題集課題
	10	第3編 大気と海洋 第1章 地球の熱収支 1. 大気の構造 2. 地球全体の熱収支	* 地球の大気が、気温の変化から4つの層に分けられていることを理解する。特に、対流圏で様々な気象現象のほとんどが起きていることを学ぶ。 * 太陽放射エネルギーと地球のエネルギー収支について理解する。 * 地球の自然環境は、地球のエネルギー収支のつりあいの上に成り立っていることを学ぶ。			
			中間考查			
	11	第2章 大気と海水の運動 1. 大気の大循環 2. 海水の運動	* 大気や海水の大循環は、緯度方向の熱収支の不均衡を是正するためのものであることを理解する。 * 長い時間をかけてめぐる海洋の鉛直方向の循環を学ぶ。 * 海洋の層構造再現実習			
	12	3. 日本の天気と気象災害 第4編 地球の環境 第1章 地球の環境と日本の自然環境 1. 気候の自然変動	* 日本の各季節の天気の特徴を理解し、気象災害について学び、防災に役立てる。 * 地球を構成する大気、海洋、固体地球、生物の間には絶えず相互作用があることを踏まえ、気候の自然変動や人間活動による環境変化を、全地球的な空間スケール、および長期的な時間スケールでとらえて理解し、考える力を身につける。			
			期末考查	期末考查	期末考查	問題集課題
3 学期	1	2. 人間活動による環境変化 3. 日本の自然環境 第5編 太陽系と宇宙 第1章 太陽系と太陽 1. 太陽系の天体	* 環境保全を図りながら、持続可能な開発をする必要があることも学ぶ。 * 日本は、特徴的な地形や気候によって、豊かな自然環境が育まれていることを理解する。一方で、多発する自然災害に対応する必要があることも学ぶ。 * 太陽系を構成する天体について理解を深める。 * スペクトル観察実習	学年末考查	学年末考查	問題集課題
	2	2. 太陽 3. 太陽系の誕生と現在の地球	* 惑星の特徴、太陽の表面のようすやエネルギー源、太陽の活動について学ぶ。 * 太陽および太陽系の形成過程を学び、地球に生命が誕生した要因を理解する。			
			学年末考查			
	3	第2章 宇宙の誕生 1. 宇宙の誕生	* 銀河系の構造を理解し、その中の太陽系の位置を学ぶ。 * ビッグバンで始まった宇宙の誕生と変遷を学ぶ。			

担当者からのメッセージ(学習方法など)

地学は日々の中で共に生きる学問であるから、教科書を大切にすることもさることながら、日常の中で学びをアウトプットすることを欠かさないようにしましょう。考查前には問題集を解いて、知識を体系的に捉え直します。実験や実習においてはその目的を理解して取り組み、因果関係を丁寧に表現したレポートの作成を行います。

科目名	地学基礎		学年	類型・コース	単位数
			2 年	普通科文型 英語コース	2
学習の 目標	自然界における様々な事象の因果関係を正しく理解しつつ、地球と宇宙の全体像、およびその歴史を把握する。その結果、自然や、その人間との関わりについて幅広く考察する能力をつける。				
使用教材	教科書：数研出版「高等学校 地学基礎」 副教材：浜島書店「ニューステージ地学図表」、第一学習社「セミナー地学基礎」				
評価	評価法	各定期考査の成績、小テストの成績、実験・実習レポートなどを総合して評価する。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	知識の習得や知識の概念的な理解, 実験操作の基本的な技術の習得ができているか。	
		b	思考・判断・表現	習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身につけているか。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身につける過程において、粘り強く学習に取り組んでいるか、自ら学習を調整しようとしているか。	
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, Cの3段階)及び評定(1～5の5段階)にまとめます。				

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
				a	b	c
1 学期	4	第1編 活動する地球 第1章 地球の構造 1. 地球の形と大きさ 2. 地球の構造	＊ 地球の形と大きさの測定のしかた、地球内部の層構造を理解する。 ＊ 地球の形と大きさは、測定方法の歴史を踏まえて学ぶ。 ＊ 地球内部は構成物質の違いから、地殻・マントル・核に分けられること、および変形のしやすさによる違いから、リソスフェア・アセノスフェアに分けられることを理解する。	中間考査	中間考査	授業態度 実習態度 (通年)
	5	第2章 プレートの運動 1. プレートテクトニクスと地殻変動 2. プレート運動のしかた	＊ 地球の表面は、十数枚のプレートでおおわれており、それぞれが別の方向に動いているため、その境界で様々な地殻変動が起こることを理解する。 ＊ プレート境界では、断層や褶曲などの地質構造が形成されたり、変成作用が生じたりすること学ぶ。 ＊ プレート運動の原動力について理解する。			問題集課題
	中間考査					
	6	第3章 地震 1. 地震 2. 地震の分布 3. 地震災害 第4章 火山 1. 火山活動	＊ 地震発生のしくみを、プレート運動と関連付けて学ぶ。 ＊ 地震波の性質や、プレート境界と地震の分布の関係について理解する。 ＊ 震源決定自習 ＊ 日本付近で発生する地震について理解を深めるとともに、地震によってどのような災害が発生し、どのような対応が必要かを理解する。 ＊ 火山噴火のしくみ、多様な噴火活動と火山地形、マグマが発生するしくみを学ぶ。 ＊ 火山活動はプレート運動と関連があり、火山の分布はプレート境界に多いことを理解する。			レポート
	7	2. 火成岩 3. 火山がもたらす恵みと災害	＊ 火成岩の特徴や分類について学ぶ。 ＊ 火成岩観察実習 ＊ 日本における活火山を知り、火山災害への対応だけでなく、			レポート

			火山の恩恵についても理解する。	期末考查	期末考查	問題集課題
			期末考查			
2 学期	9	第2章 古生物の変遷と地球環境 1. 化石と地質時代の区分 2. 古生物の変遷	* 堆積作用・侵食作用で形成される陸上と海底の地形や、堆積岩の形成過程を学ぶ。 * 土砂災害の種類について学ぶ。 * 地層の重なり方や変形のしかた、堆積構造を観察によって、地層の本来の層序や堆積環境がわかることを理解する。 * 地球環境と古生物は互いに影響を及ぼしあって変遷し、現在の姿があることを理解する。 * 地球環境や古生物について調べる方法や地質時代の区分のしかたを理解し、時間の長さを感覚的にとらえる。 * 人類の進化について学ぶ。			レポート
	10	第3編 大気と海洋 第1章 地球の熱収支 1. 大気の構造 2. 地球全体の熱収支	* 地球の大気が、気温の変化から4つの層に分けられていることを理解する。特に、対流圏で様々な気象現象のほとんどが起きていることを学ぶ。 * 太陽放射エネルギーと地球のエネルギー収支について理解する。 * 地球の自然環境は、地球のエネルギー収支のつりあいの上に成り立っていることを学ぶ。			
			中間考查	中間考查	問題集課題	
	11	第2章 大気と海水の運動 1. 大気の大循環 2. 海水の運動	* 大気や海水の大循環は、緯度方向の熱収支の不均衡を是正するためのものであることを理解する。 * 長い時間をかけてめぐる海洋の鉛直方向の循環を学ぶ。 * 海洋の層構造再現実習			レポート
	12	3. 日本の天気と気象災害 第4編 地球の環境 第1章 地球の環境と日本の自然環境 1. 気候の自然変動	* 日本の各季節の天気の特徴を理解し、気象災害について学び、防災に役立てる。 * 地球を構成する大気、海洋、固体地球、生物の間には絶えず相互作用があることを踏まえ、気候の自然変動や人間活動による環境変化を、全地球的な空間スケール、および長期的な時間スケールでとらえて理解し、考える力を身につける。			問題集課題
			期末考查	期末考查	問題集課題	
3 学期	1	2. 人間活動による環境変化 3. 日本の自然環境 第5編 太陽系と宇宙 第1章 太陽系と太陽 1. 太陽系の天体	* 環境保全を図りながら、持続可能な開発をする必要があることも学ぶ。 * 日本は、特徴的な地形や気候によって、豊かな自然環境が育まれていることを理解する。一方で、多発する自然災害に対応する必要があることも学ぶ。 * 太陽系を構成する天体について理解を深める。 * スペクトル観察実習			レポート
	2	2. 太陽 3. 太陽系の誕生と現在の地球	* 惑星の特徴、太陽の表面のようすやエネルギー源、太陽の活動について学ぶ。 * 太陽および太陽系の形成過程を学び、地球に生命が誕生した要因を理解する。			
			学年末考查	学年末考查	問題集課題	
	3	第2章 宇宙の誕生 1. 宇宙の誕生	* 銀河系の構造を理解し、その中の太陽系の位置を学ぶ。 * ビッグバンで始まった宇宙の誕生と変遷を学ぶ。			

担当者からのメッセージ(学習方法など)

地学は日々の中で共に生きる学問であるから、教科書を大切にすることもさることながら、日常の中で学びをアウトプットすることを欠かさないようにしましょう。考查前には問題集を解いて、知識を体系的に捉え直します。実験や実習においてはその目的を理解して取り組み、因果関係を丁寧に表現したレポートの作成を行います。

科目名	化学	学年	類型・コース	単位数
		2 年	普通科理型	3
学習の目標	化学的な事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しを持って観察、実験を行うことなどを通して、化学的な事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を身に付ける。			
使用教材	教科書:『化学』(数研出版) 副教材:『新課程対応 サイエンスビュー新化学資料』(実教出版) 『新課程 リード α 化学』(数研出版)			
評価	評価法	定期考査、小テスト、実験レポート、発表、ワークシート、振り返りの記述等で評価します		
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	化学の基本的な概念や原理・法則を理解しているとともに、化学的に探究するために必要な観察、実験などに関する操作や記録などの技能を身に付けている。
		b	思考・判断・表現	化学的な事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど科学的に探究している。
		c	主体的に学習に取り組む態度	化学的な事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり、振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, Cの3段階)及び評定(1～5の5段階)にまとめます。			

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
				a	b	c
1 学期	4	第2編 第2章 1 電池	- 金属のイオン化傾向とともに電池の仕組みについて復習し、ダニエル電池や鉛蓄電池、燃料電池などの電池の具体的な構造と正極および負極において起こる反応について理解する。 【実習】ダニエル電池の解説動画を作ろう	中間考査	中間考査	動画
		2 電気分解	外部から加えた電気エネルギーによって電気分解が起こることを、水溶液の電気分解を題材としながら、酸化還元反応と関連付けて理解する。	小テスト (水溶液の電気分解)		
	5		【実験】電解質水溶液の電気分解 - 電気分解の工業的利用、金属の精錬	レポート	レポート	レポート
		中間考査				振り返りシート
	6	第1編 第1章 固体の構造 1 結晶とアモルファス	結晶の特徴と単位格子、配位数について理解する。また、アモルファス(非晶質)においては通常の結晶との違いを理解し、アモルファスの構造をもつ物質について学ぶ。	期末考査	期末考査	
		2 金属結晶	金属結晶の構造について学び、それぞれの結晶格子の構造から、原子半径や充填率、密度を計算する方法を理解する。			
		3 イオン結晶	【実習】金属の単位格子模型を作ろう - イオン結晶の構造について学び、結晶格子の種類や陽イオンと陰イオンの配列、イオン半径の比について理解する。			
		4 分子間力と分子結晶	ファンデルワールス力や水素結合などの分子間力について復習し、分子間力によってできる分子結晶の性質や具体的な物質についての理解を深める。	小テスト (結晶の分類)		振り返りシート

		第 2 章 1 粒子の熱運動	* 気体分子の熱運動に運動エネルギーや温度が関係することを理解し、それらを関連付けながら物質の三態変化について復習する。 * 【実習】シミュレーションソフトを用いて分子の熱運動について復習する			振り返りシート
		2 三態変化とエネルギー	* 状態変化に伴う熱の出入りとその名称について理解する。また、物質を構成する粒子間にはたらく力の大小と融点や沸点の関係についても理解する。			
		3 気液平衡と蒸気圧	* 大気圧と気液平衡の概念を理解する。また、蒸気圧や蒸気圧と沸騰の関係性、物質の状態図についても理解する。			
	7	第 3 章 1 気体の体積	* 理想気体の体積や圧力、絶対温度の関係についてボイルの法則、シャルルの法則、ボイル・シャルルの法則が成りたつことを理解し、これらの関係が式で表せることも理解する。			
		2 気体の状態方程式	* ボイル・シャルルの法則から理想気体の状態方程式が導かれることを理解する。また、理想気体の状態方程式を利用することで、気体の分子量を求めることができることも理解する。 * 【実験】状態方程式を用いた分子量測定	レポート	レポート	
	期末考査					
2 学期	9	3 混合気体の圧力	* 混合気体について、理想気体の状態方程式から導かれる分圧の法則について理解する。また、分圧と物質質量や体積、モル分率の関係について理解し、モル分率を用いた平均分子量の考え方や水上置換で捕集した気体の分圧についても理解する。	中間考査	中間考査	振り返り
		4 実在気体	* 気体と理想気体との違いについて理解し、その違いを踏まえ、実在気体を理想気体とみなして扱える条件についても理解する。			
		第 4 章 1 溶解とそのしくみ	* イオン結晶や分子からなる物質の溶解について、溶質および溶媒の極性の有無などと関連付けながら、そのしくみや溶解性の違いを理解する。 * 【実験】分子の極性と溶解	レポート	レポート	
		2 溶解度	* 飽和溶液において成り立っている溶解平衡について理解する。さらに溶解平衡と関連付けながら固体の溶解度や再結晶について復習するとともに、新たに水和水をもつ物質の溶解量についても理解する。また、気体の溶解度と温度・圧力の関係について理解をし、ヘンリーの法則についても理解する。さらに溶液の濃度の表し方について、質量パーセント濃度とモル濃度について復習するとともに、新たに質量モル濃度についても理解する。			
	10	3 希薄溶液の性質	* 希薄溶液では溶質の数にのみ依存して成り立つ共通の性質(蒸気圧降下、沸点上昇、凝固点降下、浸透圧)があることを理解し、それぞれの現象についても理解する。また、凝固点降下や浸透圧を利用することで分子量の測定ができることなども理解する。 * 【実験】凝固点降下を利用した分子量測定	レポート	レポート	
	中間考査					
	10	4 コロイド溶液	* コロイドとその分類について理解をし、コロイド溶液に特徴的な性質(チンダル現象、ブラウン運動、透析、電気泳動)を現象を交えて理解する。また、親水コロイドや疎水コロイド、保護コロイドに特徴的な現象についても理解する。 * 【実験】水酸化鉄(Ⅲ)のコロイド溶液を作る	期末考査	期末考査	振り返り
				レポート	レポート	

		第 2 編物質の変化 1 化学反応と熱 2 ハスの法則	* 化学反応に伴って放出・吸収する熱量をエンタルピー変化で表すことと、反応エンタルピーの種類とそれぞれの定義について理解する。また、実験により反応エンタルピーを測定できることも理解する。 * ハスの法則を用いることで実験で測定が困難な反応エンタルピーを求めることができることを理解する。また生成エンタルピーや結合エネルギーなどについて、ハスの法則を利用して反応エンタルピーを算出する方法について理解する。 * 【実験】ハスの法則	小テスト (エンタルピー変化を付した反応式) レポート	レポート	
	11	3 化学反応と光 第3章 1 化学反応の速さ 2 反応条件と反応速度 3 化学反応のしくみ	* 化学反応の前後における物質のもつ化学エネルギーの差が光の発生や吸収となって現れることを、光合成や光触媒などの身近な具体例を交えながら理解する。 * 反応速度の表し方とその求め方を理解する。 * 速度定数を用いた反応速度式の表し方と実験データからの速度定数の求め方を理解する。また、反応速度に影響を与える要因については「濃度・温度・触媒の有無」があることを理解する。触媒の利用例についても理解する。 * 化学反応のしくみについて、反応速度に影響を与える要因などと反応の活性化エネルギーなどを関連付けながら理解する。			
	期末考査					
3 学期	12	第 4 章 1 可逆反応と化学平衡	* 可逆反応と平衡状態について理解し、平衡状態では濃度を用いて平衡定数が記述できること(化学平衡の法則)を理解する。さらに、固体が含まれる反応や液体どうしの反応、気体のみが反応する場合の平衡定数の記述の仕方について理解する。	学年末 考査	学年末 考査	
		2 平衡状態の変化	* 平衡の移動に関するルシャトリエの原理を理解し、濃度・圧力・温度を変化させることによって平衡がどのように移動するか理解する。また触媒と反応速度、平衡移動の関係を理解し、これらの考え方を利用した工業的製法についても理解する。			
	1	3 電解質水溶液の化学平衡	* 【実験】ルシャトリエの原理 * 電解質水溶液においても電離平衡が成りたつことを理解し、弱酸や弱塩基における濃度、電離度、電離定数、水のイオン積、pH の関係を理解する。また、これらの考え方を基盤とし、弱酸・弱塩基の遊離、塩の加水分解、緩衝液、難溶性塩の水溶液中の平衡についても理解する。			
	2	第 3 編 1 非金属元素	* 【実習】各非金属元素の関連化合物についてジグソー学習を行い、動画を作成し、その性質について理解する。	レポート	レポート	
		2 金属元素	* 【実験】硫酸の性質 * 【実習】各金属元素の関連化合物についてジグソー学習を行い、動画を作成し、その性質について理解する。			
	学年末考査					
	3	金属イオンの分離・確認	* それぞれの金属イオンの反応性の違いに基づいて、複数の金属イオンを含む混合溶液から金属イオンを分離する方法を理解する。			

担当者からのメッセージ(学習方法など)
1 つ目は基礎知識を定着させること。化学は化学基礎を土台として、より深く学んでいく教科です。そのため、化学基礎の基本的な知識なしでは習得は非常に難しいです。授業では「これだけは覚えておいて！」という事項について小テストを行いますので、毎回100点を目指しましょう。
2 つ目は実験レポートです。レポートの難易度も量も1年生のころよりも格段に上がります。必要ならば資料集や書籍を参考にして徹底的に「思考・記述」する練習をしましょう。
3 つ目は iPad の活用です。iPad を使用したシミュレーションや動画作成を何回か行う予定です。「人にわかりやすく説明する」ことを念頭に動画で学習内容をまとめる練習をしてみましょう。

科目名	体育	学年	類型・コース	単位数
		2年	普通科、理数科	2
学習の目標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と課題を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質や能力を育成する。			
使用教材	教科書:『新高等保健体育』(大修館書店) 副教材:『ステップアップ高校スポーツ 2022』(大修館書店)			
評価	評価法	各種目における技能、学習カード、及び観察(授業内での仲間との連携やその種目に対する主体性)で評価します。		
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解しているとともに、それらの技能を身に付けている。
		b	思考・判断・表現	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し、判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。
		c	主体的に学習に取り組む態度	生涯にわたって継続して運動に親しむために、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするとともに、健康・安全を確保している。
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, Cの3段階)および評定(1～5の5段階)にまとめます。			

期	月	時数	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
					a	b	c
1学期	4	5	体づくり運動(体ほぐしの運動)	* 軽快な運動を行い、心と体は互いに影響し、変化することや心身の状態に気付き、仲間と自主的に関わることができる。 * 自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。	学習カード(知識) 行動観察(運動)	行動観察(仲間との連携)	行動観察
	5	7	選択競技①(器械運動(マット)・器械運動(跳び箱)・器械運動(鉄棒)陸上競技)	【器械運動】 * 回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技や発展技を行うことができる(マット運動)。 * 切り返し系や回転系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技や発展技を行うことができる(跳び箱運動)。 * 支持系や懸垂系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技や発展技を行うことができる(鉄棒運動)。 * 技などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができる。 * 器械運動に自主的に取り組むとともに、互いに良い演技を讃え、助け合い、教え合いをしようすることができる。	【器械運動】 学習カード(知識) その種目の演技(技能)	【器械運動・陸上競技】 行動観察(仲間との連携)	【器械運動・陸上競技】 行動観察

				【陸上競技】 ＊記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、各種目特有の技能を身に付けることができる。 ＊動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を他者に伝えることができる。 ＊陸上競技に主体的に取り組むとともに、ルールやマナーを大切にし、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にすることができる。	【陸上競技】 学習カード(知識) その種目のフォームや記録(技能)		
	中間考査実施予定なし						
	6	7	選択競技①	上記選択競技①同様。	上記選択競技①同様		
	7	2	体育理論① 「運動やスポーツの技能と体力およびスポーツによる障害」	＊運動やスポーツの技能と体力は、相互に関連していること。また、期待する成果に応じた技能や体力の高め方があること。さらに、過度な負荷や長期的な酷使は、けがや疾病の原因となる可能性があることについて自己の考えを深めることができる。＊	ワークシート	行動観察 ワークシート	行動観察
	期末考査実施予定なし						
2学期	9	1	体づくり運動 (実生活に生かす運動の計画)	＊健康に生活するための体力、及び運動を行うための体力向上を図る運動の計画と実践ができる。 ＊自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。			
	9	7	選 択 競 技 ② (ソフトボール(ベースボール型)・ハンドボール(ゴール型)・ソフトテニス(ネット型))	【ソフトボール】 ＊各種目の技術や戦術には名称があり、それらをゲーム中に適切に発揮することが攻防のポイントであることが理解できる。 ＊相手側のコートの空いているところや狙ったところにボールを打つことができる。 ＊選択した運動について合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えることができる。 ＊選択した運動に自主的に取り組むとともに、作戦などについての話し合いに貢献しようとしてたり、互いに助け合い、教え合ったりできる。 【ハンドボール】 ＊各種目の技術や戦術には名称があり、それらをゲーム中に適切に発揮することが攻防のポイントであることが理解できる。 ＊安定したボール操作と空間を作り出すなどの連携した動きによってゴール前への侵入などから攻防を展開できる ＊選択した運動について合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えることができる。 ＊選択した運動に自主的に取り組むとともに、作戦などについての話し合いに貢献しようとしてたり、互いに助け合い、教え合ったりできる。 【ソフトテニス】 ＊各種目の技術や戦術には名称があり、それらをゲーム中に適切に発揮することが攻防のポイントであることが理解できる。 ＊相手側のコートの空いた場所をめぐる攻防をすることができる。 ＊選択した運動について合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理	【ソフトボール・ハンドボール・ソフトテニス】 学習カード(知識) ボールコントロール(技能)	【ソフトボール・ハンドボール・ソフトテニス】 行動観察(仲間との連携)	【ソフトボール・ハンドボール・ソフトテニス】 行動観察
	10	7					

				由を仲間に伝えることができる。 ＊選択した運動に自主的に取り組むとともに、作戦などについての話し合いに貢献しようとしてたり、互いに助け合い、教え合ったりできる。			
				中間考査実施予定なし			
	11	8	選 択 競 技 ③ (サッカー(ゴール型)・バスケットボール(ゴール型)・バドミントン(ネット型))	【サッカー・バスケットボール】 ＊各種目の技術や戦術には名称があり、それらをゲーム中に適切に発揮することが攻防のポイントであることが理解できる。 ＊安定したボール操作と空間を作り出すなどの連携した動きによってゴール前への侵入などから攻防を展開できる ＊選択した運動について合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えることができる。 ＊選択した運動に自主的に取り組むとともに、作戦などについての話し合いに貢献しようとしてたり、互いに助け合い、教え合ったりできる。 【バドミントン】 ＊各種目の技術や戦術には名称があり、それらをゲーム中に適切に発揮することが攻防のポイントであることが理解できる。 ＊相手側のコートの空いているところや狙ったところにボールを打つことができる。 ＊選択した運動について合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えることができる。 ＊選択した運動に自主的に取り組むとともに、作戦などについての話し合いに貢献しようとしてたり、互いに助け合い、教え合ったりできる。	【サッカー・バスケットボール・バドミントン】 学習カード(知識) 仲間との連携プレイ(技能)	【サッカー・バスケットボール・バドミントン】 行動観察(仲間との連携)	【サッカー・バスケットボール・バドミントン】 行動観察
	12	6					
				期末考査実施予定なし			
3 学期	1	2	体育理論② 「スポーツの技術と技能及びその変化」	＊運動やスポーツの技術は、学習を通して技能として発揮されるようになること。また、技術の種類に応じた学習の仕方があること。現代のスポーツの技術や戦術、ルールは、用具の改良やメディアの発達に伴い変わり続けていることについて、自己の考えを深めることができる。	ワークシート	行動観察 ワークシート	行動観察
		5	選 択 競 技 ④ (バドミントン(ネット型)・バレーボール(ネット型)・卓球(ネット型))	【バドミントン】 上記選択競技③同様。 【バレーボール】 ＊各種目の技術や戦術には名称があり、それらをゲーム中に適切に発揮することが攻防のポイントであることが理解できる。 ＊ポジションの役割に応じたボール操作によって、仲間と連携した「拾う・つなぐ・打つ」などの一連の流れで攻撃を組み立てたりして、相手側のコートの空いた場所をめぐる攻防をすることができる。 ＊選択した運動について合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えることができる。 ＊選択した運動に自主的に取り組むとともに、作戦などについての話し合いに貢献しようとしてたり、互いに助け合い、教え合ったりできる。 【卓球】 ＊各種目の技術や戦術には名称があり、それらをゲーム中に適切に発揮することが攻防のポイントであることが理解できる。 ＊相手側のコートの空いているところや狙ったところに	【バドミントン】 上記選択競技③同様 【バレーボール】 学習カード(知識) 仲間との連携プレイ(技能) 【卓球】 学習カード(知識)	【バドミントン・バレーボール・卓球】 行動観察(仲間との連携)	【バドミントン・バレーボール・卓球】 行動観察
	2	6					

				ボールを打つことができる。 ＊選択した運動について合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えることができる。 ＊選択した運動に自主的に取り組むとともに、作戦などについての話し合いに貢献しようとしたり、互いに助け合い、教え合ったりできる。			
			学年末考査実施予定なし				
	3	2	選択競技④	上記選択競技④同様。	上記選択競技④同様		
		2	体育理論③ 「運動やスポーツの技能の上達過程」 「運動やスポーツの活動時の健康・安全の確保の仕方」	＊運動やスポーツの技能の上達過程にはいくつかの段階があり、その学習の段階に応じた練習方法や運動観察の方法、課題の設定方法などがあること。また、これらの獲得には、一定の期間がかかることについて、自己の考えを深めることができる。 ＊運動やスポーツを行う際は、様々な危険を予見し、回避することについて、自己の考えを深めることができる。	ワークシート	行動観察 ワークシート	行動観察

担当者からのメッセージ(学習方法など)

選択競技においては、副教材を用いて各種目における知識(技術の名称等)を説明しながら、各種目の技能レベルの向上を目指し、仲間と協力して取り組むことができるよう指導します。

体育理論においては、教科書やプリントを用いて授業を進め、個人がスポーツ文化を創造する主体となっていることに気付くことができるよう指導します。

科目名	保健	学年	類型・コース	単位数
		2年	普通科、理数科	1
学習の目標	保健の見方、考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質や能力を育成する。			
使用教材	教科書：『新高等保健体育』（大修館書店） 副教材：『図説 新高等保健』（大修館書店）			
評価	評価法	定期考査、小テスト(単元ごと)、授業ファイル、ワークシートで評価します。		
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに技能を身につけている。
		b	思考・判断・表現	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、目的や状況に応じて他者に伝えている。
		c	主体的に学習に取り組む態度	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むための学習に主体的に取り組もうとしている。
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, Cの3段階)および評定(1～5の5段階)にまとめます。			

期	月	時数	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
					a	b	c
1学期	4	3	生涯の各段階における健康 「思春期と健康」	* 思春期における心身の発達や性的成熟についてや、思春期に起こりやすい健康課題について理解することができる。 * 自分の行動への責任感や異性の理解と尊重の必要性や、性行動の選択には性情報への適切な対処が必要であることを理解することができる。 * 結婚生活と健康との関係についてや、結婚生活における夫婦関係、親子関係による健康への影響について理解することができる。 * 受精、妊娠、出産の過程と、それに伴う健康課題についてや、妊娠・出産期に活用できる母子保健サービスについて理解することができる。 * 家族計画の意義についてや、人工妊娠中絶が心身へ与える影響について理解することができる。 * 加齢による心身の変化や、高齢期の健康課題についてや、若年期の生活習慣が中高年期の健康に影響することを理解することができる。 * 高齢社会における健康課題についてや、高齢者の暮らしや健康を支えるために必要な社会の取り組みについて理解することができる。	期末考査	期末考査 ワークシート	小テスト 授業ファイル
	5	3	「性意識の変化と性行動の選択」 「結婚生活と健康」 「妊娠・出産と健康」 「家族計画」 「加齢と健康」 「高齢者に対応した取り組み」				
	中間考査実施予定なし						
	6	4	「働くことと健康」				
	7	2	「労働災害の防止」				

			「働く人の健康づくり」	みについて理解することができる。 *職場での心身両面にわたる積極的な健康づくり活動についてや、働く人の健康には余暇の活用など生活の質の向上も重要であることを理解することができる。			
	期末考査						
2 学期	9	4	健康を支える環境づくり 「環境と健康」 「水質汚濁・土壌汚染と健康」	*大気汚染による健康への影響についてや、地球規模で起きている大気環境の問題について理解することができる。 *水質汚濁による健康への影響についてや、土壌汚染による健康への影響について理解することができる。	期末考査	期末考査	ワークシート 授業ファイル
	10	3	「健康被害を防ぐための環境対策」 「環境衛生に関わる活動」	*環境汚染による健康への影響を防ぐために行われている対策についてや、産業廃棄物の処理や新たな環境汚染の課題について理解することができる。 *安全な水の確保のために必要な上下水道の整備の現状と課題についてや、生活環境を保全するためのごみ処理の現状と、今後の課題について理解することができる。			
	中間考査実施予定なし						
	11	4	「食品の安全性と健康」 「食品の案税制を確保する取り組み」	*食品の安全性が損なわれると健康被害が生じる可能性があることや、人々の健康を支えるためには食品の安全性の確保が重要であることを理解することができる。 *食品の安全性を確保するための行政や生産・製造者の役割についてや、食品による健康被害を防ぐために私たち消費者が果たす役割について理解することができる。			
	12	3	「保険制度とその活用」 「医療制度とその活用」 「医薬品の精度とその活用」	*保健行政の役割についてや、健康の保持・増進には保健サービスの適切な活用が必要であることを理解することができる。 *医療保険の仕組みについてや、医療サービスの適切な活用方法について理解することができる。 *医薬品には承認制度や販売に関する規制が設けられていることについてや、医薬品は、使用法に関する注意を守り、正しく使う必要があることを理解することができる。			
	期末考査						
3 学期	1	4	「様々な保健活動や社会的対策」	*日本や世界では健康課題に対応した保健活動や対策が行われていることや、国際機関や民間機関などにより行われている様々な保健活動や対策について理解することができる。	期末考査	期末考査	小テスト 授業ファイル
	2	3					
	学年末考査						
	3	2	「誰もが健康に過ごせる社会に向けた環境づくり」	*自他の健康の保持・増進には健康を支える環境づくりが重要であることや、健康を支える環境づくりへの積極的な参加が自他の健康につながることを理解することができる。			

担当者からのメッセージ(学習方法など)

上記教材の他にプリントを使用しながら授業を進め、各単元において自己や社会の課題を発見し、その解決を図る主体的・協働的な学習過程を通して、生涯を通じて心身の健康を保持増進するための資質・能力を育成することを目指します。

科目名	English Communication II		学年	類型・コース	単位数
			2 年	普通科・理数科	4
学習の 目標	英語学習の特質を踏まえ、聞くこと、読むこと、話すこと[やり取り]、話すこと[発表]、書くことの五つの領域別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、「知識・技能」「思考・判断・表現」を一体的に育成するとともに、その過程を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を育成する。				
使用教材	教科書:『CREATIVE English Communication II』(第一学習社) 副教材:『CREATIVE English Communication II 予習・授業ノート』(第一学習社)				
評価	評価法	定期考査、小テスト、パフォーマンス課題(スピーチ発表、プレゼンテーション、スピーキングテスト)、振り返りシート			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。	
		b	思考・判断・表現	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を身に付けている。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けている。	
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, Cの3段階)及び評定(1～5の5段階)にまとめます。				

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
				a	b	c
1 学期	4	Lesson1 Voice for Action	<題材内容とねらい> ・国連ユース気候サミットの参加者の活動とメッセージを的確に理解し、その内容を整理して伝えることができる。 ・整理した内容を活用して、自分が模擬サミットに参加したと想定して、環境保護のためにしたい活動を説明することができる。 <文型・文法事項> ・さまざまな助動詞、分詞構文(現在分詞)について理解を深め、これらを適切に活用することができる。 <五領域の知識・技能> ・英文の内容に応じた音読をすることができる。 <場面・状況など> ・模擬サミットの特徴を理解し、聞き手に配慮して、環境保護のためにしたい活動について説明しようとしている。	春課題テスト パフォーマンス課題 中間考査	春課題テスト パフォーマンス課題 中間考査	提出物 音読テスト パフォーマンス課題
	5	Lesson 2 Aren't You Sleepy?	<題材内容とねらい> ・動物の睡眠についての的確に理解し、その内容を整理して伝えることができる。			

			・整理した内容を活用して、自分の睡眠習慣について説明することができる。 <文型・文法事項> ・受け身の分詞構文, 副詞節中の〈S + be〉の省略について理解を深め, これらを適切に活用することができる。 <五領域の知識・技能> ・未知語の意味を推測して, 英文を理解することができる。 <場面・状況など> ・インタビューにおける注意点を理解しようとしている。 ・聞き手や読み手に配慮して, わかりやすく自分の睡眠習慣について説明しようとしている。			
	中間考査					
	6	Lesson 3 Becoming Attractive to Your Audience	<題材内容とねらい> ・アスリートのスピーチに見られる特徴についての確に理解し, その内容を整理して伝えることができる。 ・整理した内容を活用して, 高校生活で達成したいことについてスピーチをすることができる。 <文型・文法事項> ・関係代名詞の非制限用法, 仮定法過去・仮定法過去完了について理解を深め, これらを適切に活用することができる。 <五領域の知識・技能> ・文章の展開(列挙)に注意して, 英文を理解することができる。 <場面・状況など> ・スピーチにおける注意点を理解しようとしている。 ・効果的なスピーチにするための方法を理解し, 聞き手に配慮して, わかりやすくスピーチをしようとしている。	パフォーマンス課題 期末考査	パフォーマンス課題 期末考査	提出物 音読テスト パフォーマンス課題
	7	Lesson 4 Are You Prepared?	<題材内容とねらい> ・自然災害と防災についての確に理解し, その内容を整理して伝えることができる。 ・整理した内容を活用して, 防災グッズについてプレゼンテーションをすることができる。 <文型・文法事項> ・助動詞 + have + 過去分詞, 完了不定詞について理解を深め, これらを適切に活用することができる。 <五領域の知識・技能> ・文章の展開(例示・追加)に注意して, 英文を理解することができる。 <場面・状況など> ・効果的なプレゼンテーションにするための方法を理解し, 聞き手に配慮して, わかりやすくプレゼンテーションをしようとしている。			
	期末考査					
2 学期	9	Lesson 5 The Era of Beautiful Harmony	<題材内容とねらい> ・日本および世界の元号についての確に理解し, その内容を整理して伝えることができる。 ・日本の俳句の英訳をすることができる。 <文型・文法事項> ・関係副詞の非制限用法, 同格の that について理解を深め, これらを適切に活用することができる。 <五領域の知識・技能> ・同格表現や言い換え表現に注意して, 英文を理解することができる。	課題テスト パフォーマンス課題	課題テスト パフォーマンス課題	音読テスト パフォーマンス課題

		<場面・状況など> ・ディスカッションの役割分担を理解しようとしている。 ・読み手に配慮して、わかりやすい俳句の英訳をしようとしている。	中間考査	中間考査	
10	Lesson 6 Actions to Reduce Loss and Waste	<題材内容とねらい> ・フードロス・フードウェイストの問題についての確に理解し、その内容を整理して伝えることができる。 ・整理した内容を活用して、フードロス・フードウェイストについてのアンケートに質問項目を追加し、その理由を説明することができる。 <文型・文法事項> ・完了形の分詞構文、複合関係詞について理解を深め、これらを適切に活用することができる。 <五領域の知識・技能> ・文章の展開(対照)に注意して、英文を理解することができる。 <場面・状況など> ・英語のアンケートの構成を理解しようとしている。 ・聞き手や読み手に配慮して、アンケートに質問項目を追加し、わかりやすくその理由を説明しようとしている。			
中間考査					
11	Lesson 7 Living with Adventure	<題材内容とねらい> ・南谷真鈴さんの冒険と、彼女のメッセージについての確に理解し、その内容を整理して伝えることができる。 ・整理した内容を活用して、自分自身の目標や行動計画を説明することができる。 <文型・文法事項> ・さまざまな仮定法、否定語+倒置について理解を深め、これらを適切に活用することができる。 <五領域の知識・技能> ・やり取りをうまく継続させることができる。 <場面・状況など> ・プレゼンテーションの注意点を理解し、聞き手に配慮して、わかりやすく自分自身の目標や行動計画を説明しようとしている。	パフォー マンス課 題	パフォー マンス課 題	音読テスト
			期末考査	期末考査	パフォー マンス課 題
12	Lesson 8 Power to the People!	<題材内容とねらい> ・電池の発展についての確に理解し、その内容を整理して伝えることができる。 ・整理した内容を活用して、創造的であるためには何が必要かを説明することができる。 <文型・文法事項> ・独立不定詞・独立分詞構文、if …以外が条件を表す仮定法について理解を深め、これらを適切に活用することができる。 <五領域の知識・技能> ・文章の展開(時間的順序)に注意して、英文を理解することができる。 <場面・状況など> ・ユーザーマニュアルの情報の特徴を理解しようとしている。 ・聞き手や読み手に配慮して、創造的であるためには何が必要かをわかりやすく説明しようとしている。			
期末考査					

3 学 期	1	Lesson 9 Traveling This Beautiful Planet	<題材内容とねらい> ・オーバーツーリズムの問題と新しい旅行様式についての確に理解し, その内容を整理して伝えることができる。 ・整理した内容を活用して, 旅行の写真をソーシャルメディアに挙げるべきかどうかについて, 自分の意見を複数のパラグラフで書くことができる。 <文型・文法事項> ・前置詞+関係代名詞, 強調構文について理解を深め, これらを適切に活用することができる。 <五領域の知識・技能> ・パラグラフごとの役割に注意して, 英文を理解することができる。 <場面・状況など> ・ソーシャルメディアの特徴を理解しようとしている。 ・旅行の写真をソーシャルメディアに挙げるべきかどうかについて, 読み手に配慮して, 自分の意見を複数のパラグラフでわかりやすく書くようとしている。	課題テスト 音読テスト パフォーマンス課題	課題テスト プレ学 年 末 テ スト	提出物 音読テスト パフォーマンス課題 提出物 音読テスト パフォーマンス課題
	2	Optional Lesson 1 May I Have Your Autograph?	<題材内容とねらい> ・ストーリーの展開を的確に理解し, その内容を整理して伝えることができる。 ・整理した内容を活用して, ストーリーに関連する自分の考えを話すことができる。	パフォーマンス課題	プレ学 年 末 テ スト	音読テスト パフォーマンス課題
	学年末考査					
	3	Optional Lesson 2 Information Please	<題材内容とねらい> ・ストーリーの展開を的確に理解し, その内容を整理して伝えることができる。 ・整理した内容を活用して, ストーリーに関連する自分の考えを話すことができる。	学年末考査	学 年 末 考 査	

担当者からのメッセージ(学習方法など)

*音読テストでは、英語を正しく発音できているかだけでなく、読み手を意識して分かりやすく伝えるためのパフォーマンスになっているかを評価します。教科書の QR コードを読み込み、何度も英文を聞いて真似して練習すべきなのは1年生と同じですが、pause の位置やアクセントにも注意してください。(リスニングの練習にもなります。)テストの頻度は、授業の回数をみて調整します。

*英語コミュニケーションⅡは、英語の 4 技能 5 領域(読むこと、聞くこと、話すこと(やりとり・発表)、書くこと)を伸ばすための授業です。そのために、定期テストに加え、ライティング課題やスピーキングテスト(準備型と即興の 2 種類)などのパフォーマンステストを行います。教科書の内容を理解し、覚えただけで満足するのではなく、それらが如何に自己表現に使えるかを考えながら、日頃の努力を積み重ねてください。

科目名	論理・表現Ⅱ		学年	類型・コース	単位数
			2 年	普通科文型	3
学習の目標	英語学習の特質を踏まえ、話すこと[やり取り]、話すこと[発表]、書くことの 3 つの領域別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、「知識・技能」「思考・判断・表現」を一体的に育成するとともに、その過程を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を育成する。				
使用教材	教科書:『EARTHRISE English Logic and Expression Ⅱ Advanced』(数研出版) 副教材:『EARTHRISE English Logic and Expression Ⅱ Advanced 活用ノート』 (数研出版) 『EARTHRISE English Logic and Expression Ⅱ Advanced ワークブック』 (数研出版)				
評価	評価法	定期考査、小テスト、パフォーマンス課題(6 回)、提出物			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、主に、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。	
		b	思考・判断・表現	日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開、事前の準備などにおいて、ディベートやディスカッション、スピーチやプレゼンテーションなどの活動を通じて、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ち、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して書いたり話したりして伝えることができる。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けている。	
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, C の 3 段階)及び評定(1～5の 5 段階)にまとめます。				

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
				a	b	c
1 学期	4	Part 1: 文法の復習 Lesson 1 Have you ever experienced any cultural differences?	さまざまな主語の形 doing【動名詞】 / It is ~ to do / 主語が長い場合/etc.	パフォーマンス課題 中間考査	パフォーマンス課題 中間考査	提出物 パフォーマンス課題
	5	Lesson 2 Where do you usually buy things? Lesson 3 International	さまざまな動詞の形 can / should / don't have to / have [had] been doing / etc. 名詞のはたらきをする表現 to do【不定詞】 / doing【動名詞】 / that /			

		events and cultural exchange	whether / what+S+V / etc.	パフォーマンス課題	パフォーマンス課題	提出物 パフォーマンス課題
	中間考査					
	6	Lesson 4 How have you been lately? Lesson 5 How do you watch movies and things?	形容詞のはたらきをする表現 who, that【関係代名詞】 / doing, done【分詞】 / to do【不定詞】 / etc. 副詞のはたらきをする表現 前置詞＋名詞)/ to do【不定詞】 / if... / Doing...【分詞構文】/ etc.			
	7	Part 2:機能表現 Lesson 1 Making life better	感情を表す It's nice of you to... / I'm really sorry... / My complaint is that... / etc.			
	期末考査					
2学期	9	Lesson 2 Good eating habits	助言する・忠告する／必要・義務を表す You should... / Why don't you...? / ought to... / need to... / etc.	パフォーマンス課題 中間考査	パフォーマンス課題 中間考査	提出物 パフォーマンス課題
	10	Lesson 3 Visiting a new place Lesson 4 Where would you like to live in the future?	勧誘する・提案する／依頼する Why don't we...? / How about doing...? / Could you...? / etc. 賛成する／反対する I agree with... / That's not for me. / It may be true..., but... / etc.			
	中間考査					
	11	Lesson 5 Which candidate is the right person?	意見を述べる／希望を述べる It seems to me that... / In my opinion, / I would like to... / etc.			
	12	Part 3: 論理的な自己表現活動 Lesson 1 Advertising a language school Lesson 2	パラグラフの構成 例示・列挙			

		Inventions and discoveries	for example / such as / in addition to / moreover / as well as /etc.	期 末 考 査	期 末 考 査	
		期末考査				
3 学期	1	Lesson 3 How people use their smartphones	比較・対照 similarly / as / unlike / while / etc.	パフォー マンス課 題	パフォー マンス課 題	提出物 パフォー マンス課 題
	2	Lesson 4 Our accommodation in Okinawa	原因・結果 because / so / that's why ~ /etc.	プレ中間 考査	プレ中間 考査	
		学年末考査		パフォー マンス課 題	パフォー マンス課 題	提出物 パフォー マンス課 題
	3	Lesson 5 Getting ready for high school exams	時間的順序・手順 first / next / finally / then / after that / etc.	学 年 末 考査	学 年 末 考査	

担当者からのメッセージ(学習方法など)

論理・表現Ⅱでは、1 年生次で身につけた文法事項を復習しながら、英語の 4 技能 5 領域のうち、主に話すこと [やりとり][発表]と、書くことを中心に発展させます。主観的な感情だけを述べるのではなく、自らの主張を理由やデータで強化し、誰から見ても分かりやすい意見を表現できるように頑張りましょう。反復練習が必須です。

科目名	論理・表現Ⅱ		学年	類型・コース	単位数
			2 年	普通科理型・英語コース、理数科	2
学習の目標	英語学習の特質を踏まえ、話すこと[やり取り]、話すこと[発表]、書くことの 3 つの領域別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、「知識・技能」「思考・判断・表現」を一体的に育成するとともに、その過程を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を育成する。				
使用教材	教科書:『EARTHRISE English Logic and Expression Ⅱ Advanced』(数研出版) 副教材:『EARTHRISE English Logic and Expression Ⅱ Advanced 活用ノート』(数研出版) 『EARTHRISE English Logic and Expression Ⅱ Advanced ワークブック』(数研出版)				
評価	評価法	定期考査、小テスト、パフォーマンス課題(4 回)、提出物			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、主に、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。	
		b	思考・判断・表現	日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開、事前の準備などにおいて、ディベートやディスカッション、スピーチやプレゼンテーションなどの活動を通じて、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ち、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して書いたり話したりして伝えることができる。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けている。	
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, C の 3 段階)及び評定(1～5の 5 段階)にまとめます。				

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
				a	b	c
1 学期	4	Part 1: 文法の復習 Lesson 1 Have you ever experienced any cultural differences?	さまざまな主語の形 doing【動名詞】 / It is ~ to do / 主語が長い場合/etc.	中間考査	中間考査	提出物
	5	Lesson 2 Where do you usually buy things? Lesson 3 International	さまざまな動詞の形 can / should / don't have to / have [had] been doing / etc. 名詞のはたらきをする表現 to do【不定詞】 / doing【動名詞】 / that /			

		events and cultural exchange	whether / what+S+V / etc.			
	中間考査					
	6	Lesson 4 How have you been lately? Lesson 5 How do you watch movies and things?	形容詞のはたらきをする表現 who, that【関係代名詞】 / doing, done【分詞】 / to do【不定詞】 / etc. 副詞のはたらきをする表現 前置詞＋名詞>/ to do【不定詞】 / if... / Doing...【分詞構文】/ etc.	パフォーマンス課題	パフォーマンス課題	提出物 パフォーマンス課題
	7	Part 2:機能表現 Lesson 1 Making life better	感情を表す It's nice of you to... / I'm really sorry... / My complaint is that... / etc.	期末考査	期末考査	
	期末考査					
2学期	9	Lesson 2 Good eating habits	助言する・忠告する／必要・義務を表す You should... / Why don't you...? / ought to... / need to... / etc.	中間考査	中間考査	提出物
	10	Lesson 3 Visiting a new place Lesson 4 Where would you like to live in the future?	勧誘する・提案する／依頼する Why don't we...? / How about doing...? / Could you...? / etc. 賛成する／反対する I agree with... / That's not for me. / It may be true..., but... / etc.			
	中間考査					
	11	Lesson 5 Which candidate is the right person?	意見を述べる／希望を述べる It seems to me that... / In my opinion, / I would like to... / etc.			
	12	Part 3: 論理的な自己表現活動 Lesson 1 Advertising a language school Lesson 2	パラグラフの構成 例示・列挙			
				パフォーマンス課題	パフォーマンス課題	提出物 パフォーマンス課題

		Inventions and discoveries	for example / such as / in addition to / moreover / as well as /etc.	期 末 考 査	期 末 考 査	
		期末考査				
3 学期	1	Lesson 3 How people use their smartphones	比較・対照 similarly / as / unlike / while / etc.	パフォー マンス課 題	パフォー マンス課 題	提出物 パフォー マンス課 題
	2	Lesson 4 Our accommodation in Okinawa	原因・結果 because / so / that's why ~ /etc.	プレ中間 考査	プレ中間 考査	
		学年末考査		パフォー マンス課 題	パフォー マンス課 題	提出物 パフォー マンス課 題
	3	Lesson 5 Getting ready for high school exams	時間的順序・手順 first / next / finally / then / after that / etc.	学 年 末 考査	学 年 末 考査	

担当者からのメッセージ(学習方法など)

論理・表現Ⅱでは、1 年生次で身につけた文法事項を復習しながら、英語の 4 技能 5 領域のうち、主に話すこと [やりとり][発表]と、書くことを中心に発展させます。主観的な感情だけを述べるのではなく、自らの主張を理由やデータで強化し、誰から見ても分かりやすい意見を表現できるように頑張りましょう。反復練習が必須です。

科目名	実践コミュニケーションⅡ		学年	類型・コース	単位数
			2 年	普通科英語コース	1
学習の 目標	地域社会、外国の諸問題、芸術・文化、価値観など幅広い話題について情報を収集・整理し、英語を用いたより高度なコミュニケーション能力および意欲・態度を身に付ける。ディベート、ディスカッション、スピーチ、プレゼンテーションの技術を身につける。				
使用教材	自主教材				
評価	評価法	スピーキングテスト(2 回) ・ 定期考査(3 回) 授業での活動状況、発表内容・課題の提出 夏季休業中に(8 月末)に校内スピーチコンテストを行う。 3月中旬にプレゼンテーション大会を行う。			
		評価観点の趣旨	a	知識・技能	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深め、知識を聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。
	b		思考・判断・表現	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている	
	c		主体的に学習に取り組む態度	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。	
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, C の 3 段階)及び評定(1～5の 5 段階)にまとめます。				

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
				a	b	c
1 学期	4	英語ディベート スピーチ作成	問題の理解、調査を中心とした、論題理解のためのディスカッション、スピーチ案フィードバック	英作文 課題	英作文 課題	英作文 課題
	5	英語ディベート スピーチ作成	論題についてのミニディベート、サマリーの仕方 Paragraph Writing			
	中間考査			スピーキ ングテス ト	ス ピ ー キ ン グ テスト	
	6	英語ディベート スピーチ作成	立論の作成と、チームディベート Summary speech の方法の習得、			
	7	英語ディベート スピーチ作成	クラス内ディベートトーナメント ・スピーチ原稿の校正 ・スピーチデリバリー	期 末 考 査	期 末 考 査	
	期末考査					
2 学期	9	英語ディベート	トピックについて理解する。 個々に必要な情報を収集する。	パフォー マンス	パ フ ォ ー マ ン ス	パ フ ォ ー マ ン ス
	10	英語ディベート Discussion	メリット・デメリットまとめ、情報交換する。			
	中間考査			英作文	英作文	英作文

	11	英語ディベート Presentation	反駁やディフェンスを考え、ディベートをする。 見本となるプレゼンテーションを鑑賞し、 presentation skills を学ぶ	スピー キングテ スト	スピー キング テスト			
	12	Discussion & Presentation	世界規模の問題について学び、話し合う。 presentation 鑑賞&presentation skills				期 末 考 査	期 末 考 査
	期末考査							
3 学期	1	Discussion & Presentation	自分でテーマを設定し、必要な情報を収集する。	パフォー マンス	パフォー マンス	パフォー マンス		
	2	Discussion & Presentation	学んだ情報を他人にわかりやすくまとめ、英語 で発表する練習をする。				英作文	英作文
	学年末考査			学 年 末 考 査	学 年 末 考 査			
	3	Discussion & Presentation	プレゼンテーション大会リハーサル② プレゼンテーション大会					

担当者からのメッセージ(学習方法など)

1 年生の時よりも難しいディベートトピックになってきます。普段から関心を持ち、情報や語彙を自ら取り入れ、議論するのに十分な調査ができるようになると、論理的な立論を作成する力に繋がっていきます。

プレゼンテーション大会では社会的な問題について調べたことをまとめ、わかりやすく発表する能力が問われます。自分主体の一方通行のコミュニケーションではなく、全体のよりよいパフォーマンスを求めて他人の発表した内容に関して質問したり意見を述べたりする姿勢も大切になってきます。

1 年生で培った英語力が忙しい中でぐっと伸びる時期です。一緒に頑張っていきましょう。

科目名	情報Ⅰ	学年	類型・コース	単位数
		2 年	普通科・理数科	1
学習の目標	(1)情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題を発見・解決する力を習得する。 (2)問題の発見・解決に向けて、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を習得する。 (3) 情報社会の発展に主体的に寄与する能力と態度を身につける。			
使用教材	教科書:『高等学校情報Ⅰ』(第一学習社) 副教材:『高等学校情報Ⅰ 学習ノート』(第一学習社) 『パーフェクトガイド情報(Office2019 対応)』(実教出版)			
評価	評価法	定期考査、授業プリント、学習ノート、実習課題、パフォーマンス課題(Web ページ)で評価します。		
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	情報及び情報技術を活用するための基礎的・基本的な知識を身に付け、社会における情報及び情報技術の意義や役割を理解している。
		b	思考・判断・表現	情報や情報社会における身のまわりの問題を解決するために、情報に関する科学的な見方や考え方を活かすとともに情報モラルを踏まえて、思考を深め、適切に判断し表現している。
		c	主体的に学習に取り組む態度	情報や情報社会に関心をもち、身のまわりの問題を解決するために、自ら進んで情報及び情報技術を活用し、社会の情報化の進展に主体的に対応しようとする。
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, Cの3段階)及び評定(1～5の5段階)にまとめます。			

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
				a	b	c
1 学期	4	第3章 コンピュータとプログラミング 1 コンピュータのしくみと働き 実習	*コンピュータの内部では2進法を使っていることを理解する。 *補数表現を知る。 *コンピュータでの計算には、誤差がともなうことを知る。 *コンピュータの構成を知る。 *ハードウェアとソフトウェアの関係を知る。 *論理回路を知る。 *表計算ソフト(Excel)	期末考査 学習ノート 授業プリント	期末考査 学習ノート 実習課題	実習課題 授業プリント
	5	実習	*コンピュータ内部の文字の表現について知る。 *コンピュータ内部の画像、音、動画の表現について知る。 *データがデジタル化されることの利点を理解する。 *表計算ソフト(Excel)			
	中間考査					
	6	2 モデル化とシミュレーション 実習	*モデル化とはなにかを知る。 *いろいろなシミュレーションが使われていることを知る。 *表計算ソフトウェアでシミュレーションをおこなう。 *表計算ソフト(Excel)			
	7	実習	*表計算ソフト(Excel)			
	期末考査					

2 学期	9	3 プログラムと問題解決 実習	*アルゴリズムの考え方について理解する。 *プログラムを実際に入力し、動作を確認する。 *サブルーチンで効率的にプログラムができることを知る。 *画像編集	期末考査 学習ノート	期末考査 学習ノート	実習課題 授業プリント
	10	実習	*素数を判定する方法を知る。 *アルゴリズムによって、処理の効率が変わることを知る。 *配列とその構造を理解する。 *Web ページ(HTML)	授業プリント	実習課題	
	中間考査			パフォーマンス課題 (Web ページ)	パフォーマンス課題 (Web ページ)	
	11	第4章 情報通信ネットワークとデータの活用 1 情報通信ネットワークのしくみ 実習	*コンピュータネットワークで使われる機器を知る。 *インターネットのしくみについて理解する。 *さまざまなプロトコルが使われていることを知る。 *インターネット上のサービスは、クライアントサーバ型であることを知る。 *Web のしくみを理解する。 *HTML と CSS を知る。 *電子メールの送受信のしくみを知る。 *情報の効率的な伝送のしくみを理解する。 *Web ページ(HTML)			
	12	実習	*情報セキュリティポリシーについて知る。 *組織における技術的な対策を知る。 *セキュリティを守る技術について理解する。 *Web ページ(HTML)			
	期末考査					
3 学期	1	2 情報システムとデータ管理 実習	*さまざまな情報システムが使われていることを知る。 *データベースとは何か知る。 *データモデルが重要であることを理解する。 *DBMS のしくみと役割について知る。 *アクセス制御について知る。 *質的データと量的データの違いを理解する。 *尺度水準の意味を理解する。 *欠損値と外れ値を知る。 *表計算ソフトウェアの使い方を確認する。 *プログラミング(VBA)	学年末考査 学習ノート 授業プリント	学年末考査 学習ノート 実習課題	授業プリント
	2	3 データの分析と活用 実習	*ヒストグラムや散布図を作成し、データの分布を観察する。 *平均値、中央値、最頻値の違いを理解する。 *分散と標準偏差を知る。 *テキストマイニングをおこなう意味を知る。 *オープンデータを利用して、分析をする。 *アンケート調査をおこない、集計する。 *プログラミング(VBA)			
	学年末考査					
	3	実習	*プログラミング(VBA)			

担当者からのメッセージ(学習方法など)

「教科書」を用いた座学と「パーフェクトガイド情報」を用いた実習を中心に行います。但し、教科書や学習ノートを用いた実習も学習進度に合わせて実施します。2学期にはグループ活動としての Web ページとその Web ページのための創作活動を行います。実習では継続して1つの課題を仕上げていくので、授業を欠席すると学習進度に大きく影響します。座学、実習を問わず、授業の欠席はできる限り避けて下さい。定期考査ごとに授業プリント、学習ノートを提出して貰います。これらの提出物と定期考査、実習課題を用いて成績評価をします。

科目名	理数数学Ⅱ		学年	類型・コース	単位数
			2 年	理数科	5
学習の目標	数学における基本的な概念や原理・法則の理解を深め、事象を数学的に考察し処理する能力を高め、数学的活動を通して創造性の基礎を培うとともに、数学的な見方や考え方の良さを認識し、それらを積極的に活用する態度を育てる。				
使用教材	教科書：『新編 数学Ⅱ』『新編 数学 B』『新編 数学Ⅲ』『新編 数学C』（数研出版） 副教材：『新課程 4プロセス数学Ⅱ＋B』『新課程 4プロセス数学Ⅲ＋C』（数研出版）				
評価	評価法	各定期考査による成績。 ◎単元ごとの小テストや、定期考査ごとの課題（ノート）等を参考にして評価する。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数式化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	
		b	思考・判断・表現	数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, Cの3段階)及び評定(1～5の5段階)にまとめます。				

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
				a	b	c
1学期	4	<数学Ⅱ> 第3章 図形と方程式 第3節 軌跡と領域	軌跡と方程式 * 点を満たす条件から得られた方程式を、図形として考察することができる。 * 軌跡の定義を理解し、与えられた条件を満たす点の軌跡を求めることができる。 * 媒介変数処理が必要な軌跡の求め方を理解している。 不等式の表す領域 * 不等式の表す領域を図示することができる。 * 領域を利用する1次式の最大値・最小値の求め方を理解している。	中間考査 小テスト	中間考査 課題 ノート	ノート プリント 振り返りシート
	5	第4章 三角関数	角の概念を一般角まで拡張して、三角関数に関する様々な性質や式とグラフの関係について多面的に考察できる			

		第 1 節 三角関数 第 2 節 加法定理 第 6 章 微分法と積分法 第 1 節 微分係数と導関数	ようにする。 加法定理を理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。 微分係数 * 極限値を計算して微分係数を求めるとき、分母の h は 0 でないことを理解している。 * 平均変化率、微分係数の定義を理解し、それらを求めることができる。 * 微分係数の図形的意味を理解している。 導関数とその計算 * 定義に基づいて導関数を求める方法を理解している。 * 導関数の性質を利用して、種々の導関数の計算ができる。 * 導関数を利用して微分係数が求められることを理解している。 * 変数が x, y 以外の関数について、導関数が求められる。 接線の方程式 * 接点の x 座標が与えられたとき、接線の方程式を求めることができる。 * 接線の方程式の公式を利用して、接線の方程式を求めることができる。 * 曲線外の点から曲線に引いた接線の方程式の求め方を理解している。			
--	--	---	--	--	--	--

中間考査			期末考査 小テスト	期末考査 課題 ノート	ノート プリント 振り返りシート
6	第 2 節 関数の値の変化	関数の増減と極大・極小 * 導関数を利用して関数の増減を調べることができる。 * 関数の増減や極値を調べるのに、増減表を書いて考察している。 * 導関数を利用して、関数の極値を求めたり、グラフをかいたりすることができる。 * 関数の極値が与えられたとき、関数を決定することができる。 関数の増減・グラフの応用 * 導関数を利用して、関数の最大値・最小値を求めることができる。 * 最大・最小の応用問題では、変数のとり方、定義域に注意して解くことができる。			

			*導関数を利用して、方程式の実数解の個数問題、不等式の証明問題を解くことができる。 *不等式 $f(x) \geq 0$ を、関数 $y=f(x)$ の最小値が0以上と読み替えることができる。			
	7	第3節 積分法	不定積分 *不定積分の計算では、積分定数を書き漏らさずに示すことができる。 *不定積分の定義や性質を理解し、それを利用する不定積分の計算方法を理解している。 *与えられた条件を満たす関数を、不定積分を利用して求めることができる。 定積分 *定積分の定義や性質を理解し、それを利用する定積分の計算方法を理解している。 *上端が変数 x である定積分で表された関数を微分して処理することができる。 定積分と面積 *直線や曲線で囲まれた部分の面積を、定積分で表して求めることができる。			
	期末考查					
2 学 期	9	<数学B> 第1章 数列 第1節 等差数列と等比数列 第2節 いろいろな数列	数列と一般項 *数列の定義、表記について理解している。 等差数列 *等差数列の公差、一般項などを理解している。 等差数列の和 *等差数列の和の公式を適切に利用して、数列の和が求められる。 等比数列 *等比数列の公比、一般項などを理解している。 和の記号 Σ *記号Σの意味と性質を理解し、数列の和が求められる。 *第 k 項を k の式で表して、初項から第 n 項までの和が求められる。 階差数列 *階差数列を利用して、もとの数列の一般項が求められる。 *数列の和 S_n と第 n 項 a_n の関係を理解し、数列の一般項が求められる。 いろいろな数列の和 *和の求め方の工夫をして、数列の和が求められる。	中間考查 小テスト	中間考查 課題 ノート	ノート プリント 振り返りシート

	10	第3節 漸化式と数学的帰納法	漸化式 * 漸化式の意味を理解し, 具体的に項が求められる。 * 漸化式を適切に変形して, その数列の特徴を考察することができる。 * 初項と漸化式から数列の一般項が求められる。 数学的帰納法 * 数学的帰納法を用いて等式, 不等式, 自然数に関する命題を証明できる。 * $n \geq k$ の場合に成り立つ不等式を, 数学的帰納法を用いて証明できる。 * ある整数の倍数であることを, 文字を用いて表現できる。			
	中間考査					
	11	<数学C> 第3章 複素数平面	複素数平面 * 1つの複素数が複素数平面上で1つの点を表すことを理解し, 点を複素数平面上に表すことができる。 * 共役複素数の図形的意味を理解し, z が実数であるための必要十分条件, z が純虚数であるための必要十分条件を理解している。 複素数の極形式 * 素数の極形式について理解し, 複素数を極形式で表すことができる。 * 複素数の積, 商の絶対値, 偏角の性質を理解し, それらを求めることができる。 ド・モアブルの公式 * ド・モアブルの定理を理解し, 複素数の n 乗を求めることができる。 * 1の n 乗根を求めることができる。 複素数と図形 * 線分の内分点や外分点を表す複素数を求めることができる。 * 複素数の方程式について, その意味を考えたり計算したりすることで, 表す図形を求めることができる。 * 原点以外の点を中心として回転した点を表す複素数を求めることができる。 * 複素数平面上で3点が一直線上にある条件や2直線が垂直に交わる条件を理解し, 利用することができる。			
	12	第4章 式と曲線 第1節 2次曲線	放物線 * 放物線が, 焦点と準線からの距離が等しい点の軌跡であることを理解している。 * 放物線の標準形について理解し, 放物線の概形をかい			

		たり焦点や準線を求めたりできる。また、条件から放物線の方程式を求めることができる。 * y 軸が軸となる放物線の概形をかくことができる。 楕円 * 楕円が、2 つの焦点からの距離の和が一定である点の軌跡であることを理解している。 * 楕円の標準形について理解し、楕円の概形をかいたり焦点や長軸、短軸の長さを求めたりできる。 * 焦点の座標などから、楕円の方程式を求めることができる。 * 焦点が y 軸上にある楕円の概形をかいたり、焦点や長軸、短軸の長さを求めたりできる。 * 楕円が、円を拡大、縮小した曲線であることを理解している。 双曲線 * 双曲線が、2 つの焦点からの距離の差が一定である点の軌跡であることを理解している。 * 双曲線の標準形について理解し、双曲線の概形をかいたり焦点や頂点、漸近線を求めたりできる。 * 焦点の座標などから、双曲線の方程式を求めることができる。 直角双曲線の定義や方程式について理解している。 * 焦点が y 軸上にある双曲線の概形をかいたり、焦点や頂点、漸近線を求めたりできる。 2 次曲線の平行移動 * x, y の 2 次式を変形して、2 次曲線の概形を考えることができる。 2 次曲線と直線 * 2 次曲線の接線や接点を 2 次方程式の実数解を利用して求めることができる。 * 2 次曲線の接線の方程式の一般形について理解し、接点を与えられたときに接線を求めることができる。			
		期末考查			

3 学期	1	第2節 媒介変数表示と極座標	曲線の媒介変数表示 * 曲線が媒介変数を用いて表される仕組みを理解している。 * 媒介変数表示された曲線の方程式を求めることができる。 * 放物線の頂点の軌跡を、媒介変数を利用して求めることができる。 * 円や楕円を媒介変数表示できる。 極座標と極方程式 * 極座標による表示について理解し、点の極座標を求めたり、極座標が与えられた点の位置を求めたりできる。 * 点の座標について、直交座標と極座標を相互に変換できる。 * 円や直線を極方程式で表すことができる。また、極方程式で表される曲線を図示することができる。 * 平面上の曲線について、x, y の方程式と極方程式を相互に変換できる。 コンピュータの利用 * 媒介変数表示された曲線や極方程式で表される曲線を、コンピュータを用いて描くことができる。	学年末 考查	学年末 考查	ノート プリント 振り返り シート
	2	<数学Ⅲ> 第2章 第1節 数列の極限	数列の極限 * 数列の極限値の定義を理解している。 * 簡単な数列の収束、発散を調べ、極限を求めることができる。 * 収束する数列の極限値の性質を理解し、それを用いて、数列の極限が求められる。 無限等比数列 * 無限等比数列の収束・発散を利用して、様々な数列の極限を求めることができる。 * 無限等比数列の収束条件を理解し、それを利用できる。 * 漸化式で表された数列の一般項を求め、数列の極限を求めることができる。 無限級数 * 無限級数の表記について理解している。 * 無限級数の和とは、部分和の作る数列の極限であることを理解し、無限級数の収束、発散を調べられる。 * 無限等比級数の収束、発散を、公比の値で調べられる。			
	学年末考查					

3	第2節 関数の極限	関数の極限 * 簡単な関数の $x \rightarrow a$ のときの極限を求めることができる。 * 不定形を解消するなど、関数の式を適切に変形することで、関数の極限を求めることができる。 * 関数の極限が、正・負の無限大に発散する場合を調べられる。 * 簡単な関数の $x \rightarrow \pm\infty$ のときの極限を求めることができる。 * 指数関数, 対数関数の極限が求められる。 三角関数と極限 * 簡単な三角関数の極限について考察できる。 * $\lim_{x \rightarrow 0} \frac{\sin x}{x} = 1$ を利用して、三角関数を含む様々な関数の極限值を求めることができる。 関数の連続性 * 定義に基づいて、様々な関数の連続性, 不連続性を判定することができる。	小テスト プリント	小テスト 課題 プリント	ノート プリント 振り返りシート
---	--------------	---	------------------	----------------------------	--------------------------------

担当者からのメッセージ(学習方法など)

授業用ノート、4プロセス用ノートは分けてください。

毎日の復習が大切です。宿題と授業で習った範囲の4プロセスの問題を解きましょう。

科目名	理数数学特論		学年	類型・コース	単位数
			2 年	理数科	2
学習の目標	ベクトルについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。				
使用教材	教科書:『新編 数学 A』『新編 数学 C』(数研出版) 副教材:『新課程 4プロセス数学Ⅰ+A』 『新課程 4プロセス数学Ⅲ+C』(数研出版)				
評価	評価法	定期考査、小テスト、課題考査、ノート、プリント、課題(宿題)、振り返りシートで評価します。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	ベクトルについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	
		b	思考・判断・表現	大きさや向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力、図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, Cの3段階)及び評定(1～5の5段階)にまとめます。				

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
				a	b	c
1 学期	4	数学 A 第3章 数学と人間の活動	約数と倍数 * ある整数 a の倍数は ak と表せることを使って、簡単な命題を証明することができる。 * 平方数になる条件を、素因数分解の結果から考察することができる。 * 自然数の正の約数やその個数を求めるのに、素因数分解が利用できることを理解している * 2次の不定方程式を解くことができる。 最大公約数・最小公倍数 * 2 数の最小公倍数は 2 数の素因数のすべてを因数とするとことを理解し、それを利用して問題を考察することができる。	中間考査 小テスト	中間考査 課題 ノート	ノート プリント
	5		* 最大公約数と最小公倍数に成り立つ性質を利用して、2 数の最大公約数と最小公倍数が既知のときにその 2 数を求めることができる。 整数の割り算と商・余り * 2 つの整数 a, b を除数と余りを用いて表し、 $a + b$ などの余りを求めることができる。 * 偶数, 奇数の文字による表し方を理解し、それを利用して簡単な整数の性質を証明することができる。 * 整数をある正の整数で割った余りで分類して、簡単な整数の性質を証明することができる。 ユークリッドの互除法 * 互除法を利用して、 $ax + by = c$ を満たす整数 x, y の組を求めることができる。			

			1 次不定方程式 * 係数が小さい場合の 1 次不定方程式の特殊解を求め、それによりすべての整数解を求めることができる。	期末考査	期末考査	振り返りシート
	中間考査					
	6		* 係数が大きい場合の 1 次不定方程式の特殊解を求め、それによりすべての整数解を求めることができる。 * 整数に関する問題を、1 次不定方程式に帰着させることができ、問題を解くことができる。 n 進法 * n 進法の整数を 10 進法で、10 進法の整数を n 進法で表すことができる。 * n 進法の小数を 10 進法で、10 進法の整数を n 進法で表すことができる。			ノート
	7	数学 C 第 1 章 平面上のベクトル	ベクトルの演算 * ベクトルの成分表示の仕組みを理解し、具体的なベクトルを成分表示できる。また、そのベクトルの大きさを求めることができる。			プリント
	期末考査					振り返りシート
2 学期	9		ベクトルの成分 * ベクトルの垂直条件を活用して、与えられたベクトルに垂直なベクトルを求めることができる。 ベクトルの内積 * ベクトルの内積の定義を理解し、内積を求めることができる。 位置ベクトル * 点の位置を、基準となる点と 1 つのベクトルを用いて表すことができることを理解している。 * 位置ベクトルを活用して、図形の性質が考察できる。 ベクトルの図形への応用 * 線分の内分点・外分点を位置ベクトルで表す公式を、実際の図形に適用できる。 図形のベクトルによる表示 * 直線のベクトル方程式について、媒介変数を用いて表すことができる。	中間考査 小テスト	中間考査 課題 ノート	ノート プリント
	10	第 2 章 空間のベクトル	空間の点 * 空間における点の表し方を理解し、座標平面や座標軸、原点に関して対称な点の座標を求めることができる 空間のベクトル * 空間図形の中で、等しいベクトルや逆ベクトルを探すことができる。 ベクトルの成分 * ベクトルの成分表示について、平面上のベクトルの拡張になっていることを理解し、ベクトルが等しくなるように成分を定めたり、成分表示されたベクトルの大きさを求めたりすることができる。 ベクトルの内積 * 空間のベクトルの内積や、成分表示された 2 つのベクトルのなす角を求めることができる。 ベクトルの図形への応用 * 位置ベクトルの定義や内分点などの位置ベクトルが平面上のベクトルの場合と同じであることを理解している。 座標空間における図形 * 座標平面に平行な平面や、座標軸に垂直な平面の方程式が求められるようになる	期末考査	期末考査	振り返りシート

			*いろいろな球面の方程式が求められる。			
	中間考査					
	11	数学 C 第5章 数学的な表現の工夫	データの表現方法の工夫 *データをパレート図に表現する方法を理解し, パレート図をかくことができる。 行列による表現 *行列の記法やそれに関する用語を理解している。			
	12		*行列の和と差の計算ができる。 *行列の実数倍の計算ができる。			
	期末考査					
3 学期	1		離散グラフによる表現 *どのようなものを表現したいときに離散グラフを用いるのか理解している。	学年末考査	学年末考査	ノート
	2		*離散グラフの奇点, 偶点の意味を理解している。 *ダイクストラのアルゴリズムを用いて最短経路を調べることができる。	小テスト		プリント
	学年末考査					
	3		離散グラフと行列の対応 *離散グラフの隣接行列について理解し, 隣接行列を求めることができる。また, 与えられた隣接行列をもつ離散グラフをかくことができる。			振り返りシート

担当者からのメッセージ(学習方法など)

授業用ノート、4プロセス用ノートは分けてください。毎日の復習が大切です。宿題と4プロセスの授業で習った問題を解きましょう。

科目名	理数物理		学年	類型・コース	単位数
			2年	理数科	2
学習の目標	物理的な事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しを持って観察、実験を行うことなどを通して、科学的に探究するために必要な資質・能力を身につける。				
使用教材	教科書:『物理』(数研出版) 副教材:『リードα物理』(数研出版)				
評価	評価法	定期考査、実験レポート、問題集への取り組み、発表の内容などで評価します。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	知識の習得や知識の概念的な理解、実験操作の基本的な技術の習得ができています。	
		b	思考・判断・表現	習得した「知識・技能」を活用して、課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身に付けている。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける過程において、粘り強く学習に取り組んでいる。自ら学習を調整しようとしている。	
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, Cの3段階)及び評定(1～5の5段階)にまとめます。				

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
				a	b	c
1学期	4	平面運動の速度・加速度	* 平面上の合成速度、相対速度の意味と求め方を理解している * 加速度は速度の時間変化を表すものであり、ベクトル量であること、またその求め方を理解できている * 動く観測者から見た場合の、観測者と同じ平面上を動く物体の運動のようすを説明できる	中間考査	中間考査	授業態度 発表内容 実習態度 (通年) 問題集取組
	5	落体の運動	* 水平投射は鉛直方向には自由落下、水平方向には等速直線運動をしていることを理解し、適切に式を運用できる * 斜方投射は鉛直方向には鉛直投げ上げ、水平方向には等速直線運動をしていることを理解し、適切に式を運用できる			
	中間考査					
	6	剛体にはたらく力のつりあい 剛体にはたらく力の合力と重心	* 力のモーメントについて理解している * 剛体のつりあいでは、並進運動をしない条件と回転運動しない条件が必要なことを理解している * 力のモーメントの式を理解し、うでの長さが異なるときにはたらく力の大きさについて考察できる * 剛体にはたらく複数の力の合力を求めることができる * 偶力のモーメントを求めることができる * 剛体の転倒する条件を理解している * 直方体をどのように置いたときに転倒しやすいかを調べることができる * 剛体の転倒する条件を理解し、重心の位置と転倒のしやすさの関係を説明できる	レポート	レポート	レポート
	7	運動量と力積	* 運動量と力積について、求め方を理解している * 運動量の変化は、その間に物体が受けた力積に等しいことを理解している			

	期末考査			期末考査	期末考査	問題集取組
2 学期	9	運動量保存則 反発係数	* 運動量の変化と力積の関係の式から、物体が受ける力積と平均の力の大きさについて説明することができる * 運動量保存則が成り立つ条件を説明することができる * 反発係数の式を用いて、衝突する物体の運動を調べることができる * 運動量保存則と反発係数の式から物体の速さを求めることができる			
	10	等速円運動 慣性力	* 等速円運動をしている物体の回転の速度、角速度、周期、回転数の諸量の定義が理解できている * 一定の半径で等速円運動する物体の速さと物体にはたらく向心力の大きさの間の関係を説明できる * 慣性力とその他の力の違いについて理解し、説明できる			
	中間考査			中間考査	中間考査	問題集取組
	11	単振動	* 単振動の変位、速度、加速度の式、運動方程式を理解している * ばね振り子や単振り子の周期の式を用いて、周期と質量や周期と糸の長さの間の関係について説明できる * 糸の長さや小球の質量、振幅を変えていったときのばね振り子の周期を測定し、周期がどのように変化するか考えることができる	レポート	レポート	レポート
	12	万有引力	* ケプラーの法則を理解している * 万有引力の式を理解している * 万有引力の位置エネルギーの式を用いて、力学的エネルギー保存則の式を立てることができる			
	期末考査			期末考査	期末考査	問題集取組
3 学期	1	気体の法則	* 気体の圧力、体積、絶対温度の間の関係について理解している * ボイル・シャルルの法則を用いて、状態変化後の気体の圧力、体積、絶対温度を求めることができる * 理想気体の状態方程式を用いることができる	レポート	レポート	レポート
	2	気体分子の運動	* 気体が熱運動して壁などの面に力を及ぼすことから圧力の大きさを表す式を導くことができる * 平均運動エネルギーと絶対温度の関係を説明できる * 単原子分子理想気体の内部エネルギーについて理解できている			
	学年末考査			学年末考査	学年末考査	問題集取組
	3	気体の状態変化	* 気体の状態変化の、「定積変化」、「定圧変化」、「等温変化」、「断熱変化」を、それぞれ p-V 図や式で表すことができる * 気体の状態変化と気体がされた仕事について説明できる * 定積モル比熱と定圧モル比熱の違いを正しく理解し、2つの間に成り立つ関係について説明できる * 熱機関のモデルとして、サイクルの状態変化を理解し、熱効率を求めることができる			

担当者からのメッセージ(学習方法など)

自らの手で計算を行うことがなにより重要です。これを基礎として、現象を数式に落とし込み、式から現象を想像する能力が体得されます。そして、図を書く習慣を身につけて下さい。図を書くことで、与えられて状況を整理する能力が身につきます。図も式も、まずは手を動かして自分の手で書いてみてください。

科目名	理数生物		学年	類型・コース	単位数
			2 年	理数科	2
学習の 目標	生物に関する種々の現象や生物の構造等を学ぶ中で、生物学に関する知識を身につけると共に、科学的・論理的な思考力を養う。その結果、生物学を探究するために必要な資質・能力を育成する。				
使用教材	教科書:『生物』(数研出版) 副教材:『新課程版スクエア最新図説生物』(第一学習社)				
評価	評価法	定期考査、実験レポート、授業ノートなどで評価します。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	知識の習得や知識の概念的な理解、実験操作の基本的な技術の習得ができています。	
		b	思考・判断・表現	習得した「知識・技能」を活用して、課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身に付けている。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける過程において、粘り強く学習に取り組んでいる。自ら学習を調整しようとしている。	
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, Cの3段階)及び評定(1～5の5段階)にまとめます。				

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
				a	b	c
1 学期	4	第1章 生物の進化 1. 生命の起源と生物の進化 2. 遺伝子の変化と多様性	* 生命の起源として、無機物から有機物が生じ、有機物の集まりから「細胞」が生じたと考えられていることを理解する。生物が代謝を通じて地球の環境を変化させてきたこと、地球の環境の影響を受けて生物が進化してきたことを理解する。 * 生物の形質の変化は、遺伝子の変化によって生じることを理解する。突然変異によって、遺伝的な多様性が生じることを理解する。	中間 考査	レポート 中間 考査	授業態度 実習態度 (通年)
	5	3. 遺伝子の組み合わせの変化 4. 進化のしくみ	* 減数分裂の過程では、染色体の乗換えによって遺伝子の組換えが起こることを理解する。有性生殖においては、親から子へと遺伝子が受け継がれる過程で、遺伝子の組み合わせが変化することを理解する。 * 遺伝的浮動と自然選択によって遺伝子頻度が変化することを理解する。隔離によって種分化が生じやすくなることを理解する。			レポート
	中間考査					
	6	5. 生物の系統と進化 6. 人類の系統と進化	* DNA の塩基配列やタンパク質のアミノ酸配列から、生物の系統を推定できることを理解する。生物が、系統に基づいて3つのドメインに分類されることを理解する。 * 人類が、霊長類のうちの類人猿から進化したことを理解する。人類の特徴として、直立二足歩行をすることが重要であることを理解する。			
	7	第4章 遺伝情報の発	* 遺伝子を扱うさまざまな技術について、その原理を理解する。遺伝子を扱うさまざまな技術が、私			

		現と発生 5. 遺伝子を扱う技術	私たちの生活に与える影響を理解する。 ＊ PCR 法、電気泳動法、DNA 鑑定実習	レポート	レポート	レポート 問題集課題			
		期末考査		期末考査	期末考査	授業ノート			
2 学期	9	第 2 章 細胞と分子 1. 生体物質と細胞 2. タンパク質の構造と性質	＊ 細胞を構成する代表的な物質とその特徴について理解する。生物の基本単位である細胞の構造とその機能について理解する。 ＊ 細胞の生命活動を担うタンパク質の構造について理解する。タンパク質の構造と機能との密接な関係について理解する。	中間考査	中間考査	問題集課題 授業ノート			
	10	3. 化学反応にかかわるタンパク質 4. 膜輸送や情報伝達にかかわるタンパク質	＊ 酵素の基本的な性質と、酵素がはたらく反応条件について理解する。酵素反応を調節するしくみについて理解する。 ＊ 生体膜を介した物質輸送と、それにかかわるタンパク質のはたらきについて理解する。情報伝達にかかわる受容体タンパク質のはたらきについて理解する。						
	中間考査								
	11	第 3 章 代謝 1. 代謝とエネルギー 2. 呼吸と発酵	＊ 生体内で起こる化学反応の一部は酸化還元反応であり、反応に際して大きなエネルギーの出入りを伴うことを理解する。 ＊ 呼吸では、有機物が酸化されるのに伴う一連の酸化還元反応によってエネルギーが取り出され、ATP が合成されることを理解する。発酵では、酸素を用いずに有機物が分解され、ATP が合成されることを理解する。 ＊ 細胞内ではたらく酵素による参加還元反応実習 ＊ アルコール発酵実習				レポート	レポート	レポート
	12	3. 光合成	＊ 光合成では、光エネルギーを用いて ATP と電子の運搬体が合成され、これらを用いて二酸化炭素が還元されて有機物が生じることを理解する。 ＊ 植物の光合成色素の分離実習				レポート	レポート	レポート
	期末考査		レポート 期末考査	レポート 期末考査	問題集課題 授業ノート				
			期末考査	期末考査	授業ノート				
3 学期	1	第 4 章 遺伝情報の発現と発生 1. DNA の構造と複製	＊ DNA について、2 本のヌクレオチド鎖の方向性をふまえた詳しい構造を理解する。DNA が正確に複製される詳しいしくみを理解する。	学年末考査	学年末考査	問題集課題 授業ノート			
	2	2. 遺伝情報の発現 3. 遺伝子の発現調節	＊ DNA の遺伝情報を写し取って、RNA が合成されるしくみを理解する。転写された RNA から、タンパク質が合成されるしくみを理解する。 ＊ 遺伝子の発現が、環境の変化などに応じて変化することを理解する。原核生物と真核生物において、それぞれの遺伝子発現が調節されるしくみを理解する。						
	学年末考査								
	3	4. 発生と遺伝子発現	＊ 発生の過程で、遺伝子の発現調節によって細胞が分化するしくみを理解する。細胞の分化を引き起こす遺伝子の発現調節は、細胞内の物質のはたらきや、他の細胞からのはたらきかけによって起こることを理解する。						

担当者からのメッセージ(学習方法など)

日々の授業においては、その日の内容を理解できるよう、授業中および家庭で教科書を読みましょう。図説や問題集を利用しながら、復習をします。考査前には、再度問題集を解きます。また、授業中に行った問題演習の確認をする。実験や実習においては、目的を理解し、取り組み、「考察」を大切にしたいレポートを作成し、提出します。

科目名	理数化学		学年	類型・コース	単位数
			2 年	理数科	4
学習の 目標	化学的な事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しを持って観察、実験を行うことなどを通して、化学的な事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を身に付ける。				
使用教材	教科書：『化学基礎』『化学』（数研出版） 副教材：『新課程対応 サイエンスビュー新化学資料』（実教出版） 『新課程 リード α 化学基礎＋化学』（数研出版）				
評価	評価法	定期考査、小テスト、実験レポート、発表、ワークシート、振り返りの記述等で評価します			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	化学の基本的な概念や原理・法則を理解しているとともに、化学的に探究するために必要な観察、実験などに関する操作や記録などの技能を身に付けている。	
		b	思考・判断・表現	化学的な事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど科学的に探究している。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	化学的な事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり、振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, Cの3段階)及び評定(1～5の5段階)にまとめます。				

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
				a	b	c
1 学期	4	序章 化学の特徴	* 『4 種類の水溶液』をテーマに探究の過程を意識して仮説を立て、実験を実施し、発表することができる。	中間考査	中間考査	
		第1編 第1章 純物質と混合物	* 物質の構成について疑問・興味を持つ。 * 物質を分離する操作がどのようなものであるか説明することができる。			QFT
		物質とその成分	* 【実験】混合物の分離(教 p29 実2) * 【実験】成分元素の検出(教 p36)		レポート	レポート
		物質の三態と熱運動	* PhET を用いて物質の三態における粒子の熱運動をシミュレーションする。 * 物質を加熱した時の温度変化のグラフについて説明することができる。	小テスト (元素記号)		
		第2章 原子とその構造 イオン	* 原子の構成粒子から原子番号が何によって決定されているか見出し、同位体に興味を持つ。 * ニホニウムがどのように作られたか考え、放射線に興味を持つ。 * 原子の電子配置からどのようなイオンになりやすいか予測することができる。 イオンの大小について電子配置から予測することができる。	小テスト (イオン式)		
		周期表	* キーワードを用いて元素当てクイズを作成する。 * メンデレーエフの周期表から未知の元素を推測することができる。			クイズ作り

	5	第3章 イオン結合とイオン結 晶 共有結合と分子 配位結合 分子間にはたらく 力 共有結合結晶 金属結晶	* 【実験】イオンからなる物質を通して、イオン結晶の性質を構造から説明することができる。 * イオン結晶を組成式で表すことができる。 * 共有結合・共有電子対・非共有電子対について説明することができる。 * 分子を電子式・構造式を用いて書き表す。 * 分子模型を用いて分子の形が何で決まるのか理解し、未知の分子の構造を予測することができる。 * 塩化アンモニウムに含まれる3種類の結合について説明できる。 * 電気陰性度のデータをもとに、分子の極性の有無を判断することができる。 * 共有結合結晶の特徴について理解し、分子結晶との違いについて説明することができる。 * 金属の持つ性質を、金属結合をもとに説明することができる。	小テスト (組成式)	レポート	レポート
	中間考査			期末考査	期末考査	発表
	5	第2編 第1章 原子量・分子量・式 量 物質 量 溶液の濃度	* 相対質量を計算して求めることができる。 * 同位体の存在を思い出し、原子量が相対質量の平均値であることを見出すことができる。 * 小さな粒を数えるためにはまとまりで考えることが便利であることを見出し、物質量の概念に興味を持つ。 * 【実習】米粒を早く正確に数えるには * 物質量と質量・気体の体積との関係を見出す。 * 【実験】物質量を体感する(教 p111) * モル濃度と質量パーセント濃度の違いに注意し、それぞれの濃度を求めることができる。 * 【実験】0.1mol/L の NaCl 水溶液を作成する方法を記述することができる。	小テスト (物質量)		マッピング ワーク シート
	6	化学反応式と物質 量	* 化学反応式を作ることができる。 * 【実習】化学反応式の係数が物質量に比例していることを見出す * 化学反応式を用いて量的な計算を行うことができる。 【実験】NaHCO₃ の熱分解 【実験】CaCO₃ と塩酸の反応	レポート レポート	レポート レポート	
	期末考査					
	7	第2章 酸と塩基 水素イオン濃度と pH	* 塩化水素とアンモニアの反応から、アレニウスの定義を拡張して考えることができる。 * 同じ濃度の塩酸・硫酸・酢酸の pH を測定し、水素イオン濃度が違うことから、[H⁺]の濃度の求め方を見出す。	中間考査 小テスト (酸・塩基)	中間考査	
2 学期	9	中和反応と塩 中和滴定	* 中和反応を化学反応式で書き表すことができる。 * 【実習】生じた塩の水溶液の液性と、元の酸・塩基の強弱との関係を見出し、フローチャートで書き表すことができる。 * 【実験】中和の量的関係を用いて、濃度未知の食酢の酢酸の質量パーセント濃度を実験から求めることができる。	レポート	レポート	動画

		第3章 酸化還元	* 酸の強弱から滴定曲線の特徴を見出し、適切な指示薬を選択することができる。 * 身の回りにある酸化還元反応の例を挙げ、教科書 p170-207 の質問づくりを行う * 酸化還元反応の3つの定義を学び、酸化還元反応には電子の移動が伴うことを見出す * 酸化数を求めることができるようになる。	小テスト (酸化数)		QFT
	10	酸化剤と還元剤	* 酸化剤と還元剤のはたらきを示す反応式から酸化剤と還元剤のはたらきについて説明できる。 * はたらきを示す反応式から化学反応式を作ることができる。 * 【実験】酸化剤と還元剤の反応 * 酸化還元反応の化学反応式から、量的関係を見出し、過酸化水素の濃度を求めることができる。	小テスト (酸化剤還元剤)		
		金属の酸化還元反応	* 金属樹ができることに興味を持ち、金属の単体とイオンがどのような場合に金属樹が生じるのかを見出すことができる。 * イオン化傾向と酸との反応について、酸と酸化力の違いを明確にしながら説明できる。 * 【演習】金属の同定		ワークシート	
		中間考査				
	10	第2編 第2章 1 電池	* 金属のイオン化傾向とともに電池の仕組みについて復習し、ダニエル電池や鉛蓄電池、燃料電池などの電池の具体的な構造と正極および負極において起こる反応について理解する。 * 【実習】ダニエル電池の解説動画を作ろう	期末考査	期末考査	動画
	11	2 電気分解	* 外部から加えた電気エネルギーによって電気分解が起こることを、水溶液の電気分解を題材としながら、酸化還元反応と関連付けて理解する。 * 【実験】電解質水溶液の電気分解 * 電気分解の工業的利用、金属の精錬	小テスト (水溶液の電気分解)		
		第1編 第1章 固体の構造 1 結晶とアモルファス	* 結晶の特徴と単位格子、配位数について理解する。また、アモルファス(非晶質)においては通常の結晶との違いを理解し、アモルファスの構造をもつ物質について学ぶ。	レポート	レポート	
		2 金属結晶	* 金属結晶の構造について学び、それぞれの結晶格子の構造から、原子半径や充填率、密度を計算する方法を理解する。 * 【実習】金属の単位格子模型を作ろう	小テスト (結晶の分類)		
		3 イオン結晶	* イオン結晶の構造について学び、結晶格子の種類や陽イオンと陰イオンの配列、イオン半径の比について理解する。			
		4 分子間力と分子結晶	* ファンデルワールス力や水素結合などの分子間力について復習し、分子間力によってできる分子結晶の性質や具体的な物質についての理解を深める。			
		第2章 1 粒子の熱運動	* 気体分子の熱運動に運動エネルギーや温度が関係することを理解し、それらを関連付けながら物質の三態変化について復習する。 * 【実習】シミュレーションソフトを用いて分子の熱運動について復習する			振り返り
		2 三態変化とエネルギー	* 状態変化に伴う熱の出入りとその名称について理解する。また、物質を構成する粒子間にはたらく力の大小と融点や沸点の関係についても理解する。			
		3 気液平衡と蒸気	* 大気圧と気液平衡の概念を理解する。また、蒸気圧			

		圧	や蒸気圧と沸騰の関係性、物質の状態図についても理解する。			
		期末考査				
3 学 期	12	1 気体の体積	* 理想気体の体積や圧力、絶対温度の関係についてボイルの法則、シャルルの法則、ボイル・シャルルの法則が成りたつことを理解し、これらの関係が式で表せることも理解する。	プレ 学年末 考査	プレ 学年末 考査	レポート
		2 気体の状態方程式	* ボイル・シャルルの法則から理想気体の状態方程式が導かれることを理解する。また、理想気体の状態方程式を利用することで、気体の分子量を求めることができることも理解する。 * 【実験】状態方程式を用いた分子量測定			
	1	3 混合気体の圧力	* 混合気体について、理想気体の状態方程式から導かれる分圧の法則について理解する。また、分圧と物質量や体積、モル分率の関係について理解し、モル分率を用いた平均分子量の考え方や水上置換で捕集した気体の分圧についても理解する。			
		4 実在気体	* 気体と理想気体との違いについて理解し、その違いを踏まえ、実在気体を理想気体とみなして扱える条件についても理解する。			
		第4章 1 溶解とそのしくみ	* イオン結晶や分子からなる物質の溶解について、溶質および溶媒の極性の有無などと関連付けながら、そのしくみや溶解性の違いを理解する。 * 【実験】分子の極性と溶解			
		2 溶解度	* 飽和溶液において成りたっている溶解平衡について理解する。さらに溶解平衡と関連付けながら固体の溶解度や再結晶について復習するとともに、新たに水和水をもつ物質の溶解量についても理解する。また、気体の溶解度と温度・圧力の関係について理解をし、ヘンリーの法則についても理解する。さらに溶液の濃度の表し方について、質量パーセント濃度とモル濃度について復習するとともに、新たに質量モル濃度についても理解する。			
		3 希薄溶液の性質	* 希薄溶液では溶質の数にのみ依存して成りたつ共通の性質(蒸気圧降下、沸点上昇、凝固点降下、浸透圧)があることを理解し、それぞれの現象についても理解する。また、凝固点降下や浸透圧を利用することで分子量の測定ができることなども理解する。 * 【実験】凝固点降下を利用した分子量測定	レポート 学年末 考査	レポート 学年末 考査	
	2	4 コロイド溶液	* コロイドとその分類について理解をし、コロイド溶液に特徴的な性質(チンダル現象、ブラウン運動、透析、電気泳動)を現象を交えて理解する。また、親水コロイドや疎水コロイド、保護コロイドに特徴的な現象についても理解する。 * 【実験】水酸化鉄(Ⅲ)のコロイド溶液を作る	レポート	レポート	レポート
		第2編 物質の変化 1 化学反応と熱	* 化学反応に伴って放出・吸収する熱量をエンタルピー変化で表すことと、反応エンタルピーの種類とそれぞれの定義について理解する。また、実験により反応エンタルピーを測定できることも理解する。			
		2 ヘスの法則	* ヘスの法則を用いることで実験で測定が困難な反応エンタルピーを求めることができることを理解する。また生成エンタルピーや結合エネルギーなどについて、ヘスの法則を利用して反応エンタルピーを算出する方法について理解する。 * 【実験】ヘスの法則			

		3 化学反応と光	* 化学反応の前後における物質のもつ化学エネルギーの差が光の発生や吸収となって現れることを、光合成や光触媒などの身近な具体例を交えながら理解する。			
		学年末考査				
	3	第3章 1 化学反応の速さ 2 反応条件と反応速度 3 化学反応のしくみ	* 反応速度の表し方とその求め方を理解する。 * 速度定数を用いた反応速度式の表し方と実験データからの速度定数の求め方を理解する。また、反応速度に影響を与える要因については「濃度・温度・触媒の有無」があることを理解する。触媒の利用例についても理解する。 * 化学反応のしくみについて、反応速度に影響を与える要因などと反応の活性化エネルギーなどを関連付けながら理解する。			

担当者からのメッセージ(学習方法など)

理数化学では実験や協働学習の機会を大切にしてください。学校で化学を学ぶ意義は「実際に物質や実験器具に触れてみる」「クラスメイトと考え方や意見を共有するなかで、探究する力をつける」ことにあると思っています。理科はテスト前に必要事項を一生懸命暗記して、それをテスト用紙に書きつける教科だと思っていませんか？確かに化学の基本的な事項を頭に入れることは大切です。しかし、コンテンツとともに学びのプロセスも大切にしてほしいのです。学びのプロセスを身に着ければ、どんな場面にも対応できる力が付きます。化学を通して、学ぶ力をつけていきましょう。

科目名	理数探究		学年	類型・コース	単位数
			2年	理数科	2
学習の目標	平常の授業で扱えない科学に関する研究課題について、継続的な観察・実験を行い、科学的に探究する能力と態度を育てるとともに、創造性の基礎を培う。また、研究成果を論文などにまとめ、発表する力を養う。				
使用教材	教科書：なし 副教材：研究班毎に研究に必要な文献				
評価	評価法	振り返りシート、研究への取り組み、実験レポート、制作ポスター、ポスターセッションでの発表内容、質疑応答に対する対応などで評価します。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	知識の習得や知識の概念的な理解、実験操作の基本的な技術の習得ができています。	
		b	思考・判断・表現	習得した「知識・技能」を活用して、課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身に付けている。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける過程において、粘り強く学習に取り組んでいる。自ら学習を調整しようとしている。	
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, Cの3段階)及び評定(1～5の5段階)にまとめます。				

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
				a	b	c
1学期	4	探究を始める前に科学的とは探究するうえでの心構え テーマの設定 年間研究計画書の作成	* 科学とは何かについての根本的な理解を促し、科学の表現方法について理解する。 * 科学は多くの人と情報を共有できるように表現していることを理解する。 * 実験データのねつ造や改ざん、引用と盗用の違い、個人情報の取り扱い、生命倫理について考え、探究を始める前に、「やってはいけないこと」と「やらなければいけないこと」を理解する。 * テーマの設定が、探究において最も重要な要素であることを認識し、研究班の班分けを行う。	振り返りシート (通年)	振り返りシート (通年)	振り返りシート (通年) 研究への取組(通年)
	5	テーマについて調べる テーマを決める 仮説を立てる 実験・調査・アンケート等を行う	* 調べる際の着目点を確認し、図書館やインターネットで調べる方法やそのときの注意点について理解する。 * テーマを細分化し、分析し、その中でテーマにふさわしい切り口や視点を探して、テーマの焦点をしぼる。その際には、探究の対象は、できるだけ具体的・限定的にするとよいことを理解する。 * テーマは検証できるテーマであるかを確認する。			
	6	研究の続き	* 各研究班のテーマに基づき、実験等を行う。 * 実験等の結果を考察し、再度課題解決のためのテーマを設定し、研究を進める。			
	7	研究の続き	* 各研究班のテーマに基づき、実験等を行う。 * 実験等の結果を考察し、再度課題解決のためのテーマを設定し、研究を進める。			
2学期	9	ポスターのつくり方	* ポスター発表用のポスターのつくり方を理解する。 * 学術用のポスターでの図やグラフの配置・参考文献の示し方等の約束事を確認する。 * データの特徴を知るための集計方法や可視化につい			

			て検討し,研究の結果をまとめる。 * データの相関や擬似相関について理解し、誤差の検討を含む統計的処理や手法について習熟する。			
	10	中間発表ポスターの作成	* A0 判のポスターを作成し研究についてまとめる。 * 発表原稿を作成し,中間発表時の役割分担を行う。	ポスター 発表内容	ポスター 発表内容	ポスター 発表内容
	11	ポスターセッション 中間発表	* 作成したポスターを用いて中間発表を行い,決められた時間でプレゼンテーションを行なえる力をつける。 * 発表の後の質疑応答に答えられるような思考力・判断力・表現力を身につける。 * 発表の講評をもとに,テーマ設定を振り返り,本発表に向けての方針を立てる。			
	12	研究の続き	* 各研究班のテーマに基づき,実験等を行う。 * 実験等の結果を考察し,再度課題解決のためのテーマを設定し,研究を進める。			
3 学期	1	研究の続き 本発表ポスターの作成	* 各研究班のテーマに基づき,実験等を行う。 * 実験等の結果を考察し,再度課題解決のためのテーマを設定し,研究を進める。 * A0 判の本発表ポスターを作成する。 * 発表原稿を作成し,本発表時の役割分担を行う。			
	2	ポスターセッション 本発表	* 作成したポスターを用いて本発表を行い,聴衆の前で決められた時間でプレゼンテーションを行う。 * 発表の後の質疑応答に答えられるような思考力・判断力・表現力を身につける。 * 発表の講評を踏まえて,最終的な論文作成を行う準備をする。	ポスター 発表内容	ポスター 発表内容	ポスター 発表内容
	3	論文の作成	* 科学論文の書式を学び,論文を作成する。 * タイトルやアブストラクトの書き方から,実験方法,結果・考察,引用文献の書式まで論文を書く上での基本的な技術を身につける。	論文	論文	論文

担当者からのメッセージ(学習方法など)

自分たちでテーマを決め 4 人班で 1 年間かけて行う理数探究は、理数科の授業の中でも中心となる学習活動です。この授業ではテーマの設定から実験の実施、結果のまとめやポスターセッションでの発表、そして論文作成まで、教科書の枠を超えて自分たちで調べて学習に粘り強く取り組む必要があります。班活動で行いますから、お互いのコミュニケーションや役割分担も重要になってきます。発表する際のルールや方法について知ることも必要です。道のりは長いですが、自分たちの研究を進めていく中で、問題に立ち向かい、自ら進んで学習する大切さを学ぶことができるでしょう。